

30113 ✓

教科書文庫

3
290
41-1891
20000 63447

M24

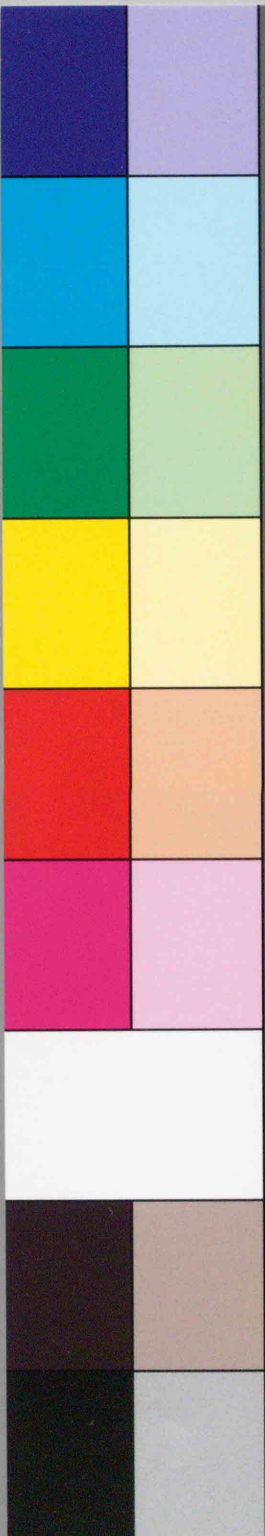
Kodak Gray Scale

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

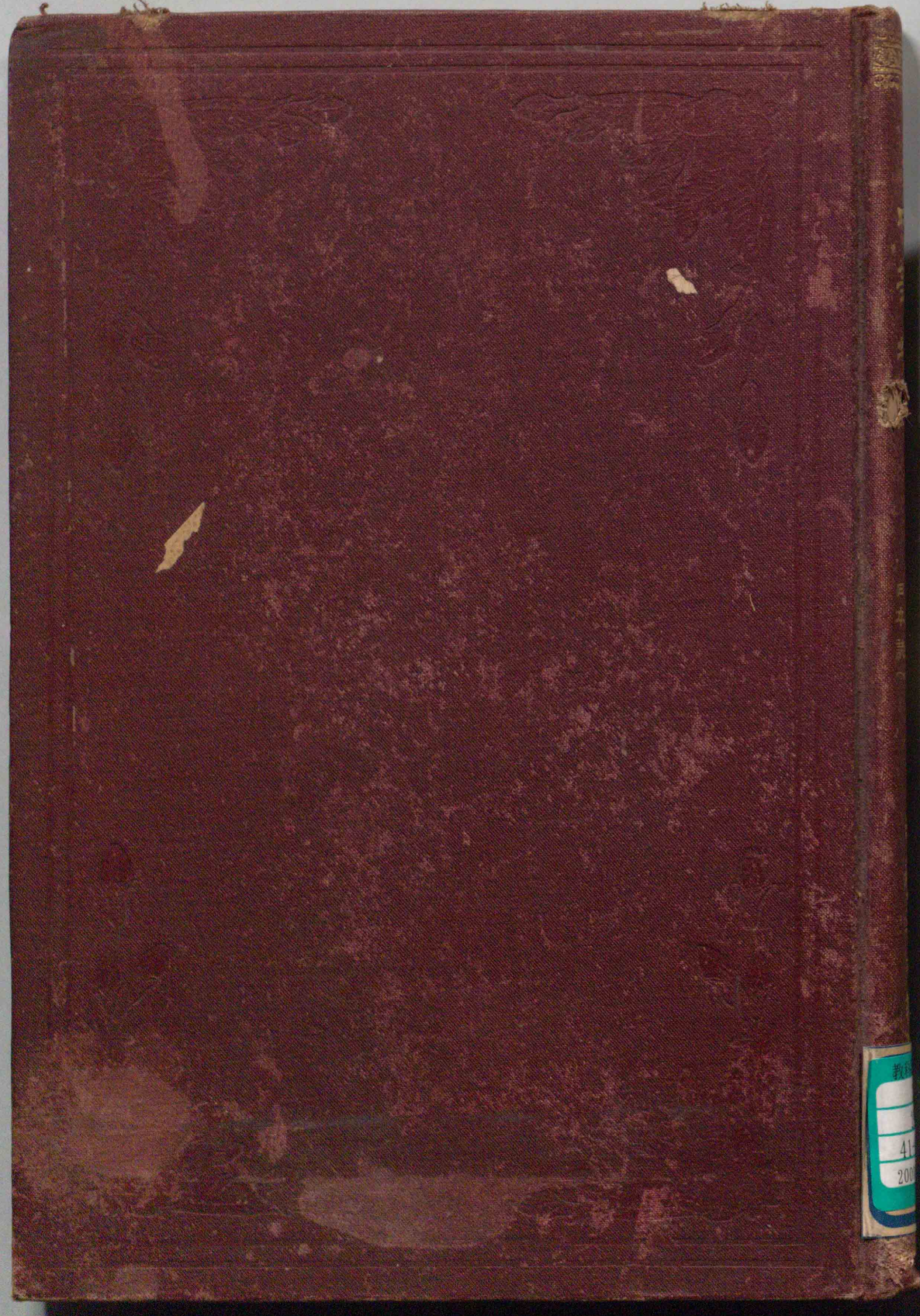
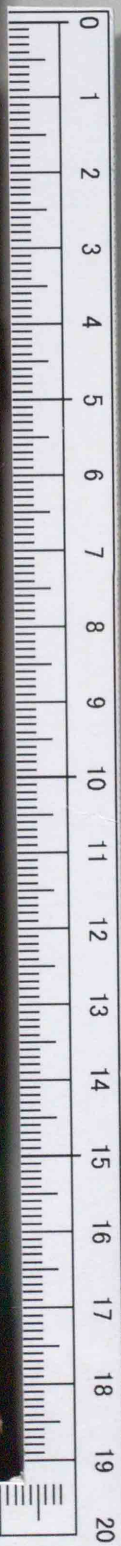


© Kodak, 2007 TM: Kodak

Kodak Color Control Patches



© Kodak, 2007 TM: Kodak



資 料 室

教科書文庫
3
290
41-1891
2000063447



375.9
Na 11

明治廿四年
三月廿四日

文部省檢定濟教科用書

三月廿四日
觀音寺

文淵閣藏書

中村五六編纂

中等地理

地理學
日本誌一

東京

文學

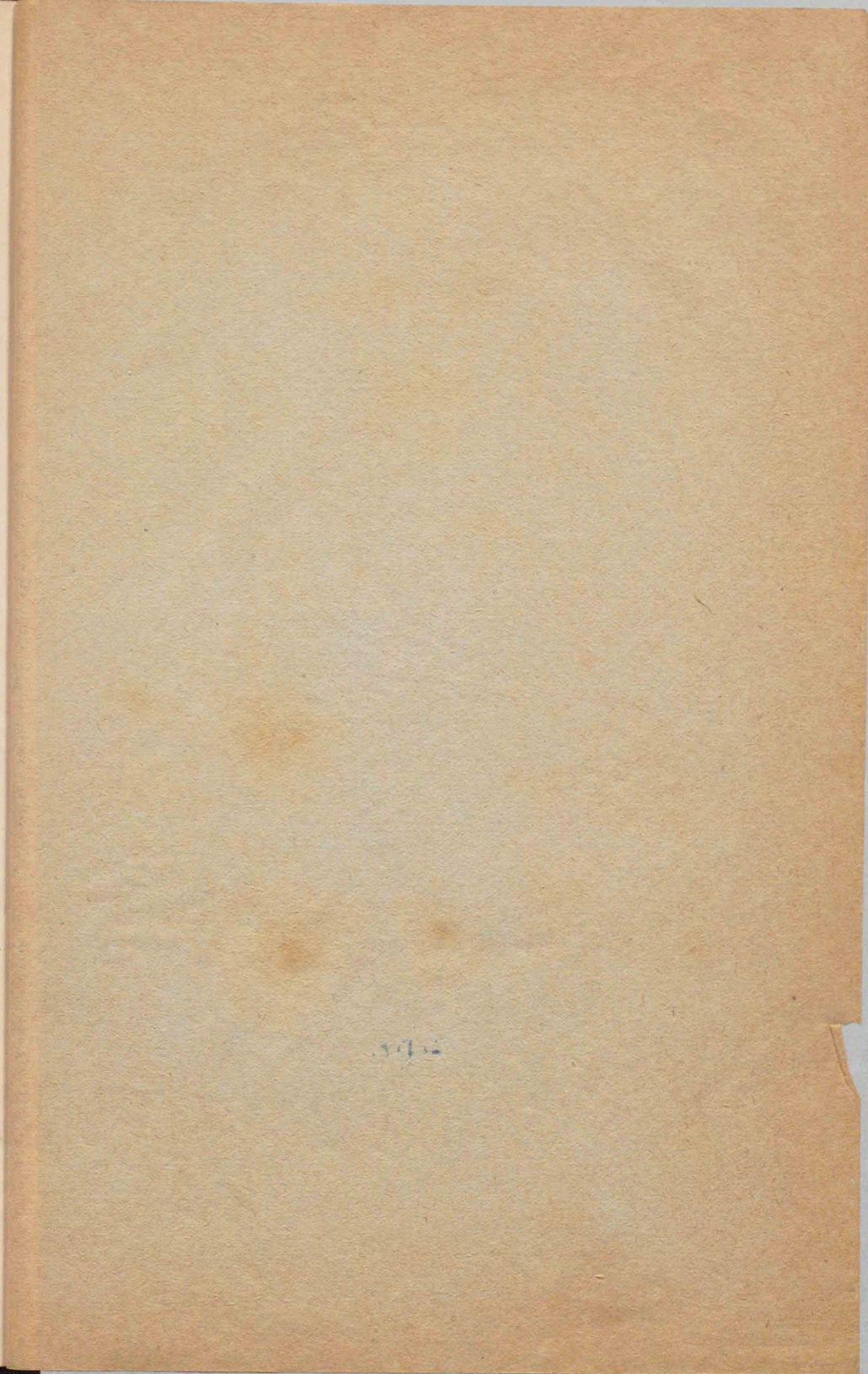
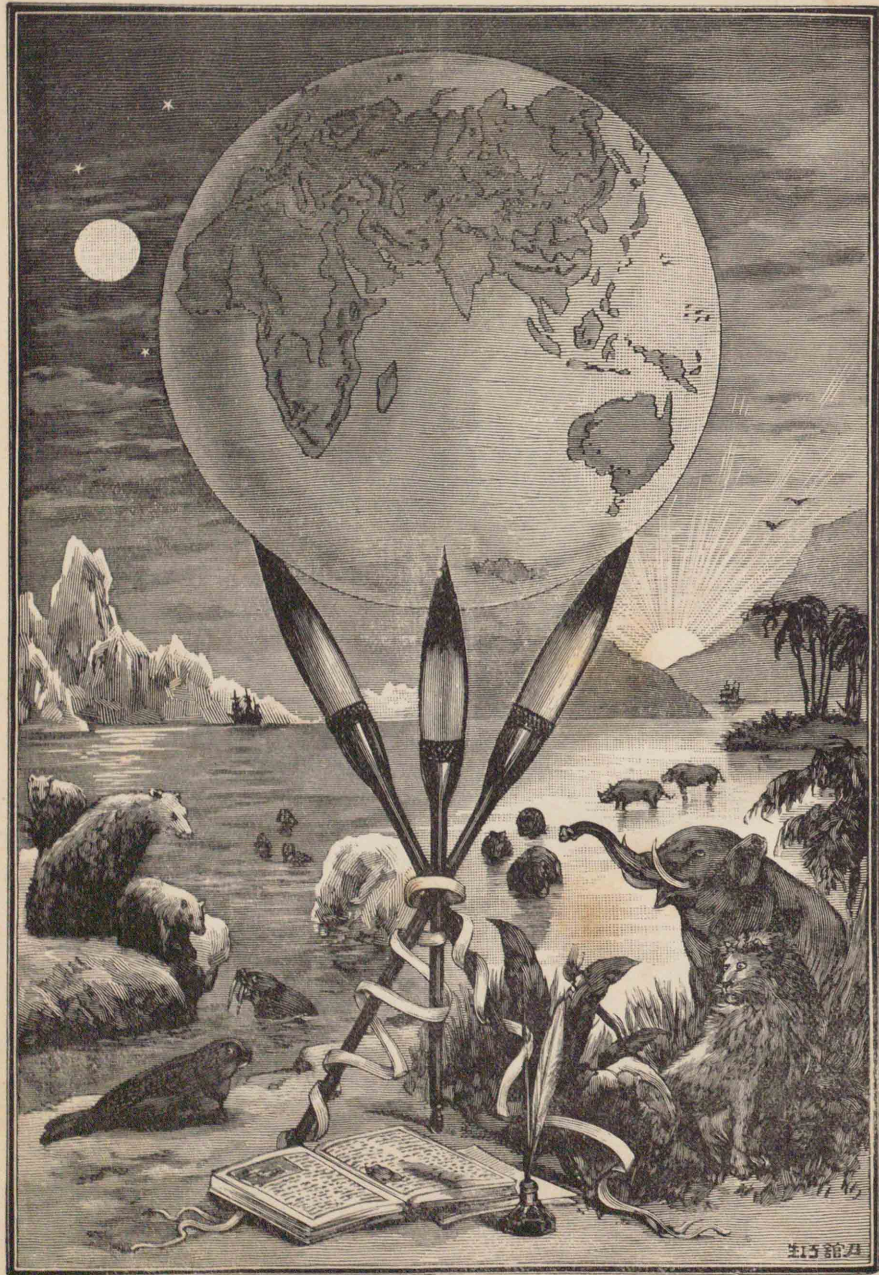
社



広島大学図書

2000063447





中等地理 地理學 日本誌一

目次

第一編

地理學

一 數理地理學一班

(一) 地球ノ形狀及尺度

(二) 方位

(三) 地球ノ自轉 晝夜ノ變更

(四) 地球ノ公轉 四季ノ推移 晝夜ノ長短

(五) 五帶

(六) 經度及緯度

二 自然地理學一班

(一) 陸及水
 (二) 陸ノ區別
 (三) 地面ノ變動
 (四) 水ノ區別
 (五) 海水ノ運動
 (六) 大氣
 (七) 風
 (八) 雨
 (九) 氣候
 (一〇) 植物
 (一一) 動物
 (一二) 人類及人種

目次終

第二編

日本誌一

一 總論

二 畿内

三 政治地理學一斑

(三) 鑛物

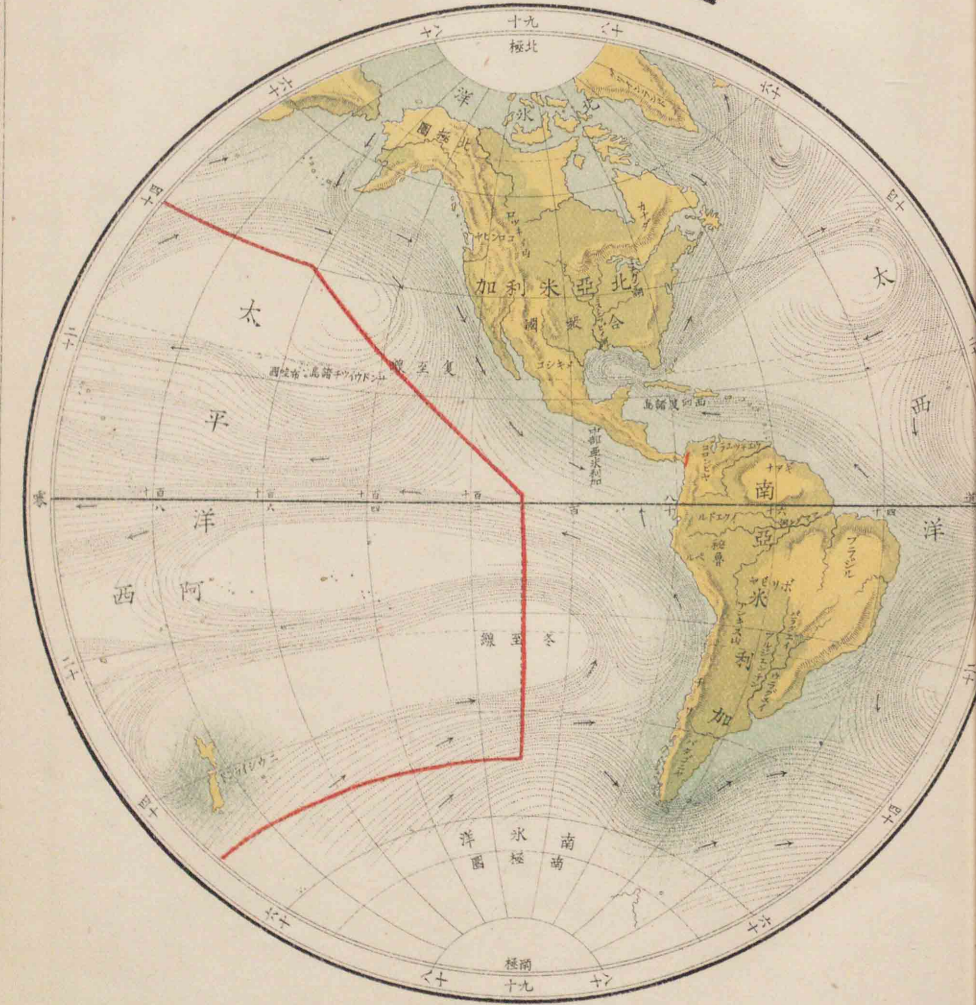
(一) 各國民ノ生業

(二) 文明ノ等級

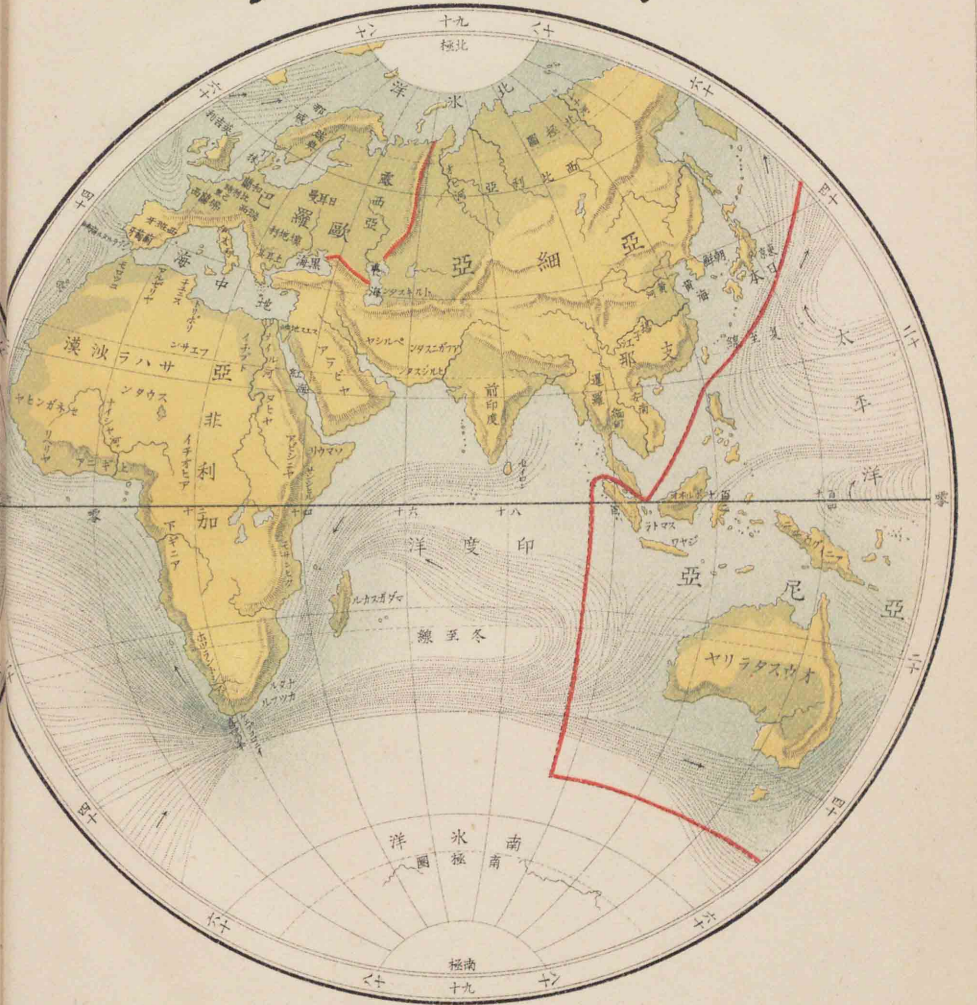
(三) 宗教

(四) 政體

西 半 球



東 半 球



中等地理

地理學

中村五六 編纂

第一編

地理學

地理學トハ人類ノ住處トシテ此地球ヲ論シ、吾人ノ生活ニ關シテ地球表面萬般ノ事實ヲ講究スルノ學問ナリ、詳言スレハ、地理學ハ土地・海洋・空氣ノ諸現象及人類・禽獸・蟲魚・草木・礦物等ノ播布如何ヲ覈明スルノ學問ナリ、抑吾人ハ陸地ニ住息シ、海洋ヲ航行シ、空氣ヲ呼吸シ、動物・植物ヲ衣食スルモノナレハ、吾人ノ生存快樂ハ、直接間接ニ此等ノ外物ニ支配セラレ、ハ吾人ノ熟知スル所ナリ、サレハ此等ノ事物ヲ論究スル地理學ヲ勉強スルハ、人間ノ缺ク可ラサル一大要務タルコト復

タ論ヲ俟タサルナリ、

前ニ述ヘタル如ク、地理學ハ、其範圍ニ異種異類ノ事物ヲ包括スルカ故ニ他諸般ノ學科ト交渉シ、之ヲ講究スルニ方リテ亦此等諸學科ノ助力ヲ資ラサルヘカラス、依テ便利ノ爲メ、其交渉スル所ノ學科ニ據リ通常ハ之ヲ類別シテ左ノ三分科トナス、

(1) 數理地理學 (Mathematical Geography.)

此分科ハ地球ノ形狀・尺度・運動及四季晝夜ノ變化、並ニ地球表面各地ノ位置ヲ確定スル方法ヲ論スルモノトス、

(2) 自然地理學 (Natural Geography.)

此分科ハ陸海ノ自然ノ區別、空氣・氣候、並ニ各地動物・植物及礦物ノ播布ヲ論スルモノトス、是即テ現今地文學 (Physical Geography or Physiography.) ト稱スルモノニシテ、地理學中ニ於テ最モ重大

ノ地位ヲ領スルモノナリ、

(3) 政治地理學 (Political Geography.)

此分科ハ各邦國ノ位置・境界・住民開化ノ程度、政體・風俗・宗教・言語等ヲ論スルモノナリ、

一 數理地理學一斑

(一) 地球ノ形狀及尺度

試ニ茫漠タル平原ニ直立シ、眼ヲ放テテ四周ヲ觀望セハ、吾人カ棲息スル地球ハ一直線ニ四方ニ延長シテ遙ニ雲際ニ接シ、恰モ廣大無邊ナル一大平板狀ノ物體ナル觀貌ヲ呈スヘシ、然レトモ是全ク空觀ニシテ、其實地球ハ球ニ類スル一大圓體ナリトス、サレハ何故ニ吾人ノ眼ニハ平坦ナル如クニ見ユルカナヲ尋ヌルニ、地球ハ其表

面、彎曲ナナセリト雖モ、其傾斜ノ割合、甚タ緩徐ニシテ、地球ノ一億分ノ一ニモ當ラサル至微至小ナル吾人ハ、之ヲ認識スルコト能ハ



地球

サルニ因ルナリ、
地面ノ彎曲セル證ヲ知ルハ
難事ニアラス、試ニ曩ニ吾人
カ直立觀望セル位置ヲ高ム
ルコト若干尺ニシテ、更ニ四
周ヲ觀望セハ、吾人ノ眼界ヲ
限ル所ノ圓圈即チ地平線ハ
數里外ニ擴張シ、眼界頓ニ闊
大トナルヘシ、吾人ノ立點愈、
高マレハ眼界ハ愈、擴マル、地

面果シテ平坦ノモノナランニハ眼界ハ最初ヨリ天外無限ニシテ、
立點ノ高低ニ準シ次第ニ闊大トナルノ理ナカルヘシ、然ルニ斯ク
狹闊ノ差ヲ生スルハ必竟スルニ地面彎曲シテ、遠方ノ地ハ地平線
以下ニ斜落隱没スルニ由ルナリ、
眼界ノ狹闊ハ全ク吾人立點ノ高低ニ準スルコト前ニ述ヘタル所
ノ如シ、是地球上何レノ所ニ在リテモ皆然リトス、サレハ地球ノ表
面ハ處トシテ彎曲ナラサルコトナキヤ明瞭ナリ、而シテ其彎曲ノ
割合モ各處殆ト齊一ナリト云フ、今斯ク齊一ノ曲線表面ヲ有スル
モノハ圓體ニ限ルトハ數學上ノ確說ナレハ、則チ地球ノ圓體ナル
コト更ニ疑ヲ容ル、所ナシ、
其他月蝕ノ時、月面ニ映スル地球ノ影、常ニ圓形ヲ現ハシ、又東西地
ヲ隔ツルニ從ヒ、太陽ノ出沒、其時ヲ同ウセス、例ヘハ長崎ハ東京ニ

比シ、其出沒時ニ三十九分三十二秒ノ差アルカ如キモ、即チ亦地球ノ圓體ナルヲ證スルニ足ルヘシ、
 今日ニ在リテハ地球ノ圓體ナルコトニ就キテ疑ヲ抱クモノナシト雖モ、人智未開ノ昔時ニ在リテハ地球ヲ平面的ノ物體ト誤認シ、四周ノ大洋ハ際限ナク天外ニ延長シテ、鬼神怪物之ニ住シ崇ヲ爲ス等種々ノ妄想附說ヲ逞シウセリ、曾テ西曆紀元前二百年ノ比、アレキサンドリアノ書籍館長ニエラトスセニース(Eratosthenes)ト云ヘル人アリ、月蝕ヲ觀察シテ地球ノ圓體ナルコトヲ發見セシト雖モ、其說何時カ人類ノ腦裡ヨリ遺脱シテ後世ニ傳ハラズ、從テ十五世紀(西曆以下之ニ倣フ)ノ末ニコロンブス(Columbus)氏カ地球ノ圓キコトヲ唱ヘ、發見ノ航海ヲ西班牙王ニ進說セシトキニモ、國中ノ識者ハ大ニ疑訝ノ念ヲ懷キ之ヲ拒ミタリ、然レトモ間モナク新世

界ノ發見アリ、尋テ西班牙王ヨリ發遣セシマゼラン(Magellan)氏ノ艦隊世界ヲ一週シテ歸航(千五百二十二年)セシヨリ、地球ノ圓體ナルコト世界一般ニ信用セラル、ニ至レリ、
 前陳ノ如ク地球ハ圓體ナレトモ、南北ノ兩端稍扁平ニシテ完全ノ圓體ニアラス、即チ扁圓體ナリ、是振子ノ振動ニ依リテ證明スルヲ得ルナリ、蓋シ振子ハ地球中心ヨリノ遠近ニ準シテ、其振動ニ遲速ヲ生スルモノナルニ、兩極地方ニ在リテハ其振ルコト赤道直下ヨリ急速ナリ、サレハ兩極地方ハ扁平ニシテ赤道直下ニ比シ較、地球ノ中心ニ接近スルモノト斷定セラル、現時測定セル所ニ據レハ、南北ノ直徑ハ七千八百九十九哩、東西ノ直徑ハ七千九百二十五哩二分ノ一ニシテ、平均大約直徑八千哩、七千九百十六哩、周圍二萬五千哩、二萬四千八百九十九哩、面積ハ二億平方哩、一億九千七百萬方哩

ト記憶シテ可ナリ、

(二) 方位

地球表面各處相互ノ方位、假令ハ甲處ハ乙處ノ何レノ方位ニアル
カヲ説クニハ、其基本タルヘキ一定ノ方位ナカルヘカラス、斯ル方
位ヲ基本方位ト云フ、基本方位ハ即チ東西南北ノ四點ニシテ、太陽
ノ昇ル方位ヲ東トシ、没スル方位ヲ西トス、東ニ面シテ吾人ノ左ヲ
北ト云ヒ、右ヲ南ト云フ、
是ハ方位ヲ求ムル簡便ナル方法ノ一ニシテ、此他尙ホ二三ノ方法
アリ、假令ハ吾人カ熟知スル北極星ハ地球ヨリ正北ノ方位ニ當リ、
春夏秋冬一定ノ天位ヲ守リ決シテ移動スルコトナシ、故ニ北極星
ノ方向ハ即チ北、北ノ反對ハ南ニシテ、北ニ面シ直立スレハ吾人ノ
右ハ東、東ノ反對ハ即チ西ナリトス、

北極星ハ航海上最モ必要ノ星ニシテ、磁針ノ發明以前ニ在リテハ
航海者カ其位置方向ヲ求ムルニ頼ミトセシモノハ唯此星ノミニ
限レリ、方位ハ又磁針ヲ以テ知ルコトヲ得ト雖モ、磁針ノ指ス方位
ハ正北ニアラス、且ツ各地等シカラスシテ多少偏倚スルモノトス、
方位ハ東西南北ノ四點ヲ以テ基本トスレトモ、基本方位ノミニテ
ハ尙ホ不足ナルヲ以テ、更ニ中間方位ナルモノヲ設ク、即チ北ト東
トノ正中ヲ北東ト云ヒ、南ト東トノ正中ヲ南東ト云ヒ、南ト西トノ
正中ヲ南西ト云ヒ、北ト西トノ正中ヲ北西ト云フ、

(三) 地球ノ自轉

晝夜ノ變更

天ハ動キ地ハ靜止ストハ往時普通ノ定説ニシテ、今日ニ至ルマテ
太陽ノ昇降又ハ出沒等ノ用語ニ於テ其痕跡ヲ留メタリ、然レトモ
コパーニカス (Copernicus)・ケプラー (Kepler)・ニュートン (Newton) 等

ノ大家輩出シテヨリ今日ニ於テハ、天動ノ舊說全ク破壊シ、地動ノ
說愈確定シ、復タ撼カスヘカラサルモノトナレリ、地動トハ地球カ
自ラ運動スルノ謂ニシテ、此運動ニ二様アリ、自轉・公轉是ナリ、
自轉ノコトヲ論スルニハ地理學ニ於テ便利上ノ所作ニ出テタル
地軸・地極・赤道等ノ假定物ヲ説カサルヘカラス、
却說地球ハ南北ノ兩端ニ於テ稍扁平ナルコトハ、前ニ述ヘシ所ナ
リ、今地球ノ中心ヲ經テ此扁平ナル兩端ニ想像上ノ一直線ヲ串通
セハ、是即チ地軸ニシテ地軸ノ北端ヲ北極ト云ヒ、南端ヲ南極ト云
フ、南北兩極ヨリ同一ノ距離ニ於テ地球ノ周圍ニ一圈ヲ畫シタル
モノヲ赤道ト云フ、而シテ赤道ニ於テ假ニ地球ヲ截斷シテ、北ノ一
半ヲ北半球ト稱シ、南ノ一半ヲ南半球ト云フ、
地球ハ其地軸ニ依リテ西ヨリ東ニ向ヒ、間斷ナク回轉ス、此回轉ヲ

自轉ト稱シ、一回轉ノ時間ヲ一晝夜即チ二十四時間トス、
抑、太陽ハ圓體ナル地球ノ天上ニ麗リ、光ト熱トヲ發射スルモノナ
レハ、地球ノ上半面ヲ照ストモ同時ニ下半面ヲ照スコト能ハス、詳
說スレハ、地球ノ太陽ニ向ヘル半面ハ常ニ晝ニシテ、之ニ背ケル半
面ハ常ニ夜ナリ、サレト地球ハ絶エス東西ニ自轉スル故ニ、其向背
兩面ハ新陳代謝シテ、甲地晝トナレハ乙地夜トナリ、一去一來互ニ
循環往來シテ際限アルコトナシ、從テ地上晝夜ノ變更ヲ生ス、若シ
地球ニ此自轉ナカリセハ、太陽ニ向ヘル半面ハ常ニ晝ニシテ、之ニ
背ケル半面ハ永世無期ノ長夜ヲ見ルコト疑ナカルヘシ、
晝夜ノ變更太陽ノ出沒ハ地球ノ自轉ヨリ生スル結果ニシテ、太陽
ハ常ニ一定ノ天位ヲ守リ決シテ移動スルコトナシ、然ルニ太陽ハ
朝ニ東天ニ昇リ夕ニ西方ニ沒スル如キ、外觀ヲ呈スルハ何故ナル

十二
カヲ尋ヌルニ、凡ソ運動ノ真相ハ事物相互ノ位置變動ニシテ、主ナル我ノ進行ハ客ナル彼ノ却歩ト同一ノ相貌ヲ呈スルモノナリ、是ヲ以テ吾人ハ往々其主客ヲ誤認轉倒スルコトアリ、假令ハ汽車汽船ニ乘シテ遠方ヲ眺ムレハ、吾人ノ進行ヲ見スシテ却テ山峯ノ退却スルヲ視ルカ如シ、若シ進行ノ速力愈疾ニシテ、且ツ外物ノ軋轉愈少ケレハ主客誤認ノ患益多シ、今縱テ夫ノ自轉ノ狀態ヲ察スルニ、地球ハ吾人ヲ圍繞スル大氣ト共ニ、獨リ宇宙ノ眞虛ニ懸リテ回轉スルモノナレハ、素ヨリ外物ト軋轉シテ震動ヲ生シ、又ハ音響ヲ發スルニ由ナシ、而シテ其運動ノ速力モ亦赤道ニ於テハ一晝夜二萬五千哩即チ一時間一千哩以上ノ驚クヘキ割合ナレハ、吾人カ主客ヲ轉倒シテ、之ヲ太陽ノ運動ト誤認スルモ亦深ク咎ムルニ足ラサルナリ、

地球自轉ノ證據數多アレトモ、其形狀兩極稍扁平ニシテ赤道ノ周圍最モ大ナル事實ノ如キモ亦地球ノ自轉スル一證ナリ、何トナレハ地球ハ地軸ニ依リテ回轉スルヲ以テ、其速度赤道ニ於テ最モ大ニ南北兩極ニ近ツクニ從ヒ漸ク減少スヘケレハ、赤道ニ於ケル遠心力、最モ強大ニシテ該部ノ膨脹スヘキハ自然ノ勢ナレハナリ、

(四)

地球ノ公轉

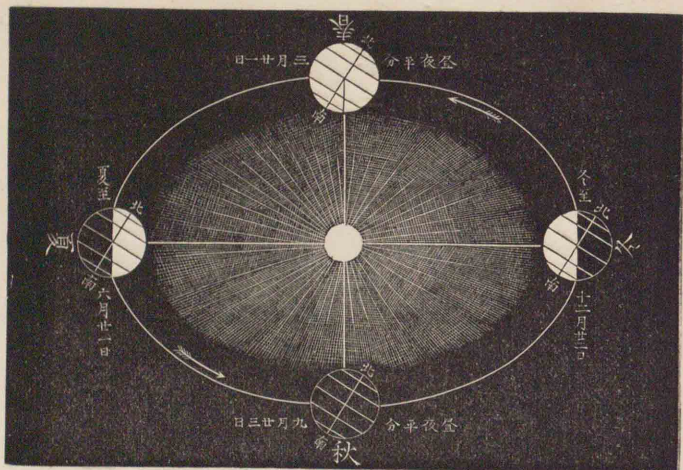
四季ノ推移
晝夜ノ長短

地球ハ自轉ヲナスト同時ニ、又太陽ノ周圍ヲ運行ス、之ヲ公轉ト稱ス、公轉ノ線路ハ橢圓圈ニシテ軌道ト名ツク、其軌道ヲ一周スル時間ハ一年即チ三百六十五日四分ノ一ナリ、公轉ニ依リテ地球ニ生スル結果ハ四季ノ推移及晝夜ノ長短トナス、之ヲ説明スルニハ先ツ地軸ト軌道ノ關係竝ニ日光發射ノ工合ヲ開示スルヲ必要トス、地球カ軌道ヲ運行スルハ、地軸ト軌道ノ平面ト六十六度半ノ交角

十四
ヲ以テスルモノナリ、抑、地軸ノ方針ハ終歲同一ニシテ地球カ軌道
ノ何レノ點ニ在ルニ係ハラス互ニ並行線ヲナスニ依リ、地軸ト軌
道ノ平面トノ交角ハ一定不變ノモノタリ、斯ノ如ク地球ハ常ニ軌
道ノ平面ニ對シ、六十六度半ノ交角即チ直立ヨリ傾クコト二十三
度半ノ姿勢ニテ、軌道ニ立テ運行スルヲ以テ、地球カ軌道ノ某點ニ
在ルトキハ、北極ハ軌道ノ内方即チ太陽ノ方ニ傾キ、南極ハ太陽ノ
外方ニ傾クヘシ、此點ヲ經過シ次第ニ軌道ヲ沿行シテ之ト對向ス
ル點ニ達スレハ、其方向全ク反對ニシテ、南極ハ太陽ノ方ニ傾キ、北
極ハ太陽ノ外方ニ傾クヘシ、而シテ此二點ヨリ同距離ノ中途ニ在
リテハ兩極共ニ太陽ノ方ニ傾カス、又其外方ニ傾カス、恰モ正中不
偏ノ位置ヲ守ルヘシ、
却說日光ノ地球ニ發射スルハ如何ニト尋ヌルニ、太陽ハ一定ニ軌

道ノ中心ニ位置ヲ占ムルモノナレハ、地球若シ軌道ニ直立シ即チ
軌道ノ平面ト地軸ト九十度ノ交角ヲナシ運行シタランニハ、日光
ハ終歲赤道ニ直射スヘキモノナレトモ、前ニ陳ヘタル如ク六十六
度半ノ交角ヲナシ、斜ニ立テテ運行スルカ故ニ、日光ハ地球カ軌道
ニ於テ守ル所ノ位置如何ニ依リ、或ハ赤道ニ或ハ赤道ノ南ニ或ハ
其北ニ直射ス、即チ北極、太陽ノ方ニ傾斜スルトキハ赤道以北ニ直
射シ、太陽ノ外方ニ傾斜スルトキハ赤道以南ニ直射ス、而シテ南北
ノ兩極、太陽ニ對シテ正中不偏ノ位置ヲ守ルトキハ、日光ハ正シク
赤道ニ直射ス、
夫レ地球表面溫熱ノ本源ハ太陽ナレハ、日光ノ直射スルト傾射ス
ルトニ由リテ、地上寒暑ノ變化ヲ生スルハ自然ノ勢ナリ、其故如何
トナレハ、假令ハ幅員一寸平方ノ光線ハ直射スルトキハ同幅員ノ

地面ヲ熱スルニ止ルト雖モ、斜ニ注射スレハ之ニ數倍若クハ數十倍ノ地面ヲ熱スルヲ得ルヲ以テ、其勢力之ニ比例シテ減少スヘキハ物理學上ノ元則ナリ、サレハ日光赤道以北ニ直射スルトキハ、北半球ハ熱クシテ夏トナリ、南半球ハ寒クシテ冬トナル、若シ赤道以南ニ直射スレハ、南半球ハ夏トナリ、北半球ハ冬トナル、若シ又赤道ニ直射スレハ、南北兩半球ノ溫熱均一ニシテ春秋ノ季節ヲ生ス、更ニ四季ノ推移ト晝夜長短ノ變化トヲ左ニ詳説セン、
 地球ノ兩極太陽ニ對シテ正中不偏ノ位置ヲ守ルトキハ、日光赤道ニ直射スルコトハ前已ニ之ヲ述ヘタリ、是一年中僅ニ三月二十一日、九月二十三日ノ兩日アルノミ、此二日ハ晝夜平分(俗ニ稱スル彼岸ノ中日)ニシテ世界各國晝夜長短ナシ、今假ニ三月二十一日ニ地球ノアル所ヲ以テ公轉發程ノ點トスレハ、此日以後ハ北極日々太



四季及晝夜變化ノ圖

陽ニ向ヒ、北半球ノ晝ハ次第ニ長カマリ、南極ハ太陽ヨリ退却ス、遂ニ六月二十一日ニ至レハ太陽ハ赤道ノ北二十一度半ノ直上ニ達シ、北極ノ背後二十度半マテヲ照ス、之ニ反シテ南極ヨリ二十三度半マテハ全ク日光ヲ見ス、此日北半球ニアリテハ太陽ノ照面最モ廣ク、晝長ク夜短シ、而シテ南半球ニ在リテハ全ク之ト反對ス、是北半球ノ夏季ニシテ南半球ノ冬季ナリ、

六月二十一日ヨリ以後ハ北極ハ日々太陽ヨリ退却シ、北半球ノ晝ハ次第ニ短縮シテ南極太陽ニ向フ、而シテ太陽ハ南ニ回歸ス(實ハ

赤道太陽ノ直下ニ向ヒテ進行ス、九月二十三日ニ至レハ太陽赤道
 ノ直上ニ達シ晝夜平分トナル、是北半球ノ秋季ニシテ南半球ノ春
 季ナリ、
 更ニ進ミテ十二月二十一日ニ至レハ、太陽ハ赤道ノ南二十三度半
 ノ直上ニ達シ、南極ノ背後二十三度半マテヲ照シ、北極ヨリ二十三
 度半マテハ全ク日光ヲ見ス、此日南半球ニ在リテハ太陽ノ照面最
 モ廣ク晝長ク夜短シ、而シテ北半球ハ全ク之ト反對ス、是北半球ノ
 冬季ニシテ南半球ノ夏季ナリ、
 十二月廿一日ヨリ南極ハ日々太陽ヨリ退キ、北極太陽ニ向ヒ、太陽
 ハ北ニ回歸ス、三月廿一日ニ至レハ太陽ハ赤道ノ直上ニ出沒シ晝
 夜平分トナル、是北半球ノ春季ニシテ南半球ノ秋季ナリ、是ニテ地
 球ハ其發程點ニ歸リ軌道ヲ一周セルモノトス、

三月廿一日ヨリ九月廿三日マテハ北極ハ多少太陽ノ方ニ傾向ス
 ルヲ以テ、日光ハ北極ヲ越エ其背後マテヲ照セトモ、南極地方ニ達
 スルコト能ハス、從テ此半年間ハ北極地方ハ常ニ晝ニシテ、南極地
 方ハ夜ナリ、是ヨリ三月廿一日マテハ全ク之ト反對ニシテ、南極地
 方ハ常ニ晝、北極地方ハ常ニ夜ナリ、サレハ兩極地方ニ在リテハ半
 年ハ晝、半年ハ夜ニシテ一年僅ニ一晝夜アルモノト知ルヘシ、

(五) 五帶

地軸ハ軌道ノ平面ト六十六度半ノ交角ヲナス、即チ直立ヨリ傾斜
 スルコト二十三度半ナルヲ以テ、日光ハ決シテ赤道ノ南北各二十
 三度半以外ニ直射スルコトナク、太陽一旦其直上ニ來ルトキハ乍
 ナ又赤道ノ方ニ向ヒテ回歸スルモノナリ、因テ赤道ノ南北各二十
 三度半ノ所ニ一圈ヲ繞ラシ、北ニアルモノチ北回歸線又夏至線ト

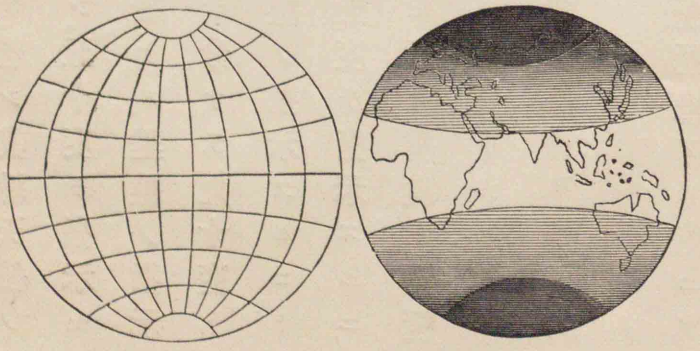
云ヒ、南ニアルモノヲ南回歸線又冬至線ト名ツク、南北兩半球共ニ其最短日ニ在リテハ、地極ヨリ二十三度半マテノ所ニ於テハ日光ヲ見ルコト能ハス、茲ニ又一圈ヲ繞ラシ、北ノ圈ヲ北極圈、南ノ圈ヲ南極圈ト名ツク、南北ノ極圈ト回歸線トニ依リテ、地球ノ表面ハ自ラ五區ニ分畫セラル、此區ヲ五帶ト名ツク、各帶ノ寒暖著シク差異アリ、因テ之ヲ寒帶、暖帶及熱帶ニ區別ス、寒帶ハ兩極ヨリ極圈ニ至ル二十三度半ノ間ニシテ、北ニ在ルヲ北寒帶ト云ヒ、南ニ在ルヲ南寒帶ト云フ、暖帶ハ極圈ヨリ回歸線ニ至ル四十三度ノ間ヲ占ム、寒帶ト同シク南暖帶、北暖帶ノ別アリ、熱帶ハ兩回歸線ノ中間四十七度ヲ占ムルモノトス、

五帶ノ別ハ固ヨリ想像上ニテ設ケタルモノナレトモ、其氣候、動物、植物等ニ於テ各自大ニ其趣ヲ異ニスルモノアリ、

(六) 經度及緯度

地上各所ノ位置ヲ確メシ爲メ、地球表面ニ假リニ縱横ノ兩線若干ヲ畫ク、之ヲ緯度線、經度線ト稱ス、

緯度線トハ赤道ト並行ニ地球ニ繞ラセル圈ニシテ、其數南北兩半球ニ各九十條アリ、緯度線ハ兩極ニ近ツクニ從ヒテ漸ク小圈トナル、然レトモ其距離ハ稍伸長ス、是地球ハ兩極地方ニ於テ扁平



經緯線

五帶

ニシテ、赤道ノ直徑ハ兩極ノ直徑ヨリ長キニ由ル、凡ソ一地方ノ緯度ヲ測ルハ、其處ニ於テ地平面ニ垂線ヲ立テ、若シ其線天位ノ三十度ヲ指示セハ以テ其地ノ緯度ヲ三十度トシ、五十度ヲ指示セハ以テ五十度トス、又天位ノ度ハ地球ノ赤道ニ於ケル垂線ノ指示セル點ト極ニ於ケル垂線ノ指示セル點トノ間ヲ分ケテ九十度トセルモノナレハ、今極邊ニ於テ兩垂線ヲ立テ、其線ノ指示スルコト天位ノ五度ナリトセンニ、赤道邊ニ於テ同シク五度ヲ指示スルニハ兩線ノ距離一層短縮スヘシ、之ニ由リテ赤道ニ近キ緯度ト兩極ニ近キモノトハ、度ハ等シク一ツナルモ其距離ハ相異ナルヲ知ルヘシ、緯度ノ算法ハ赤道ヲ基線トシ、之ヲ零度ト數ヘ、南北兩方ニ向ヒテ南緯幾度北緯幾度ト算スルモノナリ、地軸ノ兩極ヲ一直線ニ延長セシ天位ニハ兩極星アリ、南ニアルヲ

南極星ト稱シ、北ニ在ルヲ北極星ト云フ、此兩星ハ赤道ニ在リテ之ヲ觀レハ大洋ノ水平面ニ現ハル、赤道ヨリ北ニ向ヒテ旅行スレハ、南極星ハ水平面下ニ没シ、北極星ハ次第ニ水平面上ニ高マリ、竟ニ北極ニ至レハ恰モ其直上ニ位ス、南ニ向ヒテ旅行スレハ南極星亦然リ、故ニ某地ノ緯度ヲ知ラント欲セハ、角度計ニテ此星ヲ測ルヘシ、若シ南極星水平面ヨリ高キコト一度ナラハ、其地ハ即チ南緯一度ニ當リ、北極星水平面ヨリ高キコト一度ナラハ、北緯一度ニ位ス、假令ハ東京ニテ北極星ヲ觀測スレハ水平面ヨリ高キコト三十五度四十一分ナリ、即チ東京ハ北緯三十五度四十一分ニ位スルモノト知ラル、經度線ハ緯度線ト直角ニ南北ニ畫ケル線ニシテ其數都テ三百六十アリ、

經度線ハ皆同大ノ圈ニシテ其中心ハ地球ノ中心ニ集リ其圈ハ兩極ニ於テ一ニ合ス、故ニ其距離兩極ニ近ツクニ從ヒテ、漸ク短ク終ニ皆無ニ歸ス、

經度ノ起算點ハ區々ニシテ緯度ノ如ク一定ナラス、然レトモ現今ハ通常英國綠林ノ經度線ヲ基トシ、之ヲ零度ト數ヘ之ヨリ東西兩方ニ向ヒ、東經幾度、西經幾度ト算シ、東西共ニ百八十度マテヲ限トス、同經度ニアル地方ハ正午皆同時ニ來ル、故ニ經度線ヲ稱シテ子午線トモ云フ、

經度ノ數ハ三百六十ニシテ、地球ハ西ヨリ東ニ向ヒ二十四時間ニ一回轉スルヲ以テ、甲乙兩地經度ノ差一度ナルトキハ、其正午ニ三百六十分ノ二十四時即チ四分間ノ前後アルヘキナリ、從テ各地時間ノ差ヲ知ルトキハ、其經度ノ差ヲ算出スルコト容易ナリ、假令ハ

某地ノ正午、綠林ノ正午ヨリ早キコト四分間ナラハ、其地ハ東經一度ニ當リ、遲キコト四分間ナラハ西經一度ニ當ルナリ、

二 自然地理學一斑

(一) 陸及水

地球ノ表面ハ陸ト水トノ二者ヨリ成立ス、而シテ水ハ殆ト其四分ノ三(一億四千四百萬方哩)ヲ占メ、陸ハ僅ニ四分ノ一(五千三百萬方哩)ヲ占ム、

水ト陸トノ自然ノ配置ハ全ク偶然ニ出テ一定ノ規律ナシ、但シ水ハ南半球ニ多クシテ陸ハ北半球ニ多シ、地球上全陸地ノ四分ノ三ハ實ニ北半球ニ在リ、

陸ハ概シテ東西ノ二大彙ヲナス、其東ニ在ルモノヲ舊世界ト稱シ、

西ニ在ルモノヲ新世界ト稱ス、地球ノ表面ハ創造ノ始メヨリ今日ノ如キ有様ナリシヤ、陸水氣ノ三界ハ如何ニシテ發生セシヤハ、固ヨリ今日ニ於テ確知シ能ハサル所ナリ、サレト現時學者ノ推測ニ據レハ、地球ハ其始メ吾人カ想像ノ及ハサル程、非凡高度ノ熱ヲ有スル氣體ナリシカ、宇宙ニ浮游シテ冷氣ニ襲ハレ、漸ク其熱度ヲ失ヒ一部ハ液體トナリ、尋テ内部ハ未タ熱液ナルニ係ハラズ、外部ハ既ニ凝結シテ地殻トナリ、而シテ此時マテ氣體ナリシ水モ亦液體ニ變シ、地上ノ窪所ニ沈降シテ河海ノ水トナリ、空氣ハ今ニ尙ホ其原形ヲ存スルモノナリト云フ、

(二) 陸ノ區別

陸ハ其大小ニ由リテ大陸及島ニ大別シ、形狀ニ由リテ半島、岬及地峽ニ區別シ、地勢ニ由リテ平原、山及谷ニ區別ス、

大陸トハ陸ノ最大區別ノ稱ニシテ地球上其數六アリ、即チ亞細亞、亞非利加、歐羅巴、濠斯太刺利亞、南北亞米利加是ナリ、

六大陸ニ就キテ其大小ヲ比較スレハ、濠ト歐トハ殆ト同一ニシテ、南米ハ歐ノ二倍、北米ハ歐ノ二倍半、亞非利加ハ歐ノ三倍餘、亞細亞ハ歐ノ四倍半ナリ、六大陸互ニ大小ノ差アルコト斯ノ如シト雖モ、兩々相合シテ殆ト同大ノ三對トナレリ、即チ一ハ南北兩米ニシテ新世界ノ陸タリ、又一ハ歐羅巴及亞非利加ニシテ舊世界西部ノ陸タリ、又一ハ亞細亞及濠洲ニシテ舊世界東半ノ陸タリ、此三對ノ陸ハ各、北半球ノ極地ヨリ起リ、延キテ南半球ノ中部ニ及フ、概シテ北ハ擴カリ、南ハ狹レリ、

島ハ大陸ヨリ小ナル陸ノ謂ニシテ、四面全ク水ニ依リテ圍マル、地球上各所ニ碁布散在スル島嶼ハ大小無數ニシテ算ヘ盡シ難シ、其

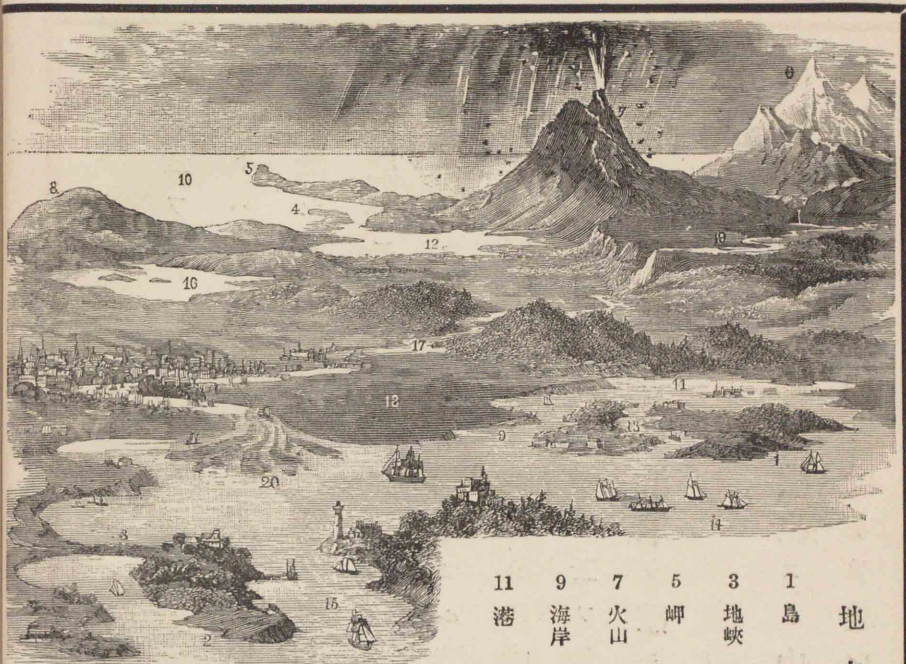
中ボルネオ (Borneo)・ニューギニー (New Guinea)・マダガスカル (Madagascar)・スマトラ (Sumatra)・日本等ノ如キハ最大ナルモノナリ、島ニ二種アリ、大陸ノ近傍ニアリテ其一部トモ見做スヘキモノナリ、洲島ト云ヒ、大洋中ニ孤立セルモノヲ洋島ト云フ、又多數ノ島嶼彙集シテ群ヲナスヲ島彙ト云フ、大陸ト島トノ區別ハ、其大小ニ基クモノナレトモ、此二者ハ其構造ニ於テモ、互ニ其趣ヲ異ニセリ、細ニ大陸ノ構造ヲ檢スルニ、各大陸ハ左右ノ沿岸ニ高地ヲ有シ、中間ニ低地アリテ自ラ三個ノ成分ヲ具備ス、サレト島ノ構造ハ簡單ニシテ、至大ノ島ト雖モ決シテ斯ル組織ノ痕跡ヲ留メス、蓋シ島ハ山頂ノ水面上ニ突出シタルモノナレハナリ、半島トハ三面海ニ圍マレ一方纔ニ陸地ニ連絡スル陸ヲ云フ、

岬トハ海中ニ突出セル陸ニシテ、地峽トハ兩地ヲ联接スル狹キ陸地ヲ云フ、

平原トハ平坦ニシテ廣闊ナル地面ノ稱ナリ、海面ヨリ著シキ高サニ秀隆セル平原ヲ特ニ稱シテ高原ト云ヒ、地勢ノ著シク低キモノヲ低原ト云フ、

山トハ高ク地面ヨリ崛起セル陸ノ稱ニシテ、山ノ小ナルモノヲ丘陵ト云ヒ、群山連續スルモノヲ山脈ト云ヒ、數條ノ山脈同一ノ方向ニ駛走スルモノヲ山系ト云フ、蓋シ地殻ハ液體ヨリ凝結シタルモノナレハ、表面處々ニ波狀ノ皺ヲ生スルハ自然ノ勢ナリ、是即チ山脈トス、

火山ハ灰烟岩汁等ヲ噴出スル山ノ稱ニシテ、概シテ圓錐狀ヲナス、是其噴出物ノ堆積ニ由リテ成レルニ由ルナリ、抑、地底ハ掘降スル



- 地文圖
- | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|--------|
| 1 島 | 2 半島 | 3 地峽 | 4 海角 | 5 岬 | 6 山 | 7 火山 | 8 丘陵 | 9 海岸 | 10 大洋 | 11 港 | 12 入江 | 13 海峽 | 14 瀨戸 | 15 内海 | 16 湖 | 17 河 | 18 平原 | 19 高原 | 20 三角洲 |
|-----|------|------|------|-----|-----|------|------|------|-------|------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|-------|--------|

ニ隨ヒ、熱度次第ニ増加スルニ由リテ、之ヲ考フルニ地球ノ内部ハ今尙ホ火熱焰々タル液體タルコト疑ナシ、然レトモ地底ノ熱氣ハ地殻ノ爲ニ遮斷セラレ自在ニ洩出スルコトヲ得ス、只岩石ノ罅隙間ヲ傳ハリ時々地表ニ發出ス、之ヲ火山ノ噴出トナス、谷トハ山ト山トノ間ニ

夾マレル低窪ノ地ヲ云フ、

(三) 地面ノ變動

地面ハ時々刻々多少變動シツ、アルモノニシテ、吾人カ想像スル如ク萬古不易ニ現形ヲ存スルモノニアラス、此變動ハ職トシテ熱水二力ノ作用ニ由ル、

細ニ地殻構造ノ有様ヲ察スルニ、一旦薄キ岩層地表ニ結合シタル後ニ於テモ、地底ノ液體ハ屢爆裂潰出シテ疊々新岩層ヲ生シ、地形ニ幾回ノ變遷ヲ與ヘシコトハ掩フヘカラサル事實ニシテ、今日ニ於テモ、地熱ハ屢火山ノ噴出或ハ劇烈ナル地震ヲ生シ、一村一郡ヲ轉覆埋没シ、一瞬間ニシテ一地方ノ地形全ク豹變スルコトアルハ世人ノ能ク知ル所ナリ、然レトモ地熱ノ作用ハ茲ニ止ラス、極テ精密ナル驗器ヲ以テ測定スルニ、地殻ハ晝夜間斷ナク輕微ノ震動ヲ

ナスモノニシテ、地震ハ、此震動ノ強烈ナルモノニ外ナラス、斯ク地熱ハ發散セント欲シテ地殼ヲ壓迫震動スルニ因リ、地面ハ徐々ニ隆起スルノ傾向アリ、彼ノ海底ノ岩石知ラス識ラス水面上ニ隆起スルコトアルモ亦其一證ナリ、

水力ノ地形ヲ變動スルハ熱力ニ劣ラサルモノニシテ、雨滴ノ點下スルヤ自然ニ岩石土壤ヲ摩碎シ、更ニ地底ニ滲入スルヤ、岩層ヲ穿通シテ其通路ヲ疏鑿シ、終ニ川流トナリ、土壤ヲ運下シテ海中ニ新陸地ヲ生ス、斯ル陸地ヲ沖積的陸地ト稱ス、蓋シ今日海濱又ハ河邊ニ在ル平原沃土ハ概テ皆此沖積的陸地ニシテ、ナイル(Nile)河口ナル埃及ノ三角洲ガンジス(Ganges)河口ナルベンガル(Bengal)ノ三角洲ノ如キ是ナリ、支那本部ニ於ケル千里ノ沃野モ、全ク黃河揚子江兩河水ノ作用ニ出テタルナリ、要スルニ水ノ作用ハ專ラ地面ヲ平

坦ニスルニアリトス、

地熱ハ地面ヲ隆起シ、水ハ地面ヲ平坦ナラシムルノ効力ヲ有シ、二力ノ作用全ク相反シテ日夜相闘セ、停時ナシ、然レトモ其結果ハ徐々ニシテ一世紀又ハ二世紀ノ間ニ之ヲ徵スルヲ得スト、雖モ、數千年ヲ經過セハ、今日ノ地形モ何レノ日カ全ク豹變シ、滄海モ山トナリ、桑田モ海トナルノ觀ヲ呈スルコトナキヤハ、今日ニ於テ豫メ見ルコト能ハサル所ナリ、

(四) 水ノ區別

地球表面ノ水ハ之ヲ陸水、海水ノ二種ニ大別ス、

陸水ハ陸上ニアル水ノ謂ニシテ河及湖ノ區別アリ、

河ハ地上一定ノ通路即チ河床ヲ流下スル水ノ稱ニシテ、其上端即チ發出スル處ヲ水源ト云ヒ、下端即チ海又ハ湖ニ注入スル處ヲ河

口ト云フ、河口ニ向ヒテ、吾人ノ左ヲ河ノ左方トシ、右方ヲ河ノ右ト爲ス、

河ハ其大小支流ヲ合シテ河系ト稱ス、一河系ノ排水灌漑區域ニ屬スル全地域ヲ其河ノ河領ト云フ、

河水ノ量ハ河領ノ廣狹降雨及蒸發ノ多少ニ關ス、我國ニ在リテハ河水ヲ水田ニ灌キ、其面ヲ廣クスルカ故ニ、蒸發ノ量從テ多ク夏期

著シク河水ノ量ヲ減スルヲ見ル、湖ハ窪地ニ蓄積セル水ノ稱ニシテ、吐口ヲ有スルモノアリ、有セサルモノアリ、吐口ヲ有セサル湖ハ概シテ鹹水ナリ、裏海、アラル海

(Aral sea) 等ノ如シ、蓋シ此等ノ湖ニ在リテハ水分ハ蒸發飛散スレトモ、水ト共ニ流入スル所ノ鹽分ハ殘留シテ次第ニ蓄積スレハナ

リ、

海水トハ陸ノ周圍ヲ圍繞シ、殆ト地球表面四分ノ三ヲ占領スル廣

大ナル水ノ稱ニシテ、之ヲ大洋海灣海峽等ニ區別ス、

大洋トハ海水ノ最大區分ニシテ、其數五アリ、太平洋、大西洋、印度洋、

北氷洋、南氷洋是ナリ、

海トハ陸地ニ接近スル海水ノ一部分ニ命セル名ニシテ、其地名ヲ

冠スルヲ通例トス、即チ日本海、支那海等ノ如シ、單ニ海ト稱スルト

キハ陸地ニ對シ汎ク海水ヲ指スモノト知ルヘシ、

灣トハ陸地ニ彎入スル海水ノ稱ニシテ、墨其西哥灣、波斯灣等ノ如

シ、海峽トハ兩海水ヲ接合スル狹キ海水ノ稱ナリ、

(五) 海水ノ運動

海水ハ波浪、干満及洋流ト稱スル三様ノ運動ヲナス、

波浪ハ海水ノ表面、風ノ爲ニ壓セラレ、起伏動搖スルモノニシテ、海

底ニ影響スルコトナシ、
 干満ハ日月ノ引力ニ依リテ、海水一般ニ生スル定時ノ運動ニシテ、
 只海水ノ表面ノミナラス最深ノ海底ニマテ影響シ、東ヨリ西ニ向
 ヒ海中ヲ運行ス、此運行ノ進路ハ隨處ニ滿潮ヲ生シ、通過シ去ル處
 ハ干潮トナル、干満一回ノ時間ハ十二時二十六分許ニシテ、地球表
 面東西ノ二點、其位置正シク反對スル處ニ於テハ、干満ノ時刻互ニ
 同一ナルモノトス、但シ正反對ノ點ト雖モ陸地ニ接近セル所ハ、諸
 般ノ事情ニ制セラレ、其時刻精密ニ符合スルコトヲ得ス、
 洋流ハ海中ノ河トモ稱スヘキモノニシテ、海水カ大洋中一定ノ通
 路ヲ橫流スルヲ云フ、是寒熱兩地方ノ海水溫度ノ差異ト定時風ノ
 作用トニ依リ互ニ往來循環スルモノニシテ、洋流ノ如何ハ大ニ土
 地ノ氣候ニ影響ヲ及ホスモノナリ、

洋流ハ兩極洋流、赤道洋流及回歸洋流ノ三種ニ大別ス、

(1) 兩極洋流 兩極地方ノ寒冷ナル海水、赤道ニ向ヒ流動スルモノ
 ニシテ、北極洋流ハ南西ノ方針ヲ取り、南極洋流ハ北東ノ方針ヲ
 取ル、

(2) 赤道洋流 東ヨリ西ニ向ヒ兩回歸線ノ間ヲ流動スルモノニシ
 テ、北赤道洋流、南赤道洋流ノ別アリ、

(3) 回歸洋流 赤道地方ノ溫暖ナル海水、兩極ニ向ヒテ流動スルモノ
 ノニシテ、北半球ニ在リテハ北東ノ方針ヲ取り、南半球ニ在リテ
 ハ南東ノ方針ヲ取ル、

回歸洋流ハ暖カニシテ、兩極洋流ハ寒冷ナレハ、前者ハ後者ヨリハ
 其比重小ナルコト勿論ナリ、從テ此二流海中ニテ會合スルトキハ
 回歸洋流ハ海表ヲ流レ、兩極洋流ハ海底ヲ流ル、

北太平洋ノ回歸洋流ハ、墨其西哥灣ヨリ北東ニ向ヒ流動スルヲ以テ、灣流ト稱シ、北太平洋ノ回歸洋流ハ、日本ノ東海岸ヲ沿行スルヲ以テ、日本洋流(黑潮)ノ名アリ

(六) 大氣

地球ノ外部ハ凡ソ五十哩ノ高サニ至ルマテ、全ク透明ノ氣體ニ依リテ包マル、此氣體ハ即チ吾人カ呼吸スル空氣ニシテ、生物ノ生存ニ一日モ缺クヘカラサル要素トス、大氣トハ此空氣全體ノ名稱ニシテ、下層ハ上層ノ重疊ニ壓迫サレ、其質最モ濃厚ニ、上層ハ次第ニ稀疎トナリ、竟ニ五十哩ノ高サニ達スレハ、漸ク消滅シテ其有無ヲ知ル能ハサルニ至ル、
大氣ニ寒暖ノ差異アルハ、太陽ノ熱ニ因リテ始テ生スルモノニシテ、其溫マルハ日光ノ直射ニ因ラス、重モニ地面ヨリ發散スル熱ニ

因ルヲ以テ、下層最モ溫暖ニシテ、上層ハ寒冷ナリ、
空氣ノ重量即チ氣壓ハ、其溫度ノ多少ニ依リテ増減スルモノナリ、
何トナレハ凡テ物體ハ熱スレハ膨脹シ、冷ユレハ收縮スルトノ元則ニ由リ、溫暖ナル空氣ハ膨脹シテ稀疎トナリ、重量輕減スルカ故ナリ、

(七) 風

右ノ如ク、氣壓ハ空氣ノ溫度ニ準シ増減スルモノナルニ、太陽ノ大氣ヲ溫ムルハ、熱帶・暖帶・寒帶等各地方ニ依リテ差異アルコト勿論ナレハ、彼此ノ空氣互ニ氣壓ノ平均ヲ失ヒ、輕空氣即チ溫暖ナル空氣ハ浮游上昇シ、重空氣即チ寒冷ナル空氣來リテ、之ニ交代スルハ自然ノ勢ナリ、此寒暖兩空氣ノ流動交代ハ即チ風ニシテ、其勢徐々ナレハ軟風トナリ、急劇ナレハ暴風ヲ生シ、更ニ急劇ナレハ颶風ト

ナル、赤道近傍ノ空氣ハ太陽ノ酷熱ニ温メラレ、斷エス浮游上昇スルヲ以テ、南北兩暖帶ノ冷空氣ハ春夏秋冬赤道ニ向ヒテ流動ス、從テ赤道ノ南北各三十緯度ノ間ニ於テハ終歲一定ノ風アリ、此風ハ商船ノ航海ニ便益ヲ與フルニ依リ、貿易風ト名ツク、貿易風ハ南北兩方ヨリ赤道ニ向ヒテ吹クモノナレトモ、地球ノ迅速ナル自轉ノ餘響ニ制セラレ、北風ハ變シテ北東風トナリ、南風ハ變シテ南東風トナル、凡テ貿易風ハ日光直射スル地ノ二三緯度以內ニ吹キ來レハ乍ナ靜止シテ無風トナル、時トシテハ方位不定ノ軟風トナリ、又ハ急劇ノ旋風トナルコトアリ、印度洋及支那近海ニ在リテハ、三月ヨリ九月ニ至ル半歲間ハ北東貿易風ハ停止シテ之ト反對ナル一定ノ南西風ヲ生ス、之ヲ時風ト

名ツク、蓋シ地面ノ暖マルハ海面ヨリ速カナルモノナルニ、三月ヨリ九月ニ至ル間ハ、日光亞細亞大陸ノ南部ニ直射シ、陸海受熱ノ差愈増加スルヲ以テ沿海ノ冷空氣陸ニ向ヒテ流動シ時風ヲ生スト云フ、時風ハ南半球ニ於テモ亦之アルモノニシテ、九月ヨリ三月ニ至ル間即チ太陽赤道以南ニ出沒スル季節ニ際スレハ、濠洲及亞非利加南部ノ南東貿易風ハ概チ停止シテ北西風ヲ生ス、凡テ時風ト貿易風ト交代スル際ニハ霖雨アルヲ通例トス、前ニ述ヘタル如ク、陸地ハ海面ニ比スレハ太陽ノ熱ヲ受收スルコト速カナレトモ、之ヲ發散スルコト亦速カナリ、從テ海濱ノ地方ニ在リテハ晝間ハ風多ク海上ヨリ吹キ、夜間ハ陸上ヨリ吹ク之ヲ海風・陸風ト稱ス、

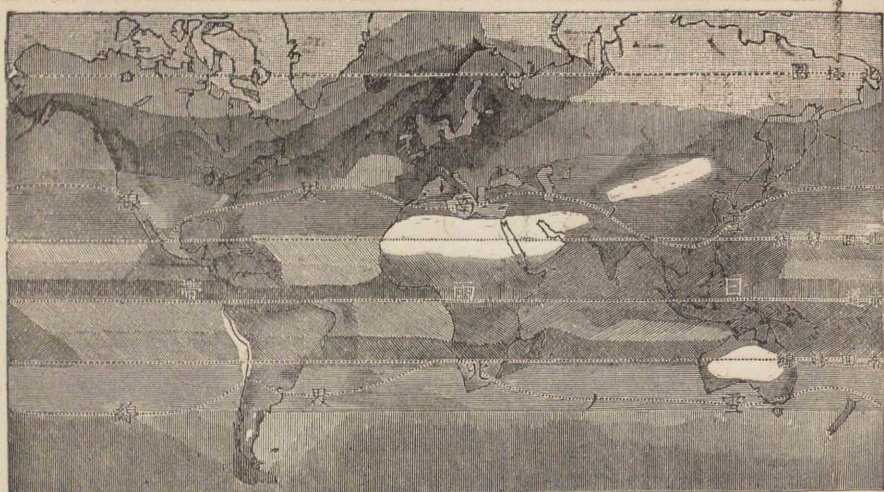
(八) 雨

地球表面四分ノ三ヲ占領スル曠大ナル水面ハ、太陽ノ熱ニ温メラレ時々刻々蒸發シテ水蒸氣トナリ空氣ニ混合ス、此空氣冷氣ニ觸ルレハ水蒸氣ハ凝縮シテ雲トナリ、更ニ變シテ雨トナリ降テ地ヲ潤ス、

雪ハ水蒸氣ノ氷結シタルモノニシテ、霰ハ雨滴ノ氷結セルモノトス、其他霧露等ハ皆空氣中ニ包含セル水分ノ凝結セルモノニ外ナラス、

雨ハ熱ト均シク、植物ノ生育ニ缺クヘカラサル要素ニシテ、雨露ノ潤ナキ地ハ草木生長セズ、地球上處々ニ散在スル沙漠ハ降雨ナキ爲メ生セシモノナリ、

雨量(雪共ニ)ハ同一地方ニテモ年ニ依リテ差異アレトモ、概論スレ



線雨冬 ■ 線雨夏 ■ 線雨季四 ■ 線雨時定 ■ 線雨風候季

圖 量 雨

ハ熱帶地方ハ最モ多ク(一年平均雨量一百吋)シテ、暖帶之ニ次キ(三十五吋乃至四十吋)寒帶ハ最モ少シ、是太陽ノ熱各帶強弱ノ差異アルニ依リテナリ、又同一帶中ニ於テモ海面ヨリ隔遠ノ地ハ概シテ雨少シ、左ニ各帶降雨ノ模様ヲ略述ス、

熱帶各地ハ毎年一定ノ雨節アルモノニシテ、他帶地方ノ如ク晴雨不規則ナラス、凡テ南北兩回歸線内ノ地ハ太陽其直上ニ出沒スル前後數十日間ハ毎日日中ニ於テ驟雨暴瀉シ、

雷鳴電光之ニ伴ヒ數時間又ハ終日大雨ス、此時節ヲ雨節ト稱ス、雨節經過スレハ數月間更ニ降雨ナシ、之ヲ乾節ト云フ、

熱帶地方ニ在リテハ熱氣酷烈ニシテ、終歲皆盛夏ノミナレハ春夏秋冬四季ノ區別ナシ、只此乾雨兩節ノ區別アルノミ、但シ乾節ト雖モ露ハ甚タ多量ナリ、

太陽ハ毎年往復二回熱帶各地ノ直上ヲ通過スルヲ以テ、雨節モ概シテ二回ナレトモ、回歸線近傍ノ地ニ在リテハ相合シテ一回トナル、是一雨節未タ過了セサルニ第二雨節既ニ來レハナリ、

雨節ハ熱帶ノ各地方ヨリ之ヲ視レハ毎年一定ノ期節ニ往來スル一種ノ季節ナレトモ、眼ヲ轉シテ熱帶ノ全體ヨリ之ヲ視レハ、雨節ノ通路ハ太陽ノ直下ニ影從シ、終年兩回歸線ノ間ヲ往來スル一種ノ移動帶ヲナス、依テ之ヲ日雨帶トモ稱ス、雨帶ノ幅ハ殆ト一千哩

ニ跨ルモノトス、

熱帶雨節ノ理由ハ甚タ簡單ニシテ、南北兩方ヨリ吹キ來ル貿易風ハ、日光直射ノ地方ニ達スレハ猛烈ナル炎熱ニ溫メラル、ヲ以テ、流動乍々靜止シ浮游シテ直上ニ昇騰ス、昇騰シテ天上ノ冷氣ニ觸ルレハ、其含有スル水蒸氣ハ俄ニ冷凝シテ雨トナル、是毎日日中ニ驟雨暴瀉スル所以ナリ、

暖帶及寒帶ニ在リテハ降雨不規則ニシテ、一定ノ季節ナシ、是二帶共ニ一定ノ風ヲ有セサルニ因リテナリ、然レトモ春秋二季ハ兩極地方ノ寒風ト、熱帶地方ヨリ歸來スル暖風ト空中ニ會合スルコト最モ多キヲ以テ、此二節ハ概シテ多雨ナリ、

暖帶ニ於テモ熱帶ニ接近セル地方ハ熱帶雨節ノ餘影ヲ蒙リ、夏季ニハ往々驟雨暴瀉スルコトアリ、寒帶地方ニ在リテハ七八月ノ際

僅ニ數週間ヲ除ケハ地面全ク白雪ニ掩ハレ、氷ノ如キハ地下數呎ノ深サニ達シ、終歲融ルコトナシ、但シ夏季ニハ暖風往々此等ノ地方ニ達シ、空中ニ雲霧ヲ生シ或ハ細雨ヲ降スコトアリ、

(九) 氣候

各地氣候ノ寒暖ハ、一般ニ緯度ノ高下ニ準スルモノニシテ、赤道ヲ南北兩方ニ遠サカルニ隨ヒ溫度次第ニ減少ス、之ヲ總論スレハ熱帶地方ハ酷熱ニ、暖帶ハ中和ニ、寒帶ハ沍寒ナリ、サレト大氣ハ下層溫暖、上層寒冷ニシテ海面ノ水準線ヲ離ル、ニ隨ヒ、溫度次第ニ減少スルカ故ニ、同緯度ノ地ト雖モ地勢ノ高低ニ依リテ寒暖不同アルハ勿論ナリ、西藏ノヒマラヤ(Himalaya)山脈ノ如キハ熱帶ニ位スレトモ、地勢高キカ故ニ終歲白雪ヲ頂ク、富士山頂ノ春夏秋冬積雪ヲ冒スルモ此理ニシテ、何緯度ノ地方ニテモ海面ヲ拔キ高ク地表

ヲ離ルレハ、兩極地方ト等シク四時氷雪融解セサル點ニ達スルヲ得ヘシ、此點ヲ連接セル線ヲ雪線ト號ス、雪線ハ赤道直下ニ於テハ海面ヨリ三哩ノ高サニアレトモ、南北ニ進ムニ隨ヒ次第ニ低下シ、兩極近傍ニ至レハ終ニ地表ニ落下ス、各地ノ寒暖ハ概シテ緯度及地勢ノ高低ニ準スルコト、右ノ如クナレトモ、其他諸般ノ事情ニ制セラレ、コト頗ル多シ、之ヲ要スルニ濕潤溫暖ノ風吹き來ル處、暖ナル洋流赤道ヨリ流レ來ル處ハ暖氣ニシテ、乾燥寒冷ノ風吹き來ル處、兩極ヨリ冷ナル洋流流レ來ル處ハ寒冷ナリ、又島地及海岸ノ地ハ寒暑共ニ中和ニ、之ニ反シテ大陸ノ地ハ酷暑嚴寒ナリ、其故如何ニト尋ヌルニ海水ハ熱ヲ受取スルモ、又發散スルモ陸地ヨリハ遅ク、且ツ互ニ往來循環シテ彼此溫度ノ差少ナキニ由ル、又草木生茂スルノ地ハ沙礫不毛ノ地ヨリ寒暑共ニ

溫和ナリ、是亦熱ヲ吸收シ發散スルコト互ニ遲速アルニ由ルナリ、英國ハ北米ノラブラドル (Labrador) ト同緯度ナレトモ、前者ハ暖ニシテ、後者ハ近寒ナリ、是英國ニハ墨其西哥灣ヨリ暖ナル灣流、流レ來ル上ニ海上ヨリ濕氣ヲ含メル南西ノ風吹キ來レトモ、ラブラドルニハ冷ナル北極ノ洋流流レ來リ、且ツ寒冷ノ風陸地ヨリ吹キ來レハナリ、

(一) 植物

植物ハ吾人ノ生存快樂ニ最モ缺クヘカラサル一大要素ニシテ、吾人ノ衣食住殆ト皆之ヲ植物ニ仰クト云フモ可ナリ、今日マテ吾人ノ探求知得シタル地球上植物ノ種類ハ、大約二十萬種ニ下ラス、而シテ吾人ノ栽培耕作スルモノ無慮四千種内外ナリト云フ、熱ト水トハ植物ノ生育ニ缺クヘカラサル元素ナレハ、各地溫度ソ

高下降雨ノ多少ハ、植物ノ播布ニ最モ直接ノ關係ヲ有スルコト當然ノコトナリ、サレハ地球上各帶植物ノ播布、消長ノ模様モ亦自ラ相異ラサルヲ得サルハ勿論ノコトナリ、熱帶ハ四季常ニ溫熱ニシテ、雨露ノ露モ亦最モ裕カナル帶ナレハ、草木ノ生長繁殖ニ最モ適合シ、綠草常ニ鬱蒼トシテ凋落スルコトナク、植物多クハ終年花ヲ着ケ實ヲ結ヘリ、黑檀・白檀・蘇木 (Mahogany) 丁子・棕櫚・耶子樹・棗樹・甘蔗 (Banana) 等ハ此帶ニ繁茂スル貴重ノ樹木ニシテ、棉花・藍・珈琲・砂糖・米及諸種香料物ハ其主ナル農産物トス、暖帶ハ熱帶ニ次キ、植物ノ生長繁殖ニ適合スル帶ナレトモ、冬ハ草木概シテ霜ノ爲ニ落葉枯凋ス、サレト人間日用ニ供スル有用ノ植物ハ重ニ此帶ノ特産ニシテ、中部ニハ、楓樹・榆・山毛櫸・榿・胡桃・樺木・松

柏類、暖部ニハ桂樹、橄欖及其他ノ常綠樹茂生シ、寒部ニハ松類其他ノ喬木生長ス、農産物ノ主ナルモノハ米、小麥、諸穀類、馬鈴薯、荳類及林檎、桃、梨、茶、珈琲、煙草、麻、苧、棉花、甘藷、桑、葡萄及甘蔗等トス、寒帯ハ植物極テ寥々ニシテ殆ト苔蘚ノ外之ナシト云フヘキナリ、稀ニハ矮小ノ灌木生長スレトモ只暫時間綠葉ヲ着クルノミ、地勢ノ高低ハ寒暖ノ差ヲ生スルニ依リ、其植物ノ種類ニ關係ヲ及スハ當然ノコトニシテ、吾人若シ熱帯ノ高山ニ攀登セハ、其山腹ニ於テ行々目撃スル草木ハ、吾人カ赤道ヨリ兩極地方ニ向ヒテ進行スルニ當リ、各地ニ於テ追次ニ會合スル草木ト種類正ニ相符合スヘシ、而シテ竟ニ一萬五千呎ノ高點ニ達セハ、兩極地方ト同シク苔蘚ノ外草木ヲ視サルヘシ、サレハ熱帯地方ト雖モ、其地勢ノ高低ニ由リテ暖帯或ハ寒帯ノ植物ヲキキテ必スヘカラサルハ勿論ノコト、ス、

(二) 動物

動物ハ諸般ノ方法ニ依リテ、吾人ノ快樂幸福ノ資トナルモノニシテ、或ハ貨物ヲ運搬シ、機械ヲ運轉シテ、吾人ノ勞働ヲ補助シ、或ハ肉ヲ生シ、乳ヲ出シテ吾人ニ食料ヲ供ヘ、或ハ羽毛、皮革ヲ産シ、或ハ牙角ヲ生シテ、以テ吾人ニ衣服及器具ノ原料ヲ供給ス、動物ハ重ニ植物ヲ食トシ、溫度ニ依リテ生存スルヲ以テ、地球上各地動物ノ種類及播布ハ、其植物ノ多少ト溫度ノ高低トニ制セラレ、サレハ各帶自然ニ定住ノ動物アリ、熱帯ノ動物ハ獅子、虎、豹、象、犀、河馬、麒麟、狸々、猿、猴、鱷魚、駝鳥等ニシテ、此帶ハ最大最猛動物ノ定住處タリ、此帶ノ鳥類及昆蟲ハ其種類夥多ニシテ、其色最モ美麗ナリ、然レトモ鳴禽ハ稀ニシテ、毒蟲ハ多シ、



陸獸ニハ白熊、馴鹿アリ、鳥類ハ水禽多ク、大口魚、鯡等食料ニ供スヘキ魚類夥多ナリ、本帶ハ寒氣酷烈ニシテ草木稀ナレハ陸地ノ禽獸

暖帶ハ鹿、熊、狐、狸、狼等ノ定住處ニシテ、又馬、牛、羊、犬、豚等人生ニ最モ動有用有益ノ家畜

寒帶ハ鯨、海豹及海馬等最大海獸ノ定住處ニシテ、

動物植

ハ概シテ寡少ナリ、

動物ノ播布ハ大略右ノ如シト雖モ、各地山海天然ノ境界ニ遮斷セラレ、互ニ交通播布自在ナラサルニ依リ、各大洲其特有ノ種類ヲ有シ、又同帶ノ地ト雖モ甲乙必ス其種類ヲ同クセサルコトアリ、

(二) 人類及人種

人類ハ心身ノ性情結構皆完全無缺ニシテ遙ニ諸動物ニ卓絶シ、所謂萬物ノ靈ナレハ能ク氣候寒熱ノ兩極端ニ耐ヘ、地球表面隨所ニ播布蔓延シ諸動物ノ如クニ定住ノ帶アルコトナシ、然レトモ亦周圍ノ外界ニ支配セラル、コト敢テ少々ニアラス、假令ハ熱帶ニ住スル者ハ衣食住容易ニ過クルカ爲メ怠惰偷安ニ流レ易ク、寒帶ニ住スル者ハ生活困難ニ過クルカ爲メ畢生衣食住ニ勞働シ敢テ他事ニ違アララス、サレハ人類ノ充分ナル繁殖發達ヲ遂ルニ最モ適

合スル住處ハ、氣候中和ニシテ植物動物等衣食住ノ資最モ饒カナ
ル夫ノ暖帶地方タルハ論ヲ待タズ、現ニ文明開化ノ國民大半ハ此
帶ニ屬スルコト其所以ナキニアラサルナリ、
全地球上ノ人口ハ其數總計十四億以上ノ概算ナリ、之ヲ左ノ五種
ニ大別ス、

- 第一 高加索人種 一名 白色人種
 - 第二 蒙古人種 一名 黃色人種
 - 第三 「エシオピヤ」人種 一名 黑色人種
 - 第四 馬來人種 一名 褐色人種
 - 第五 亞米利加人種 一名 銅色人種
- (1) 高加索人種ハ容貌秀美ニシテ、皮膚白色ナルカ故ニ白色人種ノ
名アリ、南西亞細亞、殆ト歐洲全土、亞米利加ノ大部、濠洲ノ海岸及

- 亞非利加北部ノ人民ハ此人種ニシテ、其數總計大約六億アリ、歐
米諸文明國ノ人民ハ主ニ此人種ニ屬スルモノトス、
- (2) 蒙古人種ハ皮膚黃色ニシテ、亞細亞ノ強半及北東歐羅巴ニ住ス、
日本人、支那人等ハ此種ノ主ナルモノニシテ總數大約五億以上
トス、
- (3) 「エシオピヤ」人種ハ皮膚黑色ニシテ、黑色人種ノ名ヲ得タリ、亞非
利加ノ住民ハ大半此種ニ屬シ、總數大約二億アリ、
- (4) 馬來人種ハ褐色ニシテ、亞細亞ノ馬來半島及濠洲ニ住シ、總數大
約六千萬以上トス、
- (5) 亞米利加人種ハ皮膚銅色ナリ、南北兩亞米利加ノ土人ハ此種ニ
屬ス、總數大約一千餘萬アリ、
- 前記人種ノ類別ハ獨ノ大家ブルーメンバツク (Blumenbach) 氏ノ所

説ニ據ルモノナリ、佛ノクービエー(Cuvier)氏ハ馬來・亞米利加ノ二人種ヲ蒙古人種ニ合併シテ地球上ニ高加索・蒙古及「エシオピヤ」ノ三大人種アルコトヲ説キ、プリチヤード(Pritchard)氏ハ高加索人種ヲ「アリアン」(Aryan)・「アマニチック」(Semitic)・「ハミチック」(Hamitic)ノ三派ニ小別シ、其他輓近ノ學者ハ諸種ノ類別ヲナセリ、然レトモ未タ一般ノ採用ヲ得ルニ至ラス、

(一三) 鑛物

鑛物ハ無生物ナレハ、其播布集散全ク偶然ニシテ氣候ノ如何ニ關係スルコトナシ、鑛物中貴重ナルモノハ金屬・寶石・石炭・石油・石材・粘土等トス、
 金屬ハ凡テ四十九種、其中最貴重ノモノハ黃金及銀トス、此二鑛物ハ岩石間ニ脈絡ヲナスヲ常トス、黃金ハ又河床ノ砂中ニ發見サル

、コトアリ、金屬中最モ有用ノモノハ鐵ニシテ、其產地モ亦最モ多シ、鐵・鉛・銅等ノ金屬ハ通常鑛石中ニ含有セラレ、モノトス、
 寶石ハ金剛石・紅玉石・綠玉石等ニシテ金剛石ヲ第一トス、金剛石ハ堆積砂中ニ在ルヲ通例トス、
 石炭ハ前代植物ノ化石シタルモノニシテ、岩石ノ間ニ層ヲナスモトス、石炭ハ製造業及汽船・汽車ニ至要ノ燃料ナリ、
 石油ハ井中ヨリ汲取スルモノニシテ、之ヲ精製シ點燈及其他ノ用ニ供ス、

石材ハ大理石・花崗石等ニシテ建築ノ用ニ使用ス、粘土ハ煉化石・土器等ヲ製スル原料ニシテ、陶器ノ原料モ亦一種白色ノ粘土トス、

三 政治地理學一班

(一) 各國民ノ生業

地球表面各國民ノ從事スル生業ハ夥多ナリト雖モ、之ヲ大別スレハ農業製造貿易鑛山林業漁業獸獵等トス、土地耕作ハ勿論農業ナレトモ牧畜養蠶等モ亦其一科ナリ、

(二) 文明ノ等級

宇内各國民ヲ其文明ノ等級ニ依リ、大別シテ四等トナス、左ノ如シ、
(1) 文明國民 活潑有爲ノ氣象ヲ有シ、學藝技術ニ秀テ、生活ノ程度著シク進歩セル國民ヲ云フ、
(2) 半開明國民 前者ニ及ハスト雖モ、尙ホ文學ヲ有シ、教育ヲ重シ、農業及製造ノ術ニ於テ頗ル上達シタル國民ヲ云フ、

(3) 未開國民 學校書籍等ヲ有セス、一定ノ住家ナク、水草ヲ逐ヒ移住シテ專ラ牧畜ニ依リ生活ヲ遂ルモノヲ云フ、

(4) 野蠻國民 蒙昧無智ニシテ法律ヲ有セス、性情兇猛ニシテ專ラ漁獵ニ依リ生活ヲ遂ル種族ヲ云フ、

(三) 宗教

各國民ハ必ス各信スル所ノ教法ヲ有ス、之ヲ宗教ト云フ、世界中最も盛ニ流行スル宗教五アリ、左ノ如シ、

(1) 基督教 一名耶穌教 新教舊教及希臘教ノ三派ニ別ル、

信徒凡ソ三億九千五百萬

(2) 猶太教 信徒凡ソ七百萬

(3) 回教 信徒凡ソ一億八千萬

(4) 巴羅門教 信徒凡ソ一億七千五百萬

(5) 佛教

信徒凡ッ三億四千萬

(四) 政體

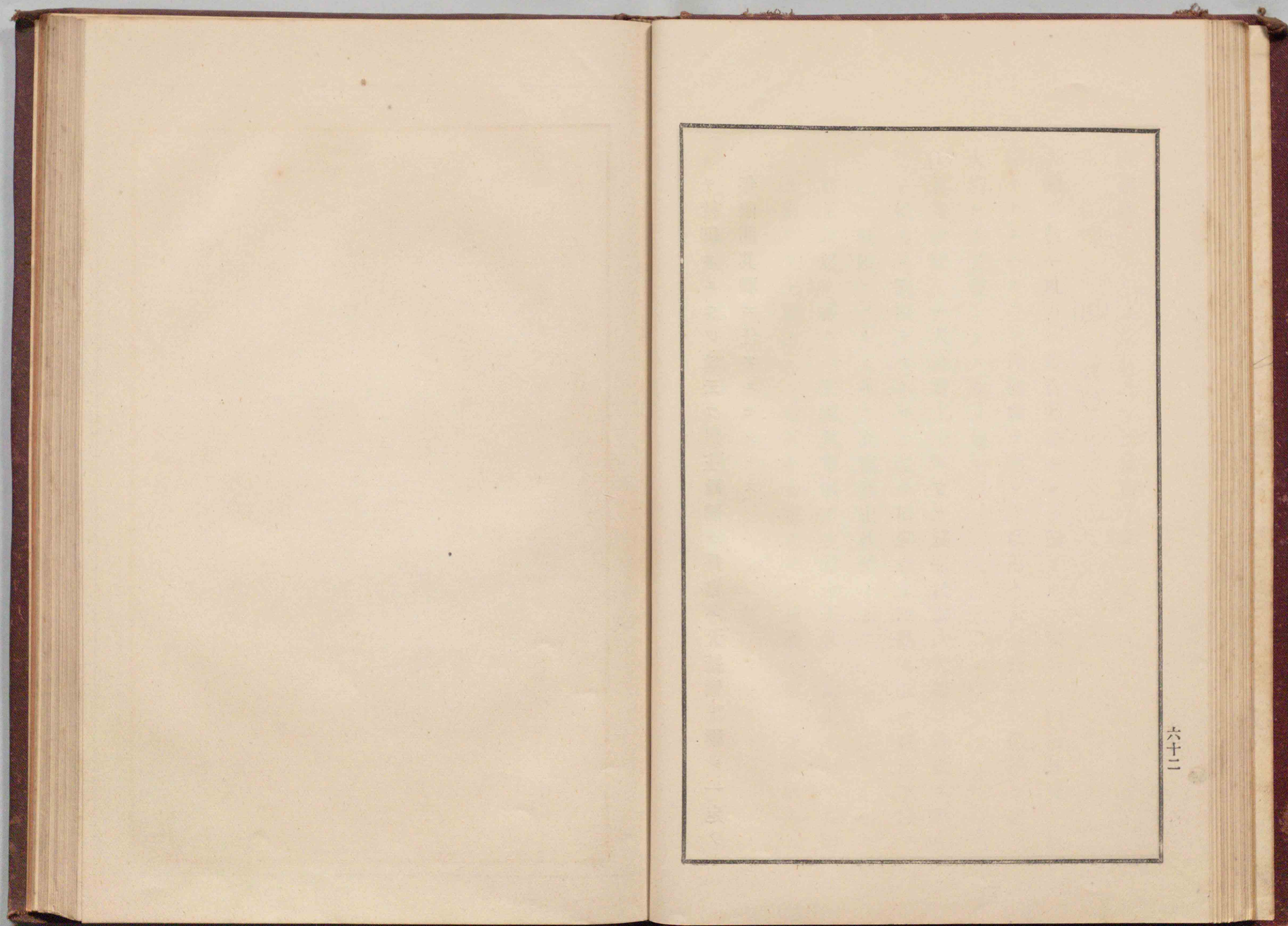
人類多數一地方ニ集合團結スレハ國ヲナス、國ニハ内治外交ノ機關ナルヘカラス、此機關ヲ稱シテ政府ト云フ、政府ノ體裁ハ之ヲ大別シテ二種トナス、左ノ如シ、

(1) 君主政體 一人ノ君主上ニ立テ、國家統御ノ大權ヲ總攬ス、君主ノ權力ニ制限ナキトキハ之ヲ擅制君主政體ト云ヒ、憲法ヲ以テ之ヲ制限シタルトキハ立憲君主政體ト云フ、

君主政體ノ國ニハ王國又帝國アリ、君主王又ハ女王ナレハ其國ヲ稱シテ王國ト云ヒ、帝又ハ女帝ナレハ其國ヲ稱シテ帝國ト云フ、

(2) 民主政體 民主政體トハ國民一般ヨリ代議士ヲ選舉シテ國家

ヲ統御スルモノヲ云フ、民主政體ノ長官ハ大統領ト稱シ、一定ノ年限間其職ニ任スルモノトス、



中等地理 日本誌一

第二編

日本誌

一 總論

(位置) 我日本帝國ハ太平洋ノ北西隅ニ位シテ、亞細亞大陸ノ東岸ニ沿ヒ、北東ヨリ斜ニ南西ニ延キタル島嶼國ニシテ、北緯二十四度六分琉球波照間島ヨリ同ク五十度五十六分(千島アライト島)ニ達シ、東經百二十二度四十五分琉球與那國島ヨリ同ク百五十六度三十二分(千島占守島)ニ擴カル、而シテ北緯三十六度ト東經百三十九度トノ交叉點ハ、殆ト國ノ中心ニ當レリ、
(境界) 東ハ一面ニ渺茫タル太平洋ニ臨ミ、南西ハ支那海ヲ隔テ、

遙ニ支那本部ト對向シ、北西ハ狹キ日本海ニ依リテ朝鮮及露領滿洲ニ交通シ、北端ハ北海道ノ宗谷海峽、千島ノ久留里海峽ニ依リテ露領樺太島及甘察加ニ密邇ス、

(四大島) 全國ハ地圖ヲ以テ示スカ如ク、四個ノ大島及無數ノ附屬島嶼ヨリ成リ立テリ、四大島トハ即チ本洲蝦夷九州四國ニシテ、北緯三十一度ヨリ四十五度ニ連亘ス、是實ニ我帝國ノ幹部ト稱スヘキモノタリ、

四大島中本洲ハ最大ニシテ、中央ニ横ハリ全長五百里ニ出入シ、幅最モ廣キ處ハ一百里ニ垂ントス、形ハ狹長ニシテ猶ホ蛟龍ノ洋中ニ浮フカ如シ、之ニ次クモノハ不毛未開ノ蝦夷即チ北海道本地ニシテ、本洲ノ北端ニ位シ、廣袤各、八十里、概形斜方ニシテ鱧魚ノ尾ヲ振フニ彷彿タリ、次ハ九州ニシテ本洲ノ西端ニアリ、幅員ハ北海道

ノ半ニ過ク、其外形破綻翩々タルヲ以テ、舞フ猿猴ノ評アリ、最小ナルハ即チ四國ニシテ本洲ノ南九州ノ東ニ横ハル、幅員ハ九州ノ半ニ及ハス、形ハ蝙蝠ノ空中ニ翔ルニ類ス、

(屬島) 屬島ハ無慮數千ニシテ其數詳ナラス、然レトモ周圍一里以上ノモノ及一里以下ト雖モ人民住居シ、又ハ望標ノ用ヲナスモノ、ミヲ算シテモ都テ五百二十五島アリ、其主ナルモノハ千島(三十

二島)琉球(五十五島)佐渡、隱岐、淡路、壹岐、對馬及小笠原島(十七島)等ト

ス、(明治廿四年九月九日勅令ヲ以テ小笠原群島中北緯廿四度ヨリ廿五度三十分ト東徑百四十一度ヨリ百四十二度三十分ト間ニ散在セル三島ヲ硫黃島ト稱シテ其南ニアルチ南硫黃島、北チ北硫黃島ト稱ス、ル旨ヲ公布セラレタリ)
千島諸島ハ蝦夷ノ東端ヨリ北東ニ向ヒ、琉球諸島ハ九州ノ南端ヨリ南西ニ向ヒ、共ニ點々長ク駛出シテ恰モ我國南北ノ兩端ヲ吊セル連鎖ノ如シ、佐渡、隱岐ハ日本海中ニ浮ヘル兩孤島ニシテ能登ノ半島ヲ隔テ、遙ニ相對向ス、小笠原島ハ本洲東海岸ノ伊豆七島ヲ

南ニ距ルコト、殆ト二百里天涯無限ノ太平洋中ニ寥々散點スル一
群ノ島彙ナリ、淡路島ハ四國中國ノ間ニ介マリ、大坂灣ノ口ニ横ハ
ル、壹岐ハ九州ノ北西玄海灘ノ中ニ在リ、對馬ハ壹岐ノ沖ニ位シ、朝
鮮ニ接近ス、釜山浦ヲ距ルコト僅ニ三十八里、本邦朝鮮間航路ノ衝
ニ當レリ、

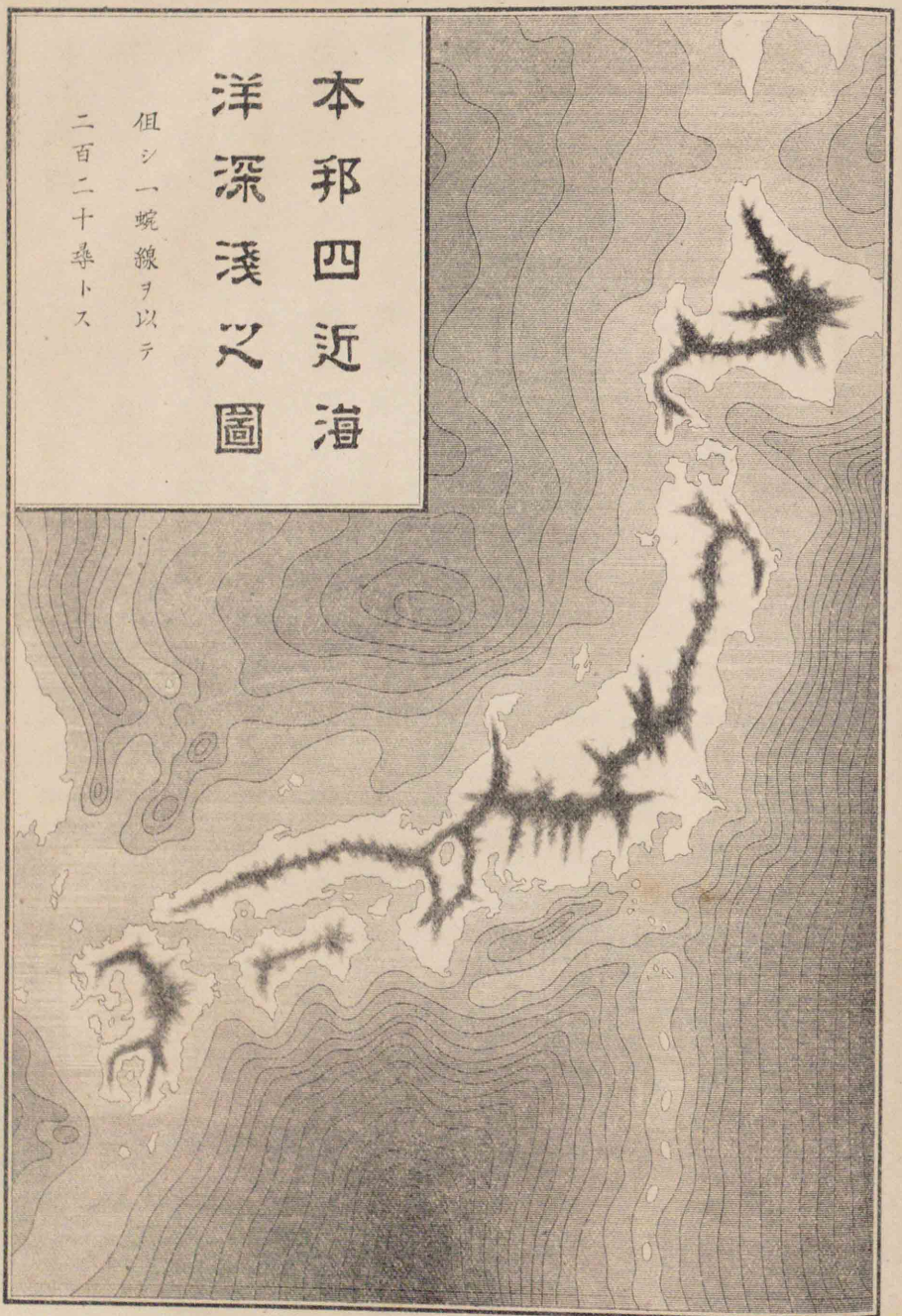
(面積) 本邦ノ面積ハ計二萬四千七百九十四方里トス、其内譯左ノ
如シ、

- (1) 本洲 一萬四千四百九十二方里
- (2) 北海道本地 五千〇五十七方里
- (3) 九州 二千三百十二方里
- (4) 四國 千五百五十一方里
- (5) 屬島 千七百八十二方里

(海岸) 本邦ノ海岸ヲ通觀スルニ、獨リ日本海ノ沿岸ハ水陸ノ交界
甚タ簡單ニシテ、殆ト一刀直截ノ姿ヲナセトモ、太平洋及支那海ノ
沿岸ハ、水陸交互錯雜シテ、半島岬角ノ突出、海水ノ灣入頗ル多シ、
今試ニ灣ノ主ナルモノヲ列舉スレハ、第一北海道ニ在リテハ根室
ニ根室灣アリ、膽振、渡島ノ間ニ火山灣(内浦トモ云フ)アリ、次ニ本洲
ニ在リテハ北端ニ青森灣アリ、日本海ノ沿岸ニハ能登、越中ノ間ト
若狹ノ沖トニ於テ、寬闊ノ曲灣アルノミナレトモ、太平洋ノ沿岸ニ
在リテハ北ニ仙臺灣アリ、中部ニ東京灣、品川灣、相模灣、相模灘、駿河
灣相竝ヒテ陸地ニ嚙入ス、西ノ方遠州灘ヲ越ユレハ三河、尾張ト伊
勢、志摩トノ間ニ、伊勢海ノ深キ灣入アリ、四日市、半田、武豐ノ三要港
ハ此灣内ニ在リ、更ニ進ミテ熊野浦ヲ過キ、紀州半島ヲ廻レハ、和泉、
攝津ノ沖ニ大阪灣(茅渚海)アリ、大阪灣ノ西ナル島嶼多キ内海即チ

瀬戸内海ニ在リテハ、播磨灘、水島灘、周防灘等ノ海水、中國四國ノ沿岸ニ蝕入シテ、到ル處ニ内海又ハ灣浦ヲ爲セリ、更ニ四國ニ渡レハ、南岸ニ土佐ノ大灣アリテ、太平洋ノ水ヲ抱ク、最後ニ九州ニ至レハ、南端ニ鹿兒島灣アリ、肥後ニ有明海、筑紫海ノ灣入アリ、肥前ニ大村灣、鯛浦アリ、三灣共ニ皆支那海ニ向ヒテ開放ス、
 (半島) 半島ハ蝦夷ノ南端ニ渡島ノ半島アリ、本洲ニ在リテハ北端ニ北郡半島アリ、日本海岸ニ能登半島アリ、太平洋海岸ニ房總半島、伊豆半島アリ、志摩、紀伊ノ二國モ亦洋中ニ浮出シテ半島ヲナセリ、九州ニ在リテハ南端ニ大隅、薩摩ノ兩半島アリ、西端ニ肥前ノ島原及彼杵郡ノ兩半島アリ、若シ大體上ヨリ云フトキハ肥前全國モ亦一半島ヲナセリ、岬角ノ如キハ全國ノ沿岸到ル處ニ之アリ、其數幾百ナルヤヲ詳ニスヘカラス、

本邦四近海
 洋深淺之圖



但シ一蛇線ヲ以テ
 二百二十尋トス

(海岸線) 我邦ハ環海國ニシテ、水陸ノ交界大ニ錯雜ヲ極ムレハ、海岸線ノ延長モ國ノ面積ニ比例シテハ頗ル長ク、大小島嶼ヲ合算シ其全長一萬五千三百里ニ及フノ概算ナリト云フ、四大島ノミニ就キテ、之ヲ觀ルモ、其延長ハ三千八百四十八里ノ長サニ達シ、皇國第一ノ内地タル信飛二國ノ如キモ、海岸ヨリ直路僅ニ六七十里ニ過キス、サレハ全國各地四方開達シテ開進的ノ新元素、内地ニ浸入傳播スルニハ最モ便利ナル國柄ナリトス、

(地勢) 本邦ノ地勢ヲ通覽スルニ、四大島共ニ之ヲ貫ク脊骨狀ノ山脈アリテ、其軸線ヲナシ、左右ハ斜面トナリ、徐々ニ海岸ニ向ヒテ傾斜セリ、吾人若シ左右ノ海岸ヨリ内地ニ向ヒテ進行セハ、地勢ハ次第ニ昂隆シ、遂ニ中央ニ達スレハ、重嶂疊嶺連綿タル山脈ニ會合スヘシ、サレハ本邦ノ中線ハ概シテ山勝ノ高地ニシテ、左右ノ側面ハ

平原多シトス、

(山脈) 扱本邦ノ軸線タル諸山脈ハ、其駛走スル方針ニ就キ、之ヲ南
北派東西派ノ二種ニ大別ス、各數線アリ、左ノ如シ、

(南北派第一) 南北派第一ハ露領樺太島ヨリ、其系統ヲ延キ、北海道
本地ヲ貫通スルモノニシテ、蝦夷山脈ノ名アリ、北ノ方宗谷岬ヨリ
起リ、北見・釧路・十勝ノ三國ト天鹽・石狩・日高ノ三國トヲ東西ニ分割
シ、日高ノ襟裳崎ヨリ海ニ沒ス、是蝦夷島ノ軸線ヲナシ、其河流ヲ左
右ニ分水スルモノニシテ、天鹽岳・十勝岳・石狩岳ノ諸火山ハ、此山脈
ト東西派第一ト交合スル處ニアリ、

(南北派第二) 南北派第二ハ本洲ノ北端陸奥ニ起リ、火山脈ト共ニ
三線トナリ、竝行南進シテ本洲中部ニ達ス、

三線ノ其一即チ東岸山脈ハ、陸奥八戸川ノ南ニ起リ、南ニ向ヒ太平

洋沿岸ヲ駛走シテ、陸中ニ入り種市山・早池峯・六角牛山ノ諸山トナ
リ、陸前ニ入りテハ五葉山・室根山等ヲ起シ、仙臺灣ニテ中斷シ、磐城
ニ再現シテ三春棚倉ノ東ヲ過キ、矢大臣山・赤井岳・八溝山ノ諸山ト
ナリ、常陸ニ入り金砂・高鈴ノ諸山ヨリ鳥ノ子山・加波山・筑波山ニ連
リ土浦ノ近傍ニ盡ク、

其二即チ中央火山脈ハ、本洲北半ノ軸線ニシテ、太平洋・日本海ノ兩
海ニ注入スル大小數百河流ノ分水界ヲナシ、山勢尤モ雄壯活潑ヲ
極ム、起頭ハ陸奥北郡半島ノ恐山ニシテ、青森灣ヲ横渡シ、八甲田山
ヲ起シ、陸中・羽後ノ境ヲ走テ右ハ森吉山・左ハ岩手山トナリ、進ミテ
駒ヶ岳トナリ、陸前・羽前ノ境上ヲ駛リ、陸前ノ藏王山即チ磐城ノ苅
田岳ヲ起シ、岩代ニ入り山脈頓ニ猛勢ヲ逞クシテ、西吾妻山・大磐梯
山ノ如キ火山質高峰十餘ヲ崛起シ、下野ノ那須山・高原山ヨリ幽峻

ナル日光山彙ニ連リ、上野ノ赤城・榛名妙義ノ諸山ヨリ淺間岳ヲ經テ信濃ニ入ル、
 其三即チ西岸火山脈ハ、陸奥ノ磐木山ヲ以テ起リ、日本海ノ海岸ニ近ク南行シテ羽後ニ入リ、高尾山・鳥海山トナリ、羽前ニ入リテハ羽黒山・月山・湯殿山ノ諸山ヲ起シ、越後ノ境上ニ於テ、朝日山・飯豊山ノ高嶺トナリ、進ミテ岩代・越後ノ嶮峻ナル境上ニ於テ、穗高・白根ノ諸山トナリ、三國峠ヨリ信濃ニ入ル、
 (南北派第三) 南北派第三ハ能登半島ニ起リ、本洲ヲ横斷シテ紀伊ニ達スル山脈ニシテ、能登ヲ發シ右ノ方加賀・越前ト左ノ方越中・飛騨ノ國境ヲ駛走シ、山勢頗ル嶮峻ヲ極メ、三國山・醫王山・大日山・白山等ノ諸高嶺ヲ起シ、美濃・伊勢ノ西境ヲ繞リ、伊吹山・鈴鹿山ノ諸山トナリ、遂ニ大和ニ入ル、

(南北派第四) 南北派第四ハ九州ニ横ハレル火山脈ニシテ、霧島火山脈ト稱セラル、其脈絡ハ遠ク南洋ノ諸島ニ起源シ、臺灣島ヲ經テ海ニ入り、琉球諸島ヲ噴起シ、薩摩群島ヨリ薩摩ノ南端ニ現ハレ開聞岳トナリ、櫻島ヲ噴出シ、大隅ヲ過キ日向ニ入りテ、霧島山ノ一大活火山ヲ起シ、肥後ニ入りテ、二派ニ岐分シ一派ハ北東ニ向ヒ、一派ハ南西ノ方針ヲ取ル、南西ノ方針ヲ取ルモノハ肥後ノ海濱ニ現ハレ、有明海ヲ渡リテ肥前ニ入り、島原ノ温泉岳ヲ起シ、進ミテ松浦郡ノ國見山・領巾振山トナリ海ニ没ス、北東ニ向ヘル本派ハ阿蘇ノ活火山トナリ、進ミテ豊後ノ九重岳・由布岳ノ諸火山ヲ起シ、兩豊ノ境上ニ於テ英彦山ヲ噴出シ、遂ニ國東郡ヨリ海ニ没シ、四國ニ於ケル伊豫道後ノ高繩山及讚岐ノ象頭山ト遙ニ氣脈ヲ通ス、而シテ英彦山ヨリハ別ニ又一帶ノ山脈西ニ向ヒテ走出シ、筑前ノ南境ヲ走リ

領巾振山ニ連接ス、

(東西派第一) 東西派第一ハ北海道ヲ東西ニ貫通スルモノニシテ、千島火山脈ノ名アリ、其系統魯領甘察加及アリユーシヤン(Alentian)諸島ヲ經テ、遙ニ北米大陸ニ連絡スル一大火山系ニ屬シ、千島諸島ヲ渡リテ、根室北見ノ境ニ上陸シ、釧路北見ノ境上ヲ走リテ、天鹽岳ニ於テ南北派ナル、蝦夷山脈ト交合シ、釧路十勝日高膽振ノ四國ト石狩後志ノ二國トヲ左右ニ分割スル境界線トナリ、夕張岳・札幌岳・後方羊蹄山ノ諸峰ヲ起シ渡島ニ入ル、

(東西派第二) 東西派第二ハ本洲ノ西半即チ中國ヲ東西ニ貫通スルモノニシテ、火山脈ト共ニ二線ヲナス、其一即チ中國山脈ト名クルモノハ、中國ノ軸線ニシテ、長門ノ西端鬼城山ニ起リ、山陰山陽兩道ノ天然ノ境界線トナリ、其河流ヲ東西ニ分水ス、長州ノ徳佐岳、藝

州ノ鬼城山、備後備中ノ西境ナル三個ノ三國山、作州ノ笠形山等ハ此山脈中最モ顯著ノモノニシテ、遂ニ丹波ヲ經テ山城ニ入り、愛宕山・比叡山トナリ、近江ニ入りテ比良山トナリ琵琶湖ノ北邊ニ達ス、其二ハ中國ノ火山脈ニシテ、前者ト並行ニ山陰道諸國ニ連ル、起頭ハ石雲兩州ノ境ナル三瓶山ニシテ、出雲ノ天狗山・三郡山トナリ、伯州ノ大山トナリ、但馬ノ妙見山・來日山トナリ、丹波丹後ノ境ヲ走リテ大江山・鬼城山トナリ、若狹ノ東境ヲ繞リテ多良嶽トナリ、進ミテ南北派第二ト交叉シ、大日山・白山ニ連リテ飛驒ニ入ル、

(東西派第三) 東西派第三ハ九州ヲ東西ニ横斷シ、海ヲ渡リテ四國ヲ貫通シ、進ミテ紀伊・大和ヲ走過シ、伊勢内海ヲ隔テ、遙ニ信濃ニ向フ、

九州ニ在リテハ之ヲ九州山脈ト稱シ、九州ノ重ナル大川ノ分水界

ナナス、其起頭ハ肥後葦北郡ノ海岸ニシテ、日隅兩國ノ境ニ於テ國
 見岳ヲ起シ、進ミテ高千穂ニ盤囀シ、豊後ニ入り白杵ヨリ佐賀ノ關
 ニ出テ四國ニ向フ、
 四國ニ在リテハ四國山脈ト稱セラレ、四國全島ノ軸線ヲナシ、大小
 湫流ヲ南北ニ分水ス、起端ハ伊豫ノ鬼城山ニシテ、土佐、伊豫兩國ノ
 境上ヲ走り、石槌山ヲ起シ、阿波ニ入りテ劍山トナリ、吉野川ノ南岸
 ナ沿走シテ、紀伊ニ向ヒ海ニ没ス、
 紀伊ニ在リテハ紀伊山脈ト稱セラレ、和歌山ノ南ヲ駛走シテ高野
 山ニ連リ、大和ニ入り、幽峻ナル吉野ノ山彙トナリ、吉野川ノ南岸ニ
 屏立シ、伊勢ニ入り、伊勢内海ヲ隔テ、遙ニ信濃ニ通ス、
 (富士帶) 以上述ヘシ如ク、我國ノ東西諸山脈ハ概テ本洲ノ中央、信
 濃・飛驒ノ兩國ニ湊合中集スルカ故ニ、此二國ハ本邦無雙ノ深山國

ニシテ、山脈縱横ニ馳騁シ、山嶺最モ峻秀ナリ、而シテ此處ニ又地底
 ノ火力ハ諸山脈接合ノ弱點ヲ求メテ、一帶ノ火山脈ヲ噴起セリ、是
 即チ富士帶ニシテ、越後ノ妙高山・燒山ニ起リ、信濃ニ入り、黒姫山・高
 妻山ヲ起シ、越中・信濃ノ境ニ於テ針木峠トナリ、進ミテ信飛兩國ノ
 境上ヲ走ル、此處ニ鎗ヶ岳・穗高山・大天王山・常念山・乘鞍ヶ岳・御岳等
 殆ト一萬尺ニ垂ントスル高峰、雲ヲ凌キテ聳立ス、是ヨリ山脈ハ南
 東ニ向ヒ、諏訪郡ノ高地トナリ、進ミテ甲州ノ諸山トナリ、甲駿ノ境
 ニ於テ本脈ノ盟主ト稱スヘキ本邦第一ノ高峯、即チ富士山ヲ噴出
 ス、富士山ノ最高頂ハ海面ヲ抜クコト一萬二千三百七十尺、巍然ト
 シテ天荒ヲ衝キ、雲間ニ聳ユ、山頂ハ四時白雪ヲ冒シ、恰モ白扇ノ空
 中ニ倒懸スルカ如シ、實ニ我國不二ノ壯觀タリ、是ヨリ山脈ハ南進
 シテ愛鷹山トナリ、相模ノ足柄・函根ニ連リ、伊豆半島ヨリ海ニ没シ

テ、伊豆群島及小笠原島ニ連絡ス、
 (高山) 右ハ本邦ノ最モ顯著ナル山脈ヲ示シタルモノニシテ、其他
 ノ小山脈亦尠カラス、斯ク本邦ハ山脈ニ富メル國柄ナレハ、國內ノ
 名山高峰亦頗ル數多シ、今其最モ著名ナル高峰ヲ舉クレハ左ノ如
 シ、

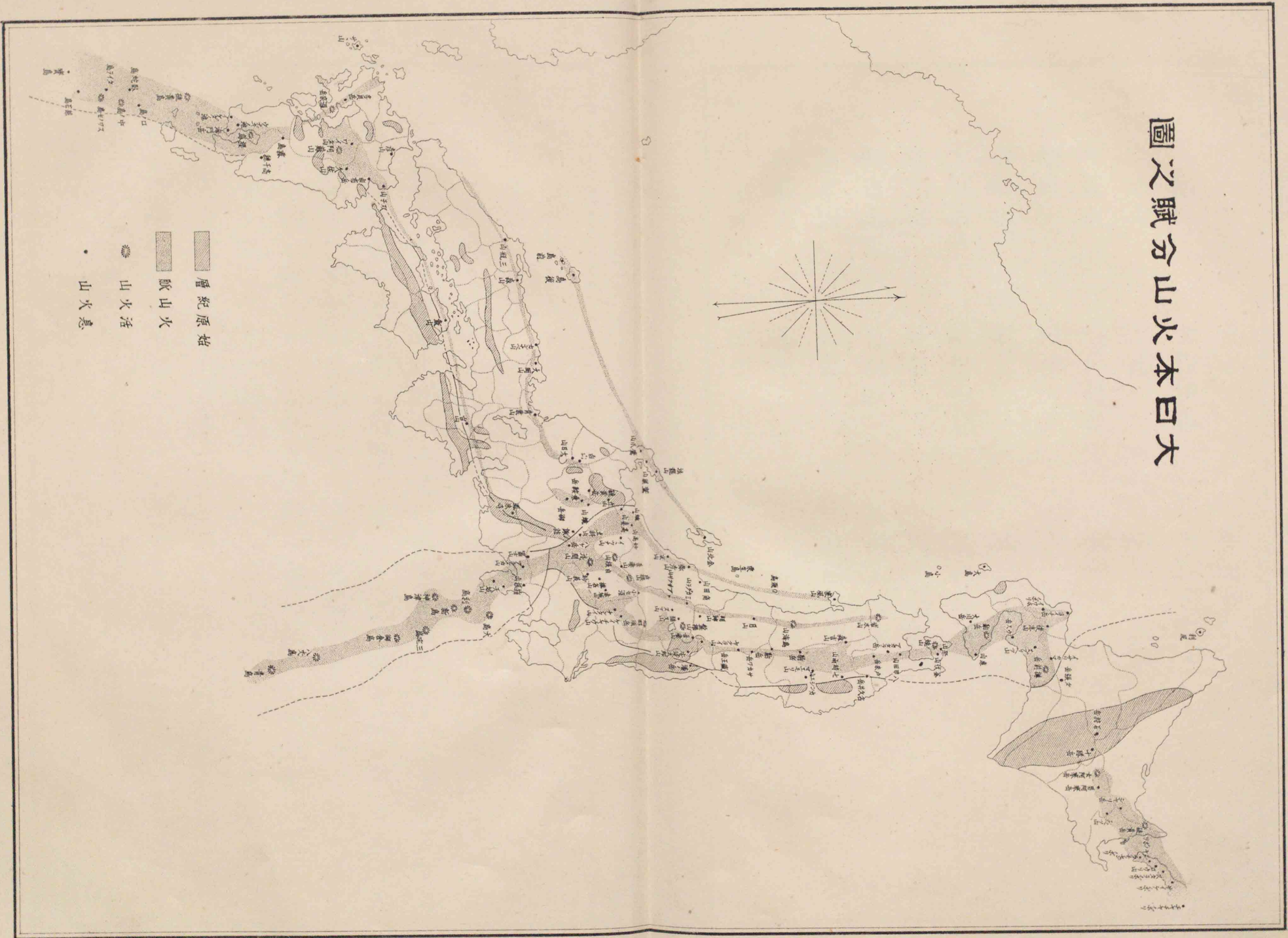
山名	國名	海面ヨリノ高サ
富士山	駿甲兩州	一二、三七〇尺
御岳	信濃	一〇、七〇〇尺
赤石山	信濃	一〇、二一四尺
白根山	甲斐	一〇、二一二尺
駒ヶ岳	甲斐	九、九〇五尺
大蓮華山	越中	九、八七一尺

蓮華山	信濃・越中	九六八三尺
錫杖ヶ岳	信濃	九、二四〇尺
八ヶ岳	甲斐	九、一一六尺
乘鞍ヶ岳	信飛兩州	九、一〇九尺
前岳	信濃	九、一〇八尺
白山	加賀	八、九四七尺
奥ノ院	全上	八、七九一尺
淺間岳	信州	八、二三〇尺
男體山	野州 日光	八、一九六尺
鳥海山	羽後	六、八八五尺
巖手山	陸中	六、七九七尺
月山	羽前	六、七八〇尺

阿蘇山	溫泉山	霧島山	藏王山	大日岳	磐梯山	劍山	飯豐山	赤城山	石槌山	後方羊蹄山
肥後	肥前	日向	陸前	越前飛驒	岩代	阿波	羽前越後	上野	土佐伊豫	後志
四、二二〇尺	四、四七〇尺	四、八一六尺	五、六〇五尺	五、九七〇尺	六、〇七二尺	六、一二〇尺	六、一六七尺	六、四三一尺	六、四七二尺	六、五三〇尺

(火山) 本邦山脈ノ大半ハ火山脈ナレハ、全國火山處々ニ散在シ、其

大日本火山分賦之圖



總數百七十座ノ多キニ及ヒ、國內ノ名山高峯ト稱セラレ、モノ、多クハ活火山ニアラサレハ息火山又ハ睡眠火山ナリ、今圖ヲ以テ火山分布ノ一斑ヲ示スヘシ、

(地震) 斯ノ如ク、本邦ノ地タル地心熱ニ起因スル火山ニ富ムヲ以テ之ト相關係スル土地ノ震動ニ感スルコト頗ル多ク、其震數一年ニ數十回ヨリ數百回ニ及ヘリ、而シテ其強大ナルニ至リテハ、家屋ヲ倒シ、山岳ヲ崩シ、或ハ海陸ノ變更ヲ來シ、以テ人畜財産ヲ傷害セシコト古來史上ニ見ル所ナリ、

(平原) 全國狹長ニシテ、山嶽疊々タルヲ以テ、我國ニハ千里ノ曠野、無限ノ平地ト稱スヘキモノナシ、其稱シテ平原ト云フモノモ、僅ニ山間ノ狹小ナル溪谷ニアラサレハ、山脈ノ緩徐ナル傾斜面ニシテ、大陸地方ノ平原ト對匹スヘキモノアラス、今其主ナルモノヲ擧ク

レハ、北海道ニアリテハ石狩河領ノ石狩平原最モ廣ク、地味肥沃ニシテ萬木雜生セリ、本洲ニアリテハ東部ノ奥州平原ハ北上阿武隈兩河ノ河領ニシテ、陸前陸中岩代磐城ニ連リ廣袤頗ル曠漠タルカ上ニ、其地味膏腴、田園遠ク相連レリ、中部ニ於テ關八州ノ平原ハ本邦第一ノ平野ニシテ、南ニ向ヒ放開シ、中央ニ筑波山ヲ抱キ、武藏上野下野常陸下總ノ諸國ニ跨リ五六十里ノ間ニ連亘ス、利根荒川ノ二川之ヲ灌溉シ、土地肥へ人煙稠ク、古來關八州殷盛ノ本源タリ、此平地ハ海底ノ隆起、遂ニ陸ニ變セシモノニシテ、其深所ハ霞浦印幡沼ノ如ク、今尙ホ瀦水シテ湖水トナレリト云フ、關八州ノ平原ニ次クモノハ木曾川沿岸ノ沃野ニシテ、濃尾兩國ニ擴カリ、地味最モ豊饒ニシテ、滿面田野ヲ以テ蔽ハル、信濃川下流ノ日本海ニ濱セル越後ノ平原ハ、日本海沿岸唯一ノ大曠原ニシテ、殆ト四十里ノ間ニ連

レリ、其他畿内ノ淀川及大和川ノ平原ハ稍闊大ニ中國諸大河ノ沿岸ニアル平原ハ地域皆狹逼セリ、
四國ニ在リテハ吉野川ノ平原最モ曠闊ニシテ、阿州藍ヲ産シ、九州ニ在リテハ有明海濱一帶ニ連亘スル筑紫ノ平原ハ肥前筑後肥後ニ連リ有名ナル米ノ產地タリ、
(河流) 本邦ハ狹長ノ島國ニシテ、地域淺薄ナレハ、其涵養スル川河概シテ小流ナリ、然レトモ其數ニ至リテハ非常ニ夥多ニシテ、殆ト無數ト稱ス可シ、此等ノ衆流ハ全國各地ニ流通シテ、土地ヲ濕潤シ、地味ヲ肥沃ナラシメ、又多少舟楫ノ便利ヲ與ヘテ、交通ヲ自由ニスルカ故ニ、其我國ニ與フル利益ハ決シテ小少ニアラサルナリ、
今本邦大河ノ重ナルモノヲ指名スレハ、第一ハ北海道ノ石狩川ニシテ百六十七里ノ長サニ達シ、之ニ次クモノハ本洲ノ北上川信濃

川及利根川ニシテ流程百里ニ垂ントス、信濃ノ木曾川、遠江ノ天龍川、駿遠二州ノ境ナル大井川、岩代ノ阿武隈川、羽前ノ最上川、駿河ノ富士川、越中ノ神通川、越後ノ阿賀川、紀伊ノ紀ノ川、阿波ノ吉野川、筑後ノ筑後川等ハ皆五十里乃至二十里ノ長流ニシテ、本邦大河ノ部中ニ數ヘラルヘシ、

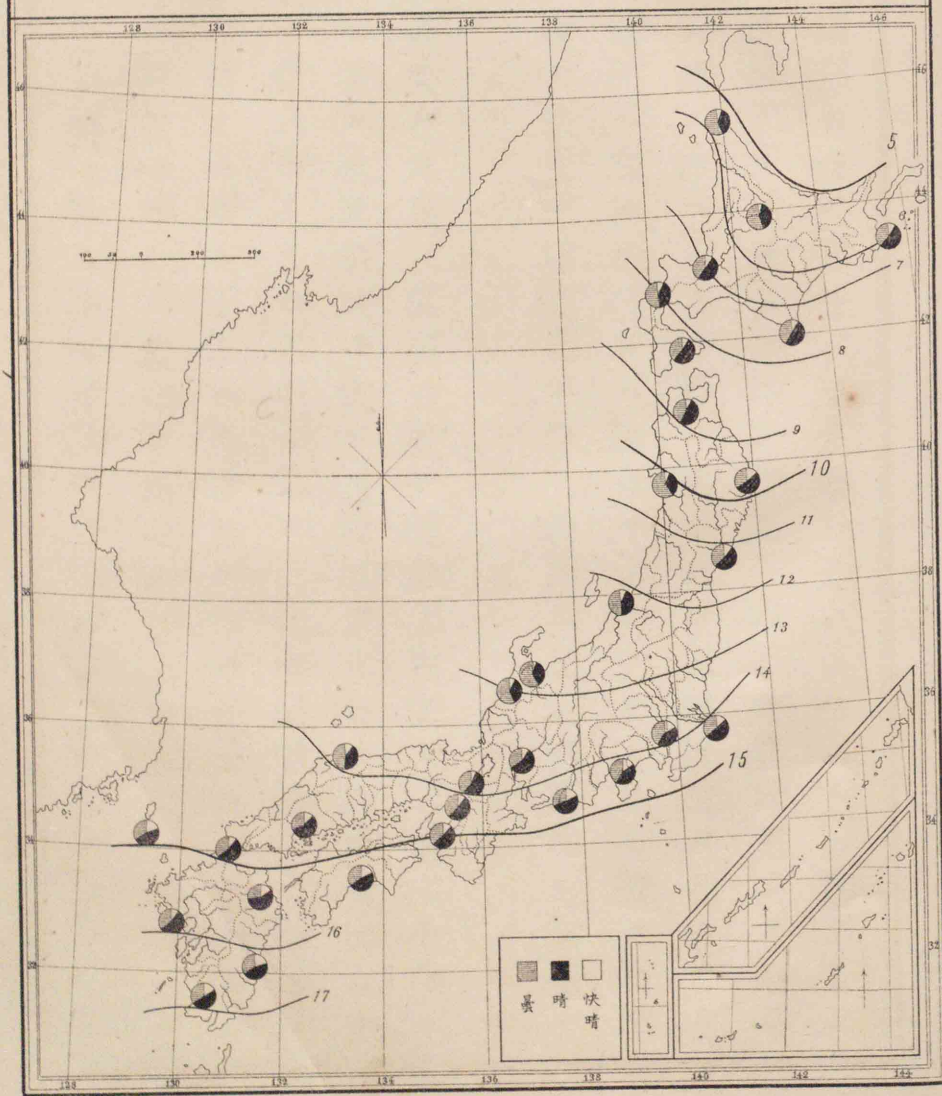
(湖水) 湖水ハ大小共ニ本洲ノ諸處ニ散在シ、北海道四國及九州ニ、於テハ見ルコト幾ト罕ナリ、其最大ナルモノハ近江ノ琵琶湖ニシテ、周回七十餘里、水深クシテ汽船常ニ湖上ヲ往來ス、次キテ最大著名ナル者ハ、常陸ノ霞ヶ浦、羽後ノ八郎潟及岩代ノ猪苗代湖等トス、偕我國ノ湖水ハ、大別四種ニシテ、一ハ窪地ニ水ノ滯瀦セル者、二ハ化陸セル海底ノ一部ニ尙ホ水ヲ湛ヘル者、三ハ近海ノ一部漸次ニ堆砂ノ爲メ圍繞サレタル者、四ハ火山ノ舊噴口ニ瀦水セルモノ是

ナリ、而シテ前ニ指名セル四大湖ハ、各個ニ右四種ノ代表者ト稱スルヲ得ヘシ、遠州ノ濱名湖及日本海沿岸ニ散布スル潟ト稱スル諸沼澤ハ、概シテ第三種ニ屬シ、信州ノ諏訪湖、箱根ノ蘆湖ノ如キ山中ノ湖水ハ第四種ニ入ルモノ多シ、

(溫泉) 全國火山脈縱橫馳騁スルヲ以テ、溫泉諸所ニ湧出ス、其著名ナルモノハ上州ノ伊香保、草津、伊豆ノ熱海、相州ノ箱根、攝津ノ有馬、伊豫ノ道後等ニシテ、炭酸泉、硫黃泉、鐵泉、鹽類泉及鹽泉ノ五種ニ分ル、共ニ病痾ヲ治スルニ奇効アリ、

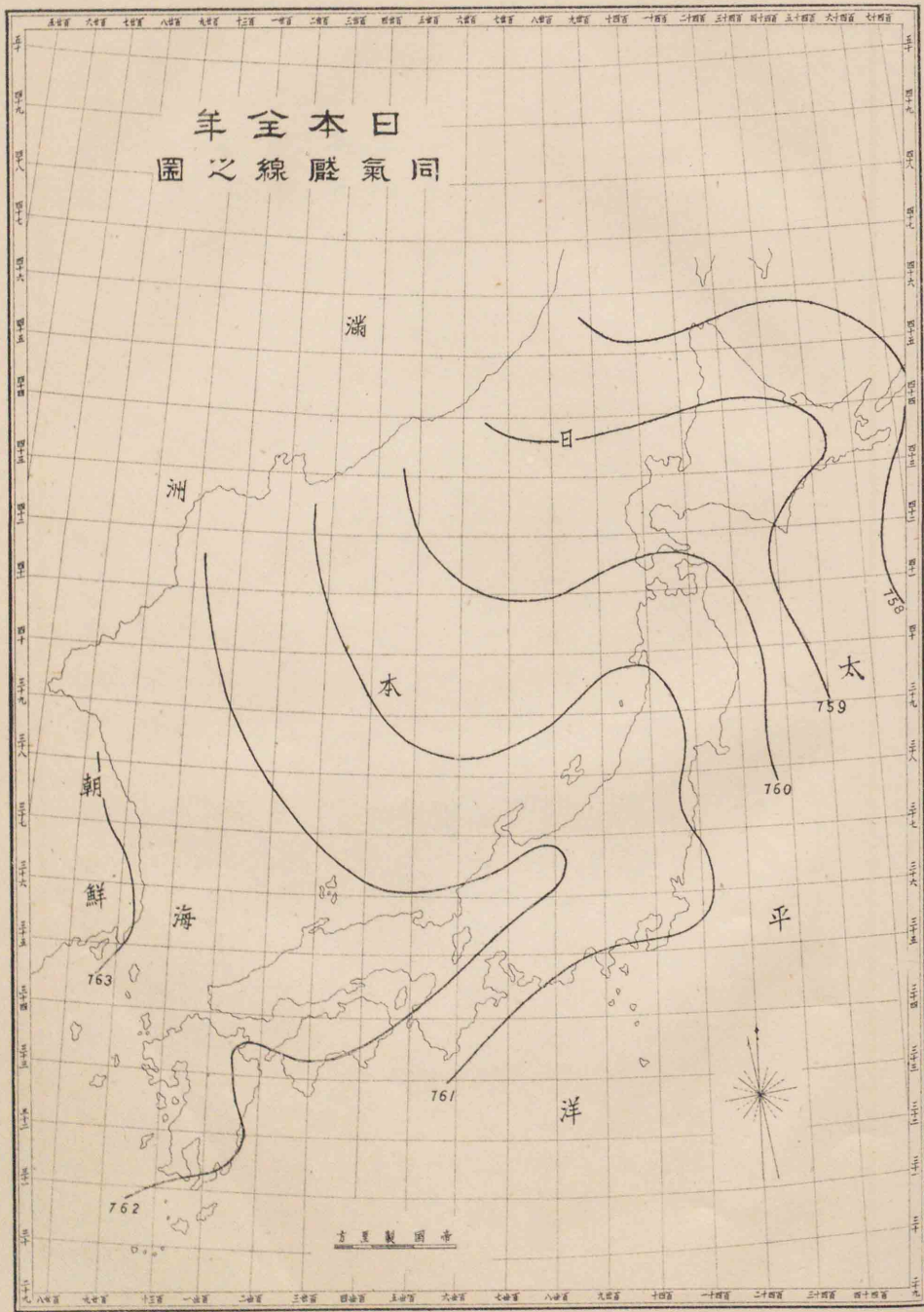
(溫度) 本邦ノ位置北暖帶ニアルヲ以テ、其氣候ハ之ヲ概論スレハ、寒熱共ニ甚シカラス、中正溫和ナリト稱スヘシ、然レトモ其國タル南北二十有七緯度ノ間ニ連亘シ、加フルニ近海ニ寒溫ノ兩潮流アリテ沿岸ヲ洗流シ、氣候ニ著シキ影響ヲ與フルカ故ニ、各地寒暖ニ

全 天
同 溫 線 及 晴 陰 比 例 圖



大差アルハ言ヲ俟タサル所ナリ、
 近海ノ潮流ニ二種アリ、一ハ黒潮ト稱シ赤道洋流ニシテ、夏期ニ於
 テ平均温度攝氏二十七度八ヲ有シ、臺灣ヨリ北流シテ琉球諸島ヲ
 過キ、九州ノ南端ニ於テ本支兩流ニ岐分シ、支流ハ九州ノ西海岸ヲ
 廻リ日本海ニ入り北ニ向フ、本流ハ九州四國及本洲ノ南海岸ヲ沿
 行シ、下總ノ犬吠崎ヨリ北東ノ方向ニ駛走シテ海岸ト離隔ス、サレ
 ハ四國九州及本洲西半ノ大平洋側面ノ地ハ、此溫流ノ感化ヲ受ケ
 氣候溫暖ニシテ、冬期短ク嚴寒ノ候ニテモ積雪ヲ見ルコト罕ナリ、
 二ハ北極洋流ニシテ、親潮ト稱シ、夏期平均攝氏二度八ノ低溫ヲ有
 シ、黒潮ト正反對ノ方針ヲ取り、北海道及本洲東半ノ兩海岸ヲ沿流
 ス、北海道及奥羽越後地方ハ、緯度高キカ上ニ此寒流ノ影響ヲ蒙ル
 カ故ニ、寒氣酷烈ニシテ、寒中ニハ積雪數月ニ亘リ融解セス、河水往

々凍合シテ冰上ヲ徒行スヘシ、其冬季モ長クシテ六七ヶ月ニ及ヒ
春夏秋ノ三季短クシテ、桃李櫻梅ノ諸花一時ニ破綻シ、馥郁タル梅
香ヲ爛熳タル櫻ニ添フルノ奇觀ヲ呈ス、總テ北海道及本洲ノ日本
海ニ向ヘル側面ハ、寒流ノ冷氣ニ感スルノミナラス、又直接ニ大陸
地方ノ寒風吹キ來ルヲ以テ、太平洋ノ側面ニ比シ寒冷ナルヲ常ト
ス、
本邦ノ最高溫度ハ九州ノ南端ニ於テ攝氏十六度九、明治二十年ヨ
リ二十二年ニ至ル積算溫度ニ依ル、北海道ノ北端ニ於テ五度六ニ
シテ、平均十一度三ナリ、之ヲ他邦ニ比スレハ、歐洲南部ノ佛蘭西、伊
太利及支那中部ノ溫度ト匹敵セリ、而シテ亞細亞東部ノ全緯度ノ
地ニ比スレハ、稍寒冷ナリトス、
(氣壓) 氣壓ハ冬期ハ概テ西南地方ニ高く、暑候ハ東北地方ニ高シ、



北海道ハ氣壓ノ變化殊ニ甚シク、根室ノ如キハ瞬間ニ最高點ヨリ最低點ニ劇變シ、亂高下ヲナスコト多シ、

(風) 本邦ノ風位ハ西風最モ多ク、北風及北西風之ニ次キ、南東風最モ少シ更ニ四季ニ就キテ之ヲ見レハ、風位ハ自ラ四維ヲ循環スルモノ、如シ、即チ冬季ハ北風及西風多ク、春季ハ西風及南風多ク、夏季ハ南風及東風多ク、秋季ハ東風及北風多シ、又本邦ハ印度洋ノ颶風境內ニアルヲ以テ七八月ノ頃殊ニ二百十日前後ニ於テハ、暴風屢來襲シテ秋實ヲ損害ス、但シ奥羽及北海道ニハ吹キ至ラスト云フ、今圖ヲ以テ各地ニ於ケル風向ノ有様ヲ示スヘシ、

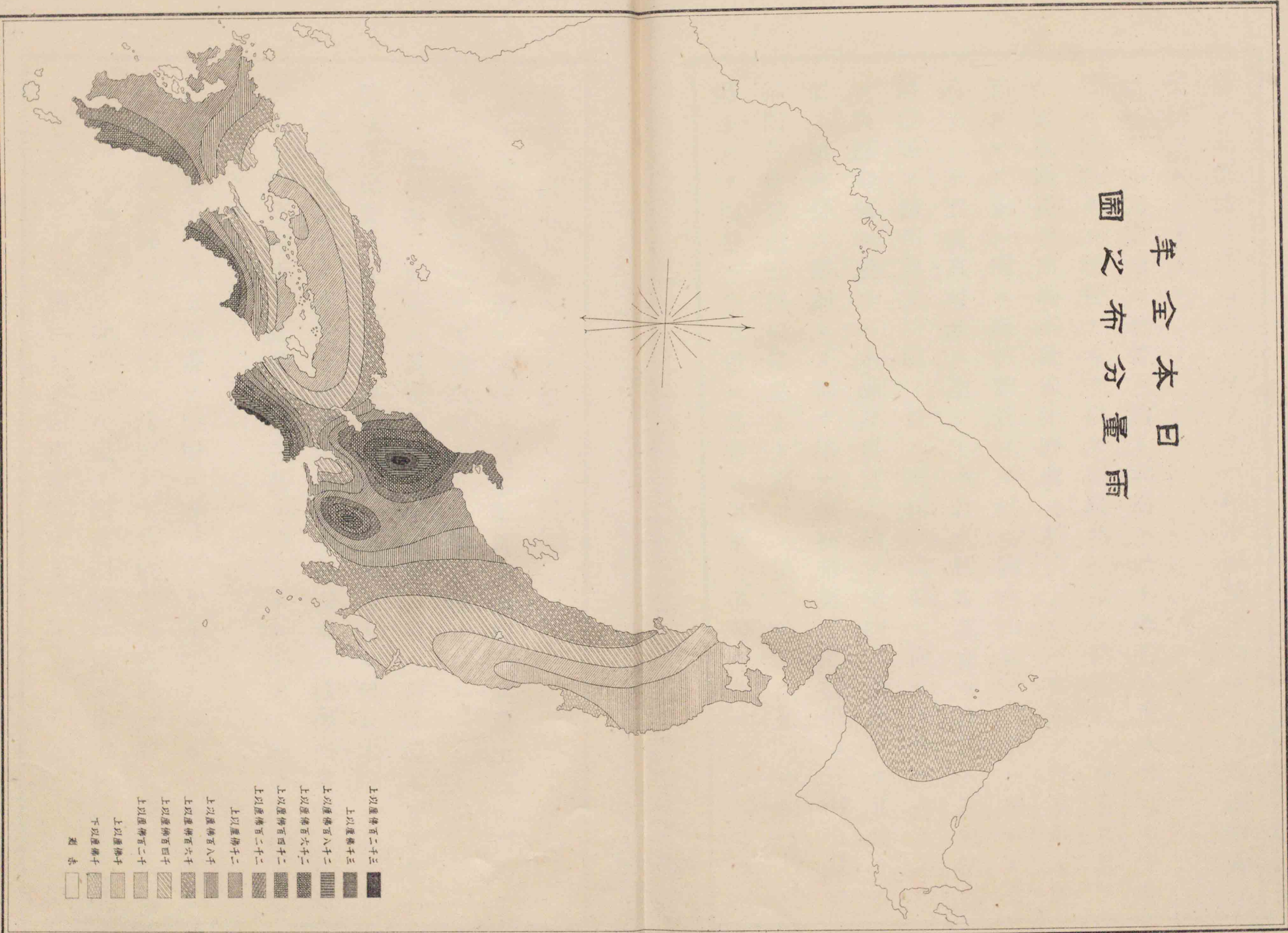
(濕氣) 濕氣ハ他邦無類ニシテ、空氣ハ四季共ニ多量ノ水分ヲ包含ス、就中春夏ノ交ニ於テ最モ甚シク、冬期ニハ稍減少ス、是主トシテ夏期ニハ溫氣ヲ含メル東南風太平洋上ヨリ吹キ來リ、冬期ニハ

乾燥セル西北風流行スルニ由リテナリ、
(雨量) 雨量モ空氣中ノ濕氣ニ伴隨シテ、亦多量ナルハ自然ノ道理
ナリ、都テ冬期即チ十一月ヨリ翌年三月ニ至ル、五ヶ月ノ間ハ晴朗
ノ天氣多クシテ、乾燥期タリ、然レトモ其他ハ大抵降雨多クシテ、陰
濕期ニ屬ス、特ニ六月ハ梅雨ノ期節ト稱シ、陰霖尤モ甚ダシ、是太陽
カ北ノ回歸線ヲ徘徊スルノ期節ニシテ、印度洋ノ濕氣多キ恒風其
方位ヲ變シ、南西ヨリ北東ニ向ヒ支那ノ南部ヲ經テ我國ニ吹キ來
ルニ由ルナリ、梅雨ハ微雨ノ謂ヒニシテ、陰雨濛々大約三十日ニ亘
リ、室内諸具ニ黴菌ヲ生シ、陰鬱實ニ云フヘカラス、
全國降雨ノ多量ナルハ、太平洋日本海兩沿岸ノ地ニシテ、就中能登
半島ノ近傍、九州及四國ノ西南沿岸ヲ最トス、而シテ本邦鹽ノ主産
地ナル中國内海ノ兩沿岸ト奥羽北海道ノ地ハ雨量最モ少シ、但シ

國ノ北部殊ニ北海道ニアリテハ、年中雨量平均ニシテ、乾濕季節ノ差別アルコトナシ、

(植物) 本邦南端ハ熱帶ニ迫リ、北端ハ殆ト寒帶ニ進入ス、而シテ中部ハ純然タル暖帶ナルヲ以テ、寒暖熱三帶ノ諸植物ヲ併有ス、且ツ全國氣候溫暖、雨潤多量、地味亦概テ肥沃ナレハ、草木ノ繁殖最モ旺盛ニシテ到ル處ニ深林鬱蒼タリ、試ニ國內山林ノ反別ヲ閱スルニ、殆ト一千五百萬町歩ニ垂ントス、若シ林政其宜キヲ得ハ、造船造家鐵道等ノ諸用材及薪炭ノ資ハ、内國ノ需要ニ向ヒテ餘裕多カルヘシ、農商務省ニ於テハ本洲及四國九州ノ植物ヲ調査シテ、其地ヲ五個ノ植物帶ニ區別セリ、即チ第一榕樹帶、第二黑松帶、第三山毛櫸帶、第四白檜帶、第五偃松帶是ナリ、而シテ第二第三兩帶ノ中間ニ於テ、時トシテ間帶ヲ生ス、但シ各帶ノ名稱ハ、其帶中尤モ多ク繁生スル

日本全羊分圖



- 上以厘佛百二十三
- 上以厘佛千三
- 上以厘佛百八十二
- 上以厘佛百六十二
- 上以厘佛百四十二
- 上以厘佛百二十二
- 上以厘佛千二
- 上以厘佛百八十
- 上以厘佛百六十
- 上以厘佛百四十
- 上以厘佛百二十
- 上以厘佛千
- 下以厘佛千
- 未

植物ヲ撰取セルモノト知ルヘシ、

(第一榕樹帶) 此帶ハ本邦ノ最暖部、即チ薩摩日向及土佐ノ南端ヲ占メ、區域狹小ニシテ常綠樹凡ソ二十三種ヲ有ス、

(第二黑松帶) 此帶ハ區域甚タ廣ク、南端ハ第一帶ノ境ヨリ、東北ハ磐城及能登ニ入り、本洲四國九州ノ全半ヲ占ム、但シ本洲ニ在リテハ、三千尺以上ノ高地ニ達スルコトナシ、樹木ハ樟、檜、椎等四十九種ヲ有シ、落葉樹少シ、此帶ハ第三帶ニ境スルコトアリ、或ハ間帶ニ境スルコトアリ、

(間帶) 是第二、第三兩帶ノ中間ニ時トシテ介在スルモノニシテ、其一ハ相模武藏兩毛常總ノ諸國ヨリ、磐城、岩代、陸前ヲ經テ陸中ニ盡キ、其一ハ越前ヨリ北陸道ヲ走り、羽前、羽後ニ至ル、樹木ハ二帶、三帶ノモノ凡ソ七十種ニシテ、赤松、櫟等アリ、

(第三山毛櫸帶) 此帶ハ稍寒冷ニシテ、第二帶若クハ間帶ト第四帶トノ間ヲ占メ、東山道及北陸道ノ東部、東海道ノ北部ニ領地廣ク、四國九州中國畿内ニハ狹シ、面積ハ第二帶ニ匹敵ス、樹木ハ楞檜、ヒバ、等五十五種ニシテ、概テ落葉樹タリ、故ニ冬季ニハ寒林荒涼タリ、竹ハ此帶以上ノ寒地ニハ生育セス、

(第四白檜帶) 此帶ハ東海東山北陸三道ノ寒冽ナル高山地方ヲ占ム、阿波ノ劍山、伊勢ノ石櫃山ノ外ハ他ノ諸道ニ之ヲ認メス、越中、越後、信飛、甲兩毛諸國ノ山地ニ連亘シテ帶ヲナス、樹木ハ白檜、タケモミ、ノ二種ノミニ限レリ、

(第五偃松帶) 此帶ハ嚴寒ノ地ヲ占メ、各帶中最高點ニ位シテ、樹木生育ノ極帶ナリ、東海東山北陸三道ノ高山ニ往々之アレトモ、帶狀ヲナスモノ稀ナリ、樹木ハ僅ニ偃松ノ一種トス、

日本植物分布圖

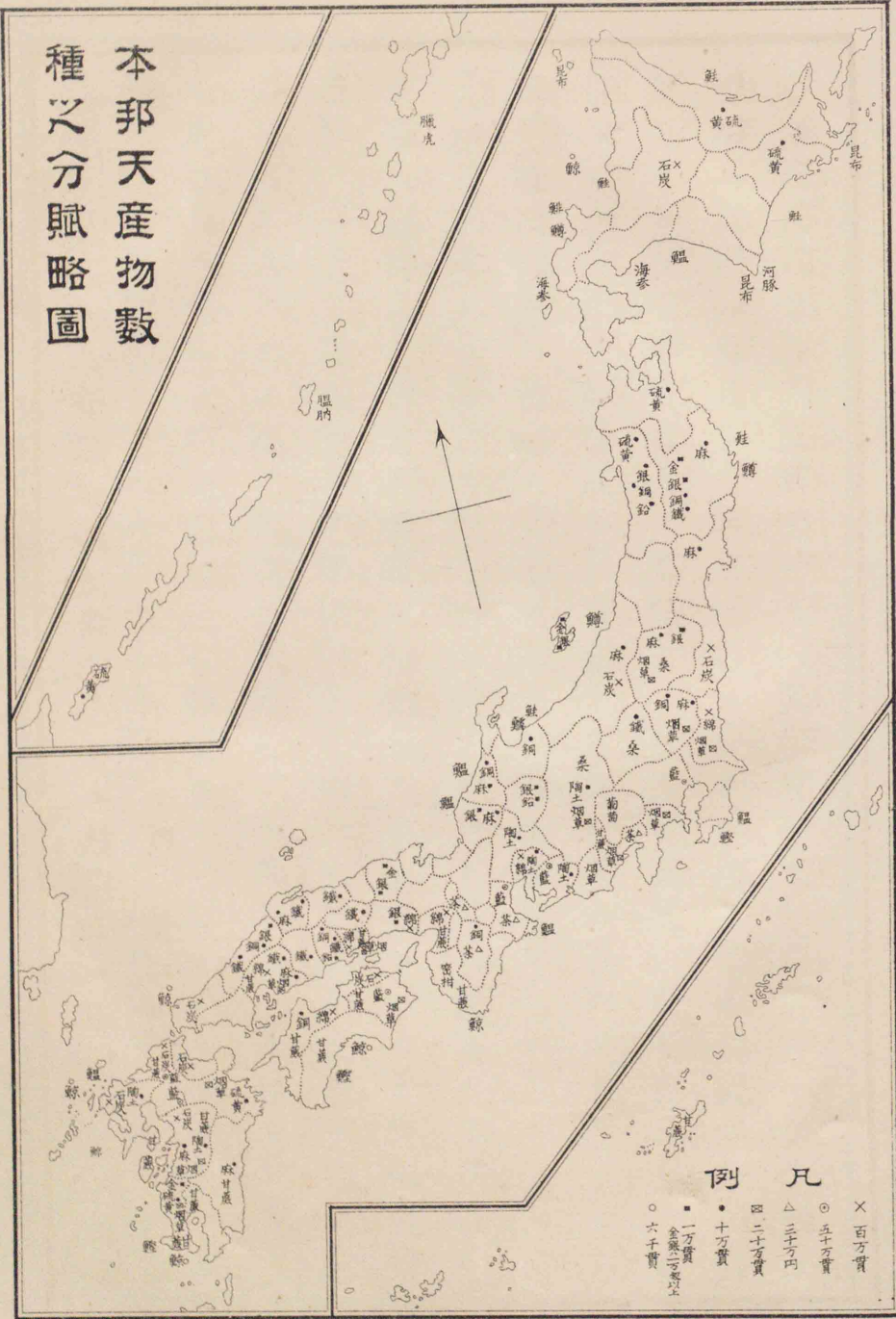


(動物) 動物ハ其種類多カラス、殊ニ猛獸少シ、野獸ニハ猪、鹿、兔、狐、狸、
鮑等各地ニ産シ、猿ハ四國ニ多ク、熊、狼ハ寒地ニ棲息ス、海獸ニハ鯨
豚、臘虎ハ北海ニ住シ、鯨ハ北海及四國九州ノ近海ニ多ク出沒ス、家
畜ニ馬アリ、牛アリ、羊アリ、家猪アリ、雞アリ、皆能ク繁殖ス、其他魚類
ハ全國ノ近海ニ繁生シテ、食料ノ重ナル部分ヲ占メ、水陸ノ禽鳥亦
夥シ、

蟲類ノ中、蠶ハ最モ好ク本邦ノ風土氣候ニ適シテ、全國各地殆ト飼
養セサル處ナキカ故ニ、生絲及繭ノ産出其額鮮カラス、

(鑛物) 鑛物モ播布頗ル饒カニシテ、金屬ニハ金、銀、銅、鐵、鉛、安質母尼
アリ、非金屬ニハ石炭ハ産處多ク、石油、硫黃、陶土ハ處々ニ出ツ、其他
丹礬、綠礬、土瀝青、雲母等モ亦之アリ、石材ハ花崗石ハ多ク、大理石ハ
稀ナリ、寶石ハ水晶、瑪瑙アリ、

本邦天産物數
種之分賦略圖



(物産) 右ノ如ク、本邦ハ動植鑛ノ三物ニ饒富ナル國柄ナレハ、其物産ト稱ス可キモノ無慮千百ニシテ敢テ數ヘ盡スヘキ所ニアラス、今其主要ノモノ、ミナ列舉スレハ、鑛物ニハ金、銀、銅、鐵、鉛、石炭アリ、農産物ニハ米、麥、豆、其他雜穀、甘藷、馬鈴薯、綿、麻、烟草、藍等アリ、果物ニハ密柑、柿、梨、葡萄、林檎等アリ、畜類ニハ牛、馬、羊、豚及鶏アリ、海産物ニハ鱈、鯧、鯖、鮭、鱒、鱈、鮪、鰻、鮑、海參等諸種ノ魚介及昆布、石花菜、海苔等ノ海草アリ、製品ニハ生絲、織物、茶、砂糖、紙、蠶卵紙、樟腦、酒、油、食鹽、醬油、磁器、陶器、漆器、金銀細工等アリ、

右物産中、重ナルモノ二三ニ就キ、其産額ヲ見ルニ、明治廿二年中、米ノ收穫ハ三千三百萬七千五百六十六石(反別二、七二六、五三八町步)、大麥七百十八萬八千百十石(反別六三〇、八一三町步)、裸麥四百八十九萬五千五百六十三石(反別五八五、二〇八町步)、小麥三百二十二萬

一千四百八十五石(反別四三六一四〇町步)ナリ、明治廿一年中、繭ノ
産額ハ百一十一萬八千二百八十石ニシテ、生絲ハ九十四萬四千四百
貫目ナリ、又全年中、製茶ノ産額ハ七百二十五萬二千七百八十七貫
目ニシテ、酒類ノ醸造高ハ三百九十六萬七千六百四十八石ナリト
云フ、(輸出物品ハ輸出入ノ項ニ掲クル表ヲ參觀スヘシ)

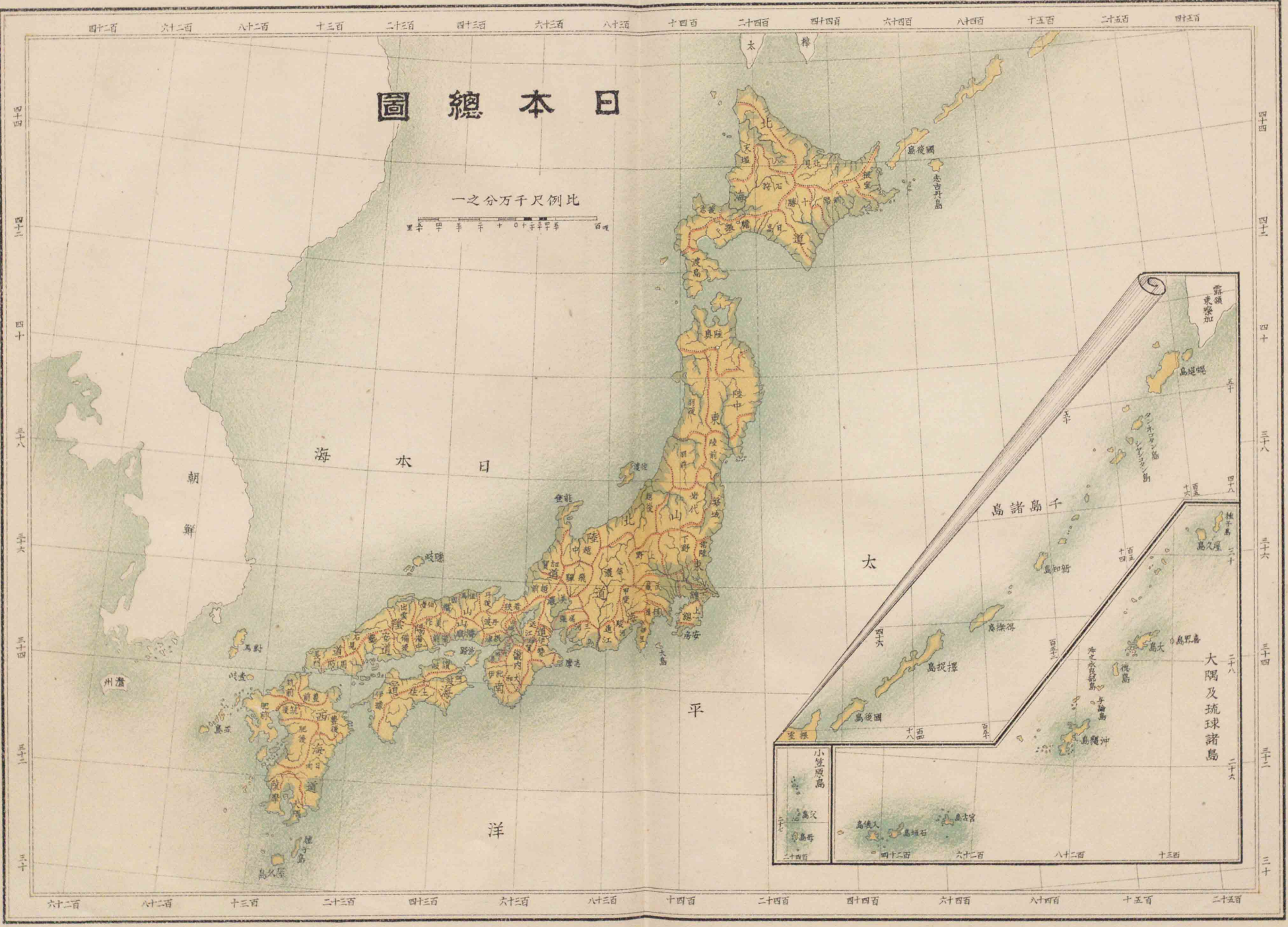
(人種) 日本人ハ蒙古人種ノ一支族タルコト殆ト確實ナリ、相貌ハ
支那人・朝鮮人ト相肖テ、體軀ハ稍矮小ナリト云フヘキカ、性質篤實
溫厚ニシテ、天稟銳敏ナリ、學問技藝ニ巧ニシテ、又克ク業ニ耐フ、是
等ノ日本人ハ初メ國ノ南西ニ繁殖シテ、漸次北東ニ蔓延セリ、往古
北東地方ハ蝦夷ト稱シ、穴居ノ土蕃棲息セリ、然レトモ今ハ全ク其
跡ヲ滅ス、北海道ノ土人揆乃ハ、其遺類ナリト云フ、是等ハ何人種ニ
屬スルヤ未ダ一定セス、

(人口) 人口ハ明治廿一年十二月ノ現在總數三千九百六十萬七千二百三十四人ニシテ、前年ニ比スレハ、五十三萬七千五百四十三人ノ増加ナリトス、今各地人口配布ノ疎密ヲ見ルニ、全國中最モ密ナルハ畿内ニシテ、一方里ニ付、五千四百七十六人ニ當リ、次ハ東海道三千四百十三人、次ハ山陽道二千五百六十四人、次ハ北陸道二千三百六十三人等ニシテ、南海西海ノ兩道モ殆ト之ト伯仲ス、但シ南海道ノ内、淡路ノミハ五千五百五十八人、西海道ノ内、壹岐ハ四千〇九十七人ニ當ル、山陰中山兩道ハ一千五六百ニ減少シ、奥羽ノ如キハ更ニ減少シ、一千〇〇八人トナリ、北海道ニ至リテハ僅ニ四十二人ニ當ル、而シテ之ヲ全國ニ平均スルトキハ、一方里ニ付、一千五百九十七人ノ割合ニシテ、世界中人口尤モ稠密ナル國ノ一ニ居レリ、
(人民ノ階級) 人民ハ華士族平民ノ三級ニ分ル、華族ハ古來永ク皇

室ニ奉侍シテ、忠勤勳功アル門閥ノ舊家、或ハ封建時代ニ各地ニ割據セシ諸侯多ク、又ハ國家ニ對シテ顯著ノ功績アリテ、新ニ華族ニ列セラレタル者アリ、士族ハ大抵舊諸侯ノ家臣ニシテ、武士ト稱セラレタル者ナリ、平民ハ華士族ニアラサル一般ノ人民ニシテ、最も多數ヲ占ム、然レトモ各級法律上ノ權利ハ同一ニシテ、且ツ其職業ニ制限ナキ故ニ、此階級ハ只名稱上ニ止マリ、實際ハ殆ト何タル効果ヲ生スルコトナキナリ、
(宗教) 本邦最モ盛ニ流行スル宗教ハ佛教ナリ、日本特有ノ宗教タル神道ハ、信者其數多カラズ、基督教信者モ未タ多カラサルモ、漸次増加スルノ傾向アリ、
(生業) 我邦人民ハ米穀蔬菜ヲ常食トスル故ニ、農業ハ古來主要ノ生業ニシテ、農民ノ數實ニ全國人口ノ最大部ヲ占ム、農業ノ一派ナ

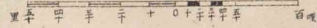
ル養蠶業ハ本邦ノ風土ニ最モ適合スルヲ以テ、之ニ從事スルモノ亦頗ル多ク、歳々其數増加スルノ勢ヲ示セリ、王商二業ハ古來末業ト稱シ、之ヲ忽諸ニセリト雖モ、諸外國トノ交通開始セシヨリ、舊時ノ迷想忽々攪破シテ、今ヤ有爲ノ人士、身ヲ此二業ニ委ヌルモノ日ニ多キヲ加フルノ傾向アリ、全國近海ハ魚類海草等ノ海産物ニ富ムヲ以テ、海岸ノ國ニハ漁業ヲ生計トスルモノ亦多シ、鑛業牧畜ノ如キハ未タ甚タ盛ナラス、

(區劃) 日本全國ハ山海ノ形勢ニ因リテ、之ヲ畿内及東海・東山・北陸・南海・山陰・山陽・西海・北海ノ一畿八道ニ大別シ、更ニ之ヲ分ケテ八十五ヶ國トナス、國ニハ市アリ、區アリ、郡アリ、市ノ數都テ四十、區ノ數二郡ノ數八百〇四、而シテ一廳三府四十三縣ヲ置キ、之ヲ分轄統治セシム、即チ左ノ如シ、



日本總圖

一之分万千尺例比



Map labels and coordinates:

- Latitude: 30, 32, 34, 36, 38, 40, 42, 44, 46
- Longitude: 120, 122, 124, 126, 128, 130, 132, 134, 136, 138, 140, 142, 144, 146, 148, 150
- Geographical Labels: 日本海 (Sea of Japan), 太平洋 (Pacific Ocean), 朝鮮 (Chosŏn), 州 (Provinces), 島 (Islands), 諸島 (Islands), 大隅 (Osumi), 琉球 (Ryukyu), 北 (North), 本 (Main), 四 (Shikoku), 南 (South).

一北海道廳

北海道一圓 二區八十八郡

一東京府

武藏國一市六郡

東京市・荏原・東多摩・南豐島・北豐島・南足立・南葛飾ノ六郡

伊豆七島

小笠原島

一京都府

山城丹後一圓丹波

多紀氷上ノ二郡ヲ除ク

一市十八郡

一大阪府

河內和泉一圓

攝津ノ内二市七郡

大坂市・堺市・住吉東成・西成・島上島

下豐島・能勢ノ七郡

二市二十七郡

一神奈川縣

相模一圓

武藏ノ内一市六郡

横濱市・橋樹・久良岐・都筑西多摩・南多摩・北多摩

一市十五郡

一兵庫縣

播磨但馬淡路一圓

攝津ノ内一市五郡

神戸市・八部・菟原・武庫川

邊有 丹波ノ内二郡

多紀氷上 二市三十三郡

一長崎縣

肥前ノ内一市六郡

長崎市・西彼杵・東彼杵・北高來・南高來・南松浦・北松浦

壹岐對

馬一圓

一市十六郡

一新潟縣 越後佐渡一圓 一市十八郡
 一埼玉縣 武藏東京府管轄六郡及神奈川縣管轄ノ六郡ヲ除ク下總ノ内一郡中葛飾 十八郡
 一千葉縣 安房上總一圓下總ノ内八郡千葉下植生印幡東葛飾南相馬香取匝瑳海上
 二十一郡
 一茨城縣 常陸一圓 下總ノ内六郡猿島結城岡田豐田西葛飾北相馬 一市十八郡
 一群馬縣 上野一圓 十四郡
 一栃木縣 下野一圓 九郡
 一奈良縣 大和一圓 十五郡
 一三重縣 伊賀伊勢志摩一圓 紀伊ノ内二郡南牟婁北牟婁 一市二十一郡

一愛知縣 尾張三河一圓 一市十九郡
 一静岡縣 遠江駿河一圓 伊豆七島ヲ除ク 一市二十三郡
 一山梨縣 甲斐一圓 一市九郡
 一滋賀縣 近江一圓 十三郡
 一岐阜縣 美濃飛驒一圓 一市二十五郡
 一長野縣 信濃一圓 十六郡
 一宮城縣 陸前氣仙郡ヲ除ク磐城ノ内三郡亙理伊具菊田 一市十六郡
 一福島縣 岩代一圓 磐城官城縣管轄三郡ヲ除ク 二十一郡
 一岩手縣 陸前ノ内一郡氣仙郡 陸中鹿角郡ヲ除ク 陸奥ノ内一郡二戸郡
 一市八郡
 一青森縣 陸奥二戸郡ヲ除ク 一市八郡
 一山形縣 羽前一圓 羽後ノ内一郡飽海郡 二市十一郡

一 秋田縣 羽後龜海郡 陸中ノ内鹿角郡 一市九郡
 一 福井縣 若狹越前一圓 一市十一郡
 一 石川縣 加賀能登一圓 一市八郡
 一 富山縣 越中一圓 二市五郡
 一 鳥取縣 因幡伯耆一圓 一市十四郡
 一 島根縣 出雲石見隱岐一圓 一市二十郡
 一 岡山縣 美作備前備中一圓 一市三十一郡
 一 廣島縣 備後安藝一圓 一市二十二郡
 一 山口縣 周防長門一圓 一市十二郡
 一 和歌山縣 紀伊南北牟婁二郡ヲ除ク 一市八郡
 一 德島縣 阿波一圓 一市十郡
 一 香川縣 讚岐一圓 一市十二郡

一 愛媛縣 伊豫一圓 一市十八郡
 一 高知縣 土佐一圓 一市七郡
 一 福岡縣 筑前筑後一圓 豐前ノ内六郡企救田川京都仲津築城上毛 二市
 十一郡
 一 大分縣 豐後一圓 豐前ノ内二郡下毛字佐 十二郡
 一 佐賀縣 肥前長崎縣管轄一市六郡ヲ除ク 一市十郡
 一 熊本縣 肥後一圓 一市十五郡
 一 宮崎縣 日向南諸縣郡ヲ除ク 九郡
 一 鹿兒島縣 大隅薩摩一圓 日向ノ内一郡南諸縣郡 一市二十六郡
 一 沖繩縣 琉球一圓 (郡制ナシ)
 市制ハ人口二萬五千以上ノ都市ニ限リ、施行ヲ許スノ例規ナレ
 トモ、甲府・水戸・津・高岡等ノ如キハ特別ナリ、但シ北海道及沖繩縣

ニハ之ヲ施行セス、

又東京府管轄ノ小笠原島、島根縣管轄ノ隱岐島、長崎縣管轄ノ對馬、鹿兒島縣管轄ノ大島ニハ、島廳ヲ置キ之ヲ治ム、

(政體) 本邦ハ宇內萬國ニ比類ナキ萬世一系ノ君主國ニシテ、

天皇親ヲ萬機ヲ總攬シ玉ヒ、其內閣ハ國務大臣ヲ以テ之ヲ組織シ、大政ヲ議スル所タリ、明治二十二年二月十一日紀元節ノ佳辰ヲ以テ、我

叡聖文武皇帝陛下ハ、千載不磨ノ大典タル帝國憲法ヲ發布セラレ、明治二十三年ヲ以テ、帝國議會ヲ開設シ、汎ク衆庶臣民ノ協贊ヲ經テ、國家統御ノ大權ヲ握ラセ玉フノ勅旨ヲ發セラレタリ、サレハ今ヤ方ニ、亞細亞絕東ノ海中ニ、一ノ立憲國現出シテ、赫々タル榮光ヲ四疆ニ放ツノ時機ニ際會セリ、是實ニ空前絶後千載ノ一時ト云ハ

サルヘケンヤ、內閣ハ行政ノ最高府ニシテ、總理大臣之ヲ統ヘ、其下ニ內務、外務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ九省ヲ置キ、各國務大臣一人之ヲ分擔ス、九省ノ外ニ宮內省アリ、內閣ニ屬セス、全ク獨立シテ

皇室內外ノ政務ヲ司レリ、又

天皇ノ至高顧問府タル樞密院アリ、其顧問官ハ國老ヲ以テ之ニ任ス、

地方ノ行政ニハ、廳ニ長、府縣ニ知事各一人アリテ、其管内ヲ統轄ス、其下ニ市區及郡役所ヲ置キ、更ニ其下ニ町村役場ヲ設ケ、亦各長一人アリ、以テ人民直接ノ事務ヲ執ル、

帝國議會ハ即チ帝國立法府ニシテ、貴族院及衆議院ノ兩院ヲ以テ成立ス、其貴族院議員ハ、皇族華族及國家ニ大功勞アル者、博學多識

ナル者、民間ノ多額納稅者ニシテ、衆議院議員ハ、直稅十五圓以上ヲ納ムル各府縣公撰ノ者ナリ、此他府縣ニハ府縣會アリ、郡ニハ郡會アリ、市ニハ市會アリ、區ニハ區會アリ、町村ニハ町村會アリテ、各自ノ公共事務ヲ處理ス、而シテ其議員ハ、皆民間公撰ノ士民ヲ以テ之ニ充ツ、

(教育) 教育ハ往時甚タ盛ナラス、國民中文字ヲ解スルモノ僅ニ小部分ニ止マリシカ、明治維新以來、諸般ノ制度ト共ニ學制モ亦大ニ振作シ、大中小ノ學制ヲ設ケ、一方ニ於テハ專ラ國民教育ノ普及ヲ圖リ、全國ヲ舉ケテ目ニ一丁字ヲキモノナキニ至ルヲ期シ、又一方ニ於テハ高等專門ノ學科ヲ獎勵シ、其蘊奧ヲ究メシメ、以テ國利民福ノ基礎ヲ固クスルヲ務ム、明治二十一年全國各種學校ノ總數ハ、二萬七千九百四十六校、其生徒ハ三百〇五萬五千三百八十人ニシ

テ、内小學校二萬五千九百五十三、生徒二百九十二萬七千八百六十八人、其他ハ大學校中學校師範學校及各種專門學校等トス、
(兵制) 我國封建時代ニハ、軍務ニ服スルモノ只士族ノ一級ニ止マリシカ、維新以後兵制モ亦一變シ、現時ハ華士族平民ノ區別ナク、國民一般ニ男子ハ滿十七歳ニ達スレハ、之ヲ國民軍ニ編入シ、廿歳ニ至レハ抽籤法ヲ以テ之ヲ徵集シ、三ケ年間兵役ニ服セシム、而シテ四十歳ニ至ルマテハ、尙ホ國民軍籍ニ置クヲ法トス、國民軍トハ非常ノ變アルニ當リテ、之ヲ徵集シ軍務ニ從事セシムルモノヲ云フ、
(陸軍管區) 陸軍ハ全國ヲ六師管ニ分割シ、師團ヲ置キテ之ヲ管轄ス、其師團タル近衛一師團ヲ合セ都テ七師團ニシテ、十四旅團ヲ以テ之ヲ編成ス、各師團ノ司令部ハ、近衛及第一師團ハ東京ニ、第二師團ハ仙臺ニ、第三師團ハ名古屋ニ、第四師團ハ大阪ニ、第五師團ハ廣

島ニ第六師團ハ熊本ニ置ク、而シテ陸軍々人ノ總數ハ、將校下士卒ヲ合セテ二十二萬八千八百四十八人アリ、但シ北海道ニハ別ニ屯田兵ヲ配布シテ、之ヲ衛ル、
 今第一ヨリ第六ニ至ル各師團ノ管區ヲ表示スレハ、左ノ如シ。

師團	旅團	大隊區	警備區
第一	第一	麻布・橫濱・高崎 長野	小笠原島
東京	第二	佐倉・水戸・本郷 宇都宮	
第二	第三	仙臺・福島 新發田・柏崎	佐渡
仙臺	第四	青森・盛岡・秋田 山形	
第三	第五	名古屋・津・豊橋 静岡	
名古屋	第六	熊本・宮崎・八代 鹿兒島	大島 沖繩
第四	第七	大阪・和歌山 大津・京都	
東京	第八	姫路・岡山・神戸 宮津	
第五	第九	廣島・尾道・山口 松江	隱岐
仙臺	第十	九龜・德島・松山 高知	
第六	第十一	熊本・宮崎・八代 鹿兒島	
熊本	第十二	小倉・佐賀・福岡	

屋

金澤

福井

小倉

長崎

對馬

〔海軍管區〕海軍ニ於テハ、全國ノ海岸及海面ヲ分割シテ、五海軍區トナシ、各區ニ鎮守府ヲ置キ之ヲ分轄ス、而シテ其鎮守府所在ノ港ヲ軍港トシ、其守備スル所ノ海口ヲ要港ト稱ス、各鎮守府ハ第一ハ相州橫須賀港ニ、第二ハ藝州吳港ニ、第三ハ肥前國佐世保港ニ、第四ハ丹後國舞鶴港ニ、第五ハ膽振國室蘭港ニ、各之ヲ置ク、而シテ海軍々人ノ總數ハ將校下士卒ヲ合セテ、一萬二千九百十三人、軍艦大小合セテ三十二艘、大炮百八十二門アリ、

〔交通〕交通ノ便ハ近來ニ至リ、海陸共ニ日ニ開ケ月ニ加ハリ、汽車汽船郵便電信等ノ便利全國ニ開通シテ、朝ニ東京ヲ發シテ夕ニ西京ニ達スヘク、西長崎ヨリ北函館ニ至ル迄往復二十日ヲ出サルヘシ、實ニ天涯比隣ノ如シ、

(道路) 道路ハ從來峻嶮粗惡ノ處少カラス、又封建ノ時代ニ在リテハ、處々ノ要地ニ關塞アリテ、往來甚タ不便ナリシカ、廢藩以來四境悉ク開通シ、險阪難路モ概テ改修シテ、平夷坦道トナシ、大小ノ河流ニ橋梁ヲ架セサルモノ稀ナリ、然レトモ内地ハ尙ホ崎嶇突兀タル山路車ヲ通セサル所アリ、總テ道路ハ之ヲ區別シテ、國道、縣道及里道ノ三トナス、國道ハ更ニ又之ヲ三等ニ分テリ、一等ハ東京ヨリ各開港場ニ達スル者ニシテ幅七間、二等ハ東京ヨリ伊勢ノ大廟及各府縣廳各鎮臺師團司令部所在地ヲ連ナル者ニシテ幅六間、三等ハ東京ヨリ各府縣廳ニ達スル者及各府縣廳各鎮臺ヲ接續スル者ニシテ幅三間ト定メラル、縣道ハ各府縣廳ヲ連接シ、又各鎮臺ヨリ其分營ニ達シ、各府縣廳ヨリ郡區役所ニ達スル者ニシテ、二等ニ分ツ、其幅四間乃至五間ナリ、里道ハ唯其便利ニ從ヒ一定ノ成規ナシ、

左ニ帝都東京ノ中心日本橋ヨリ、廳府縣元標ニ至ル里程ヲ舉ク、

府縣名	位置	通 路	里 程
京都府	山城國京都	東海道通リ	百三十一里
大阪府	攝津國大阪	京都ヲ經テ	百四十四里
神奈川縣	武藏國橫濱	神奈川ヲ經テ	八 里
兵庫縣	攝津國神戸	京都及山崎ヲ經テ	百五十里
長崎縣	肥前國長崎	京都及小倉ヲ經テ	三百四十四里
新潟縣	越後國新潟	長野及高田ヲ經テ 清水越通リ	百 九 里
埼玉縣	武藏國浦和	中山道通リ	六 里
千葉縣	下總國千葉	市川ヲ經テ	十 里
茨城縣	常陸國水戸	土浦ヲ經テ	二十九里
群馬縣	上野國前橋	熊谷及伊勢崎ヲ經テ	二十八里

栃木縣	下野國宇都宮	陸羽街道通り	二十七里
奈良縣	大和國奈良	大津及伏見ヲ經テ	百四十里
三重縣	伊勢國津	四日市ヲ經テ	百十三里
愛知縣	尾張國名古屋	熱田ヲ經テ	九十五里
静岡縣	駿河國静岡	東海道通り	四十六里
山梨縣	甲斐國甲府	甲州街道通り	三十四里
滋賀縣	近江國大津	東海道通り	百二十八里
岐阜縣	美濃國岐阜	名古屋ヲ經テ	百四里
長野縣	信濃國長野	上田ヲ經テ	五十九里
官城縣	陸前國仙臺	陸羽街道福島ヲ經テ	九十二里
福島縣	岩代國福島	陸羽街道通り	七十一里
岩手縣	陸中國盛岡	陸羽街道通り仙臺ヲ經テ	百四十里

青森縣	陸奥國青森	陸羽街道通り仙臺ヲ經テ 米澤通り	百九十二里
山形縣	羽前國山形	米澤通り	九十五里
秋田縣	羽後國秋田	同	百五十一里
福井縣	越前國福井	名古屋及柳ヶ瀬ヲ經テ至ル	百三十七里
石川縣	加賀國金澤	名古屋及福井ヲ經テ	百五十九里
富山縣	越中國富山	長野及高田ヲ經テ	百二十五里
鳥取縣	因幡國鳥取	名古屋及高田ヲ經テ	百七十六里
島根縣	出雲國松江	姫路及岩櫻ヲ經テ	百九十四里
岡山縣	備前國岡山	姫路及津山ヲ經テ	二百二十一里
廣島縣	安藝國廣島	京都及神戸ヲ經テ	百八十六里
山口縣	周防國山口	同	二百三十一里
和歌山縣	紀伊國和歌山	京都及廣島ヲ經テ	二百六十六里
		大阪ヲ經テ	百六十一里

德島縣	阿波國德島	明石ヲ經テ淡路通り	百七十八里
香川縣	讚岐國高松	下津井及丸龜ヲ經テ	二百七里
愛媛縣	伊豫國松山	同	二百三十七里
高知縣	土佐國高知	同	二百三十四里
福岡縣	筑前國福岡	小倉及芦屋ヲ經テ	三百三里
佐賀縣	肥前國佐賀	小倉及山家ヲ經テ	三百十四里
大分縣	豐後國大分	京都及小倉ヲ經テ	三百七十里
熊本縣	肥後國熊本	小倉及久留米ヲ經テ	三百二十五里
宮崎縣	日向國宮崎	小倉及大分ヲ經テ	三百六十八里
鹿兒島縣	薩摩國鹿兒島	小倉及熊本ヲ經テ	三百八十一里
沖繩縣	那	鹿兒島大島那瀨ヲ經テ	五百七十四里
北海道廳	札	陸羽街道青森及函館苦小牧ヲ經テ	二百七十六里

(鐵道) 明治五年ニ官始テ、東京橫濱間ニ布設スルモノヲ以テ本邦

鐵道ノ嚆矢トス、之ニ次キテ神戸、大坂及京都間ヲ開通シ、爾來年ヲ追ヒテ私立諸鐵道會社、踵ヲ繼キテ各地ニ勃起シ、線路ノ延長日ニ増シ月ニ加ハリ、現今已成線路ノ延長實ニ一千五百五十六哩ノ長サニ達シ、工事中ノモノ三百二十四哩、測定濟ノモノ千五十哩ニ及ヘリ、其幹線ヲ記スレハ、本洲ニ在リテハ縱線ハ東京ヲ元トシ、西方備中國倉敷ニ達シ、東方陸奧國青森ニ至ルノ一線最モ長ク、此間又二三ノ支線アリ、而シテ此線路中神戸以西ハ山陽鐵道ト稱シ、東京以東ヲ東北鐵道ト云ヒ、東京神戸間ヲ東海道鐵道ト云フ、山陽鐵道ハ岡山以西尙ホ其線路ヲ延長シテ下ノ關ニ達セントシ、東北線路ハ盛岡以東青森間ハ現時已ニ開通シタレハ、本洲ノ南北兩端ノ間ニ鐵道ノ全通ヲ見ルモ亦遠キニ非サルヘシ、又本洲ノ橫線即チ本

洲ヲ横キリテ、日本海岸ト太平洋海岸トヲ連接スルモノニ二線アリ、
 一ハ越後國直江津ニ起リ、信州輕井澤ニ至リ、碓氷峠ニ中斷シ、再ヒ
 横川ニ起リテ、上野國高崎ニ至リ、二線ニ岐レ、一線ハ武藏國大宮ニ
 於テ東北鐵道ニ合シテ東京ニ達シ、一線ハ上野國前橋ニ至リ、再ヒ
 同國桐生ニ起リ、下野國小山ニ於テ東北鐵道ヲ横キリ、更ニ進ミテ
 常州水戸ニ達ス、故ニ水戸東京間モ亦相連絡ス、而シテ此線路中碓
 氷ノ阪路ハ、馬車鐵道ヲ以テ之ヲ連絡シ、又前橋桐生ノ間ハ目下工
 事中ナルヲ以テ、此間列車ノ往復ヲ見ルハ亦近キニアルヘシ、一ノ
 横線ハ越前國金ヶ崎ニ起リ、近江國米原ニ於テ東海道線路ニ合シ、
 神戸大阪及名古屋ニ通ス、
 北海道ニ於テハ後志國手宮ニ起リ、石狩國幌内炭鑛ニ通スル一線
 アリ、之ヲ炭鑛鐵道ト云フ、又四國ニ於テハ讚岐國丸龜琴平間及伊

豫國三津ヶ濱松山間ノ二線アリ、

九州ニ於テハ、筑前國博多ヲ元トシ、一方ハ肥後國三角港ニ達セン
 トシテ、熊本マテハ已ニ列車往復ノ便アリ、此線路中、鳥栖ヨリ岐レ
 テ長崎ニ達セントスルモノアリ、是亦佐賀マテハ、列車既ニ開通セ
 リ、又一方ハ、博多ヨリ北東豊前國門司ニ達シ、夫ヨリ行事驛并ニ中
 津ヲ經テ、同國四日市ニ至ラントスルノ工事着手中ナレハ、其成功
 亦應ニ遠キニアラサルヘシ、
 右線路中主要ナルモノニ就キ、其哩數ヲ舉クレハ左ノ如シ、但シ一
 哩未滿ハ之ヲ省ク、

新橋神戸間 三百七十六哩

同	新橋大船間	百二十九哩
同	靜岡間	百二十〇哩
同	濱松間	百六十七哩
同	岡崎間	二百一〇哩

同 名 大府間	二百二十三哩
同 岐原間	二百三十五哩
同 米原間	三百五十四哩
同 草津間	三百五十六哩
同 京都間	三百二十九哩
神戶倉敷間	百哩
神戶姫路間	三十四哩
同 岡山間	九十四哩
上野青森間	四百五十二哩
同 上野大宮間	四十六哩
同 小山間	四十七哩
同 宇都宮間	四十五哩
同 福島間	百六十五哩
同 仙臺間	二百十五哩
同 盛岡間	三百二十六哩
仙臺鹽竈間	九哩
大船橫須賀間	十哩
大府武豐間	十二哩

金ヶ崎米原間	三十一哩
草津柘植間	二十二哩
難波堺間	六哩
湊町柏原間	十哩
直江津輕井澤間	九十二哩
横川大宮間	六十四哩
高崎横川間	十八哩
前橋高崎間	五哩
小山水戸間	四十一哩
小山前橋間	五十哩
宇都宮日光間	二十五哩
品川赤羽間	十二哩

品川新宿間

六哩

新宿八王子間

二十三哩

手宮幌内間

五十六哩

同札幌間

二十二哩

博多熊本間

七十四哩

(博多門司間
鳥栖佐賀間)

四十七哩
十五哩

丸龜琴平間

十哩

松山三津濱間

四哩

(航路) 航海ノ業ハ徳川時代ニ法令ヲ以テ嚴シク之ヲ制限束縛シタルヲ以テ從來不振ノ有様ナリシモ、今ハ著シク進歩シテ其航路頗ル擴張シ、常ニ近海ヲ航行スル汽船頗ル夥シ、今先ツ横濱ヲ元トシ、東西兩方ノ航路ヲ示サンニ、西ノ方ハ東京灣ヲ出テ、遠州灘ニ至リ、是ニテ二ニ分レ、一ハ直ニ伊勢國四日市ニ至リ、一ハ紀伊半島ヲ

廻リテ攝津ノ神戸ニ着ス、神戸ヨリハ内海ヲ過キ、長門國下ノ關ヲ經テ、玄界灘ヲ航シ、肥前國長崎ニ至ル、長崎ニ於テハ航路二線ニ岐分シ、一ハ對州嚴原ヲ經テ、朝鮮ノ諸港及露領浦鹽斯德港竝ニ支那ノ芝罘、天津ニ向ヒ、一ハ支那海ヲ横キリテ上海ニ達ス、神戸ヨリハ又南ノ方鹿兒島及大島ヲ經テ琉球ニ至ルノ線路アリ、今又翻テ東方ノ航路ヲ見ルニ、横濱港ヲ發シ、東京灣ヲ出テ、北東ニ向ヒテ、針路ヲ取り、太平洋ヲ航シテ、陸前ノ荻ノ濱、陸中ノ釜石及陸奥ノ青森ヲ經過シ、更ニ進ミテ北海道ノ函館及小樽ニ至ル、青森ヨリハ又日本海ヲ廻リテ、越後ノ新潟及越中伏木ニ至ルノ航路アリ、而シテ横濱港ヨリハ、又西ノ方香港、印度、歐洲ニ通シ、東ハ北米桑港及バンクーバー(Vancouver)ニ至ルノ三大外國船航路アリ、以上ハ航海線路ノ幹線ニシテ、其他沿岸各港ノ間ニハ概テ汽船ノ往復アリ、明治廿一

年十二月ノ調査ニ係ル全國各種商船ノ數ヲ看ルニ、西洋形ハ大小千四百二十艘、其噸數十四萬四千百九十四、日本形ハ大小五十九萬二千九百八十九艘トス、

左ニ内國各港間ノ里程ヲ示スヘシ、

(湮ハ海里ニシテ凡ソ我國ノ十六町九分七厘五毛ニ當ル)

一 橫濱ヨリ

橫須賀州相 十二湮

四日市勢伊 二百湮

清水港州駿 百十三湮

神戸津攝 三百湮

荻ノ濱前陸 二百八十六湮

釜石陸中 三百五十三湮

函館島渡 五百二十九湮

青森陸奥 四百六十二湮

小樽後志 八百十湮

一 神戸ヨリ

廣 島州藝	百五十五湮	高 知佐土	百四十二湮
赤間關長州	二百四十湮	鹿兒島薩摩	四百湮
一 赤間關ヨリ			
博 多前筑	六十湮	長 崎前肥	百四十二湮
伊萬里肥前	九十九湮	新 潟後越	四百九十六湮
一 長崎ヨリ			
鹿兒島薩摩	百六十二湮	佐世保前肥	二十一湮
嚴 原對州	百六湮		
一 鹿兒島ヨリ			
那 霸沖繩	三百七十三湮		
石 垣八重山	六百十五湮		
一 函館ヨリ			

青 森陸 五十九湮 室 蘭 振 七十九湮

根 室根 二百九十五湮

(燈臺) 以上ノ航路中ニハ、處々ニ燈臺ヲ設ケテ航海者ノ便ニ供ス、其數五十以上ノ多キニ達スレトモ、今其重ナルモノヲ舉クレハ、次ノ如シ、

建設地 位置

觀音崎 相模國東京灣口

劔崎 相模國

野島崎 安房國

御子元島 伊豆國下田港ノ南方

御前崎 遠江國ノ南端

汐岬 紀伊國ノ極南

江崎 淡路國ノ北岬

部崎 長門國下ノ關ノ東方

六連島 同上

烏帽子島 肥前壹岐兩國ノ間

大瀬崎 肥前五島ノ極南

伊王島 同長崎港口

佐多岬 大隅國極南

鞍島 日向國大島

萬登支岬 函館港口

宗谷岬 北見國北端

尻矢崎 陸奥國津輕海峽

金華山 陸前國北上河口ノ一島

犬吠崎 下總國

(郵便) 郵便ハ明治四年始テ三府ノ間ニ本線路ヲ開キテヨリ、漸次ニ各地都會ニ連接シ、僅ニ十有餘年ヲ經テ、今ハ寒村僻地ニ至ルマテ全國中、郵便ノ通セサル地ナク、二十日ヲ出テスシテ、九州ノ南端ヨリ北海道ノ北部ニ達スルニ至レリ、明治二十一年ノ調査ニ依レハ、全國郵便局數三千七百十、函數二萬七千二百三十六、線路ノ延長一萬七千九百四十里ニ及フト云フ、

(電信) 電信線ハ明治二年東京橫濱間ニ架設シタルヲ始メトシ、爾來其線路ヲ各地ニ延長シテ、二十二年ニ至リテ、局ヲ置クコト二百七十五、線路ノ數二千六百一ニ達シ、其延長七千六百三十里ニ及ヘリ、而シテ外國電報ハ長崎電信局ヨリ、之ヲ接續ス、電話機モ近來次第ニ流行ヲ始メ、二十二年ニ於テ取扱所ヲ置クコト三百七十五、線

路三百十四、其延長六百十五里ニ及ヘリ、

(都市) 東京ハ我帝國ノ首府ニシテ、全國ノ中央ニ位シ、皇國第一ノ大都會タリ、之ニ次クモノハ京都及大阪ニシテ、東京ト共ニ三府ト稱セララル、其他東海道ニ在リテハ尾州名古屋、北陸道ニ在リテハ加州金澤、中國ニ在リテハ藝州廣島、九州ニ在リテハ肥後ノ熊本、奥州ニ在リテハ陸前仙臺ノ如キ、皆三府ニ次クノ大都會ニシテ、商業上樞要ノ地位ヲ占ム、若シ夫レ人口一萬以上ノ小都會ヲ之ニ合算スレハ、全國其數一百二十有四ノ多キニ達ス、

本邦都市ノ地タル、貿易運輸交通等ノ利アリテ、自然ニ成立セシモノニアラス、多クハ徳川氏三百年ノ治世ニ際シ、諸侯ノ居城地タリシ處ナリ、今ヤ施政ノ法往時ニ異ナリ、加フルニ鐵道電信及航海ノ便大ニ開ケタレハ、自今都鄙交、其地ヲ變スルコトアルモ亦疑フヘ

カラス、

(港口) 本邦ノ海岸線ハ參差出入シテ、近海ノ水淺カラサレハ、船舶ノ碇泊ニ安全ナル良港少カラス、就中武藏ノ横濱港、攝津ノ神戸港、肥前ノ長崎港、渡島ノ函館港、越後ノ新潟港ハ之ヲ五港ト稱シ、外國トノ互市場タリ、而シテ勢州ノ四日市、長州ノ下ノ關、筑前ノ博多、豊前ノ門司、肥前ノ口、津及唐津、肥後ノ三角、越中ノ伏木、後志ノ小樽、釧路ノ釧路等ノ諸港モ亦米、麥、粉、石炭、硫黃ノ五品ヲ海外ニ輸出スル爲メ、近コロ特別輸出港ト定メラレタリ、

輸出入品ハ年一年ヨリ増加スルノ兆候ヲ示セリ、今明治十九年ヨリ廿二年ニ至ル四ヶ年ノ比較ヲ示サンニ、十九年ニ於テハ、輸出品元價總額ハ四千八百八十七萬〇五百二十二圓、廿年ニ於テハ、五千二百四十萬七千六百八十一圓、廿一年ニ於テハ、六千五百七十萬五

千五百十圓、廿二年ニ於テハ、七千六萬七百八圓ニシテ、年々巨額ノ増額ヲ見ル、輸入品元價モ亦之ニ準シ、十九年ニハ三千七百六十三萬七千三百三十八圓、廿年ニハ五千一百六十九萬九千七百七十圓、廿一年ニハ六千五百四十五萬五千二百三十四圓、廿二年ニハ六千六百四萬一千五百八十四圓ニ遞加セリ、其輸出ノ最多額ナルハ北米諸國第一、佛國第二、支那第三、英國第四等ニシテ、輸入ノ最多額ナルハ英國第一、支那第二、東印度諸國第三、北米諸國第四、獨逸第五等ナリトス、今廿二年中、輸出入物品元價一百萬以上ノモノヲ表ニ製シテ、左ニ示ス、表中千圓未滿ノ端數ハ之ヲ棄却ス、

輸出ノ部

輸入ノ部

品目 元價千圓ヲ單位トス

各種蠶絲 二八、八七六

品目 元價千圓ヲ單位トス

各種砂糖 六、二九二

米	七、四三四	器械類	四、三〇一
各種製茶	六、一五六	石油	四、五八七
石炭	四、三四六	縮緬吳呂	一、九七九
熟銅	一、五六六	生金巾	二、〇一〇
生銅	一、二九二	綿	五、六六八
陶器	一、四四九	毛繻子	一、三七八
絹布手巾	二、一〇四	汽船	一、一〇〇
錫	一、〇八八	綿織糸	一、二五二
マツケ	一、一三七	鐵類	五、一八六
樟腦	一、三九一		

(沿革) 本邦上古ハ、王化僅ニ西ノ一隅ニ偏倚シ、國內概チ猛獸蠻族ノ巢窟ニ過キサリシカ、今ヨリ二千五百五十年前、神武天皇日向ヨ

リ東征ノ師ヲ起シ、遂ニ中州ヲ平定シテ、始テ天位ヲ履マセ給ヒ、都ヲ大和ニ定メテ、國造縣主ヲ置キ、大ニ統一ノ政治ヲ布カル、之ヲ本邦ノ紀元トス、此後尙ホ東方ノ地ニハ、蠻族蝦夷跋扈シテ、久シク王化ニ服セサリシカ、七百七十年ノ頃、景行天皇ノ朝ニ、日本武尊之ヲ征シテ、版圖大ニ廣マレリ、降テ一千三百年ノ頃、孝德天皇ノ朝ニ、古來ノ宿弊ヲ釐革シ、國造縣主ニ代ユルニ國司郡司ヲ以テシ、益中央集權ノ政治ヲ確メラル、尋テ一千四百五十年ノ頃、桓武天皇ノ朝ニ、阪上田村麿蝦夷ヲ征シテ之ヲ蝦夷島ニ驅逐セシヨリ、日本ノ版圖始テ本洲ノ北端ニ達シ、五畿七道全ク完備スルニ至レリ、其後王威漸ク凌夷シ、一千八百四十六年源賴朝、日本全國ノ總追捕使トナリ、土地ヲ頒ケテ、其功臣ニ授ケシヨリ、封建ノ制、其漸ヲナシ、降テ足利氏ニ至リ、郡國ヲ頒ケテ家臣ヲ封シ、之ヲ世襲セシム、是ニ

於テカ封建ノ勢全ク成ル、此頃武田信廣ナルモノアリ、蝦夷島ニ渡航シテ、之ヲ征服シ、居城ヲ松前ニ築キ、全島ヲ領セリ、是ニ至リテ東洋ノ四大島全ク日本ノ版圖ニ歸セリ、應仁以降天下麻ノ如ク亂レ、豪傑諸國ニ割據シテ、海内四分五裂、織田氏興リテ畿内、東海、東山及山陰ノ諸國ヲ略定シ、豐臣氏之ニ繼キテ、全國ヲ平定シ、徳川氏之ニ代ルニ及ヒテ、全國ノ地ヲ舉ケテ諸侯ヲ分封セリ、是ヲ以テ十餘年前ニ至ルマテハ、大小二百七十有一諸侯、海内ニ碁布峙立セシカ、明治初年王政復古、大小ノ諸侯悉ク封土ヲ朝廷ニ奉還シ、蝦夷島ヲ改メテ北海道トナシ、尋テ琉球藩ヲ廢シ、沖繩縣トナシ、五畿八道悉ク備ハリ、統一郡縣ノ政治再ヒ全國ニ施行セラレ、ニ至レリ、
 (外交) 我邦ノ外國ニ通シタルハ、六百二十八年任那ノ來貢セシヲ以テ始メトシ、爾來高麗、百濟相繼キテ入貢ス、此諸國ハ即チ今ノ朝

鮮ニ國セシ者ナリ、降テ一千二百年代ノ頃ニ至リ、支那トノ交通ヲ開キシヨリ、漢土ノ工藝學術及風俗等漸ク我邦ニ入レリ、二千二百年葡萄牙ノ商船颶風ニ遇フテ、一タヒ豊後ニ漂着セシヨリ、西班牙和蘭及英吉利等ノ諸國人、相尋キテ來リ、通商貿易ヲナシ、又耶蘇教ヲ傳ヘタリ、然ルニ之ヲ信スル者漸ク蔓延シ、二千二百年代ノ末ニ至リ、其徒肥前ノ島原ニ據リテ亂ヲナス、是ニ於テ耶蘇教ヲ嚴禁シ、併セテ外國船ノ來航ヲ停メ、唯和蘭、支那二國ノ商船ノミ、長崎ニ來リテ通商スルヲ許シ、爾餘ノ國人強テ來ル者アレハ、直ニ之ヲ殺戮スルニ至レリ、此後外國ノ交通ハ殆ト斷絶ノ姿ナリシカ、二千五百十三年亞米利加合衆國政府ハ、使節ペールヲ發遣シ來リテ交通貿易ヲ請ハシム、其翌年遂ニ其請ヲ聽シ、積年ノ國禁ヲ解キテ、長崎ノ外下田箱館ノ二港ヲ開ク、是實ニ我國外國ト交際ノ曉ニシテ、

次ニ英吉利・佛蘭西・露西亞等ノ諸國ト和親條約ヲ結ビ、下田ヲ閉ケ
テ、更ニ橫濱・神戶・新潟ノ諸港ヲ開キ、之ヲ通商貿易ノ地ト定ム、然レ
トモ當時未タ世界萬國ノ情勢ニ暗ク、爲ニ締結シタル條約モ多ク
ハ不完全ノモノタルヲ免レス、現今我國ノ條約國ハ、北米合衆國・大
不利顛國・露西亞・和蘭・佛蘭西・葡萄牙・獨逸・瑞典・白耳義・伊太利・丁抹瑞
西・諾威・西班牙・澳地利・布哇・清國・秘露・朝鮮・暹羅及墨其西哥ノ二十一
ヶ國トス、

二 畿内

(位置廣袤人口) 畿内ハ一名ヲ五畿内トモ稱シ、本洲ノ中央ヨリ少
シク南西ニ偏シテ、位置ヲ占メ、往時本邦七道ノ中心ニ當リ、東ハ東
海・東山ノ兩道ニ接シ、南ハ紀伊ニ界シ、北西ハ山陰・山陽ノ兩道ニ連
リ、南西ニハ大阪灣ヲ抱ケリ、南北最モ長キ處凡ソ三十五里、東西最

モ廣キ處凡ソ二十五里、面積四百四十五方里餘、人口二百四十四萬餘、即テ一方里内五千四百七十六人ニシテ、本邦中人煙最稠ノ地方タリ、

(區劃) 畿内ノ國タル五國、都テ四市五十五郡ニ別ル、京都・大阪ノ兩府、奈良・兵庫ノ二縣ヲ以テ之ヲ分轄ス、即テ左ノ如シ、

山城國

一 八

市京都

愛宕・葛野・乙訓
紀伊・宇治・久世

京都府

綴喜・相樂

添上・添下・山邊

廣瀬・平群・式上

大和國

十五郡

式下・十市・宇陀
高市・葛上・葛下
忍海・宇智・吉野

奈良縣

河内國

十六郡

- 石川・古市
- 安宿部・錦部
- 圓南・八上・志紀
- 圓北・河内・高安
- 若江・大縣・澁川
- 茨田・交野・讚良

大阪府

和泉國

一

市

- 堺
- 大島・泉・南・日根

大阪府

市

- 大坂
- 神戶

大阪府

兵庫縣

攝津國

十二郡

- 能勢
- 島上・島下・豐島
- 東成・西成・住吉
- 河部・武庫・菟原
- 八邊・有馬

大阪府

兵庫縣

(海岸) 畿内ハ三方山脈ヲ以テ他ノ諸道ト界シ、只西方和泉攝津ニ大阪灣ノ海岸ヲ有スルノミ、大阪灣ハ一名茅渚海ト稱シ、淡路島其口ニ横ハリテ、其間一ノ内海ヲナシ、西ノ方明石海峽、南ノ方由良海峽ニ依リテ、播摩灘及太平洋ト交通ス、灣内ハ砂礫流出シテ、水甚ダ深カラス、海岸線又單純ニシテ、出入少シ、然レトモ亦二三ノ良港ヲ闕カス、和泉ノ堺港、攝津ノ大阪港、神戸港、皆此灣内ニ在リ、神戸ノ西ナル和田岬ト堺ノ西ナル觀音崎トハ、灣中著名ノ岬ニシテ、南北遙ニ相對向セリ、攝津ノ海岸ハ白砂青松相映シテ、頗ル風景ニ富ミ、其西隅須摩浦ノ如キハ、後ニ重嶂ヲ負ヒ、前ニ淡路島ヲ受ケ、古ヨリ勝地ヲ以テ稱セララル、

(地勢山岳) 畿内ノ地タル、中部淀川及大和川ノ流域ハ低平ナレトモ、其他ハ大抵山岳疊々シ、殊ニ大和南部ノ如キハ、高峯秀嶺蟠結シ

テ最モ險峻ヲ極ム、今各國ニ就キ、顯著ノ高山ヲ舉クレハ、攝津ノ北部丹波ノ境ニ迫リ、神峯山、箕面山、劍尾山相竝ヒテ屏立シ、其山脈南流シテ國ノ西部ニ、摩耶、武庫、鐵拐、鴨越ノ諸峰ヲ起ス、山城ニハ鞍馬山、大悲山ハ國ノ正北ニ峙テ、愛宕山其西方ニ在リテ、丹波ニ接ス、愛宕山ハ山城國中第一ノ高峯ニシテ、高サ二千九百四尺、其麓ニ高雄山アリ、南方ニ嵐山アリ、共ニ甚タ高カラサレトモ、高雄ハ紅葉ヲ以テ著シク、嵐ハ櫻花ヲ以テ知ラル、比叡山ハ鞍馬ノ東方ニ聳エテ、近江ニ跨カリ、高サ二千七百二十三尺、都富士ト稱セラル、國ノ南部近江ノ境ニ近ク、鷲峰アリ、大和ノ境上ニ笠置山アリ、後醍醐帝ノ舊蹟タルヲ以テ、其名殊ニ著シ、以上攝津、山城ノ諸山ハ、概シテ第二東西派ノ中國山脈ニ屬ス、

大和ハ第三南北派ト紀州山脈トノ交合點ニシテ、伊賀ノ境ニ天ヶ

岳アリ、高見山(四、二九九尺)、大臺原山(四、二〇一尺)ハ伊勢ノ境ニ峙ツ、國ノ南部吉野郡ニ至レハ、金峯山、七面山、釋迦岳、大日岳等十二ノ高峯競立ス、是即テ吉野山彙ニシテ、其主峯タル大峯ハ、六千二百十尺ノ高サニ達ス、金峯山ハ一名ヲ吉野山ト云フ、南朝ノ遺跡ニシテ、海内無雙櫻花ノ名所タリ、河内ニハ大和ノ境ニ金剛(四、九二〇尺)、二上信貴(一、六五〇尺)、生駒ノ諸山相連リ、國境ヲ限ル、金剛山ハ即テ大和ノ葛城山ニシテ、楠公千早城ノ故趾アリ、最後ニ和泉ニ至レハ、紀伊ノ境ニ葛城山、犬鳴山(五、八一五尺)、飯盛山アリ、河内ノ境ニハ、藏王峠、牛瀧山、檜尾山、妙見山等連立ス、

(河流) 畿内ノ諸川ハ、概テ源ヲ東方ニ發シテ西ニ流レ、大和南部ノ數川ヲ除キ、盡ク大阪灣ニ注ク、其最モ大ナルモノハ、攝津ノ淀川及山城ノ桂川トナス、

淀川ハ上流ヲ宇治川ト稱ス、其起頭ハ即チ近江ノ勢多川ニシテ、源
 ナ琵琶湖ニ發シ、畿内東境ノ山間ヲ貫キテ、山城ニ入り西流シテ淀
 ニ至リ、桂川及木津川ヲ合セ淀川トナリ、河内及攝津ノ境界ヲ流レ、
 下流ハ神崎・中津・安治及木津ノ諸川ニ岐分シ、遂ニ大阪灣頭ニ至リ
 テ海ニ入ル、流程十五里餘、其幅廣闊、舟運ノ便利多ク、畿内第一ノ大
 河タリ、

桂川ハ上流ヲ大堰川ト云フ、丹波ヨリ來リテ、嵐山ノ麓ヲ過キ、南ニ
 流レテ鳥羽ニ至リ、山城ノ北境ヨリ來レル鴨川ヲ合セ、遂ニ淀川ニ
 入ル、流程二十六里、

右ノ外、大和ニ大和・吉野・十津ノ三川アリ、攝津ニ池田・武庫ノ二川ア
 リ、大和川ハ上流ヲ初瀬川ト稱シ、河内・和泉ヲ貫流シテ大阪灣ニ入
 ル、吉野川ハ大臺原山麓ニ發源シテ、西ニ流レ紀伊ニ入り紀ノ川ト

ナリ、吉野川ハ吉野郡ニ發源シテ、南ニ流レ紀伊ニ入り熊野川トナ
 ル、池田・武庫ノ二川ハ共ニ攝津ノ北境ニ發源シテ、南ニ流レ大阪灣
 ニ注ク、以上ハ畿内ノ重ナル大川ナリ、而シテ神戸・兵庫ノ境ヲ流ル
 、湊川ハ、小川ナレトモ楠公敗没ノ處タルヲ以テ、其名世ニ知ラル、
 (池沼) 畿内ニハ池沼ノ大ナルモノ少ク、只山城ノ巨椋及河内ノ狹
 山ノ池ハ稍著名ナリトス、巨椋池ハ俗ニ大池ト呼フ、周回四里十一
 町、宇治河ノ水害ヲ防カンカ爲メ、豐太閤ノ穿テシモノタリ、狹山池
 ハ周回凡ソ一里、灌漑ニ便センカ爲メ、崇神天皇ノ創始シ玉ヒシ
 モノナリト云フ、此他周圍一里以上ノモノ山城ニ納所沼、六地藏沼、
 四谷村沼、一々沼、大和ニ旗尾沼アリ、
 (鑛泉) 鑛泉ハ畿内中、數十箇處ノ多キアリ、殊ニ攝津ヲ最多トス、其
 有馬ノ鑛泉ハ、本邦最舊ノ溫泉ニシテ、癩麻質斯、皮膚病及神經諸症

ヲ治シ、其名全國ニ高シ、

(平原) 畿内ニハ中部ニ淀川及大和川ノ二大平原アリ、淀川平原ハ山城ヨリ攝津ニ開達シ、大和川平原ハ大和河内和泉ノ三國ヲ貫通ス、共ニ流水ノ作用ニ依リテ、堆積セシ低原ニシテ、地味極テ膏腴、田畝相連リ、米穀綿茶等ノ耕種甚タ盛ナリ、

(氣候) 畿内ノ氣候ヲ概論スレハ、寒暖共ニ中和ナリト稱スヘシ、然レトモ山地ト海邊ノ低地トハ、其間自ラ多少溫度ノ差違アルハ論ヲ俟タス、雨量ハ稍稀少ナリトス、左ニ京都及大阪ノ氣象概表明治廿二年)ヲ示ス、

	最高溫	最低溫	平均溫	總降雨量
京都	三五、一 ^{度分}	〇八、一 ^{度分}	一三、四 ^{度分}	一、九六六、二 ^{度分}
大阪	三五、四	〇五、三	一四、三	一、六二〇、一

(物産) 畿内ハ天産人造兩種ノ物産ヲ兼備スルモノト云フヘシ、其平原ハ五穀蔬菜果物綿茶藍ヲ産シ、山林ハ良材ニ富ム、殊ニ大和ノ吉野杉ハ、盛ニ諸方ニ輸出ス、製品ニハ京都ノ西陣織友禪染、陶器、繡刺物、宇治ノ製茶、大和ノ飛白、奈良晒、吉野紙、吉野葛粉、河内ノ木綿、和泉ノ堺段通、鐵器、大阪ノ紡績系織物、細工物、攝津ノ灘酒、伊丹酒等ヲ最トナス、左ニ二三ノ統計表ヲ示ス、以テ其ノ概況ヲト知スヘシ、

一 京都府	絹	木綿	絹木綿	交織物	一大阪府
織物(明治二十年)	六四六、三二五反	一六八、七二四反	四二四、六三一反	一七三、八七〇本	五、二九一、五五一反
帶地織物(明治廿一年)	一四七、六七七本	三〇、六九一本			(明治二十一年)
木綿織物					

紡績木綿絲 一、四七七、五四四貫 (明治二十二年)

一兵庫縣

清酒釀造高 四八七、二二六石 (明治二十一年)

(都市) 畿内ハ 神武天皇以來、明治初年ニ至ルマテ、數千年間、我國
帝都ノアリシ地ナレハ、都會名邑ト稱スヘキモノ甚タ多シ、就中京
都・大阪・神戸・奈良・堺ヲ最モ盛ナリトス、

京都ハ平安城ト稱シ、日本三府ノ一ニ居ル、桓武帝ノ延曆以降七
十一世、千七十六年間ノ帝都ニシテ、明治元年遷都ノ時ヨリ、武藏ノ
東京ニ對シテ西京ト呼フ、其地山城國ノ中央ニ位シ、東鴨川ニ臨ミ、
愛宕山西方ニ峙テ、鞍馬山北方ニ聳エ、比叡山東方ニアリ、所謂ル山
河襟帶自然ノ城ニシテ、只南ノ一方伏見ニ通スルノミ、人口二十七
萬五千七百八十、京都府ノアル處タリ、市街ハ井然トシテ、七條ノ大

衢ヲ通シ、地區長方形ヲナス、三條・四條ノ二衢ハ尤モ繁華ノ處タリ、
全市ハ三條通ヲ界トシテ、上下ノ二區ニ大別ス、舊皇居ハ都ノ北部
ニ在リテ、二條城ハ西方ニ在リ、二條ノ離宮ト稱ス、市民ノ風俗ハ、一
般ニ閑雅優美ニシテ、審美ノ思想ニ富ミ、産出スル處ノ織物染物等、
其名内外ニ高シ、其山水明媚、風景ニ富ムト名社巨刹、千有餘年ノ舊
蹟今尙ホ依然トシテ存スルモノアルカ爲メ、雅人騷客勝ヲ探リ、舊
ヲ尋ヌルモノ常ニ斷ユルコトナシ、而シテ今ヤ陸ニハ汽車アリテ、
東京・大阪ト相往來シ、水ニハ淀川アリテ、貨物ノ運搬自在ナリ、加フ
ルニ、現今又琵琶湖ノ水ヲ導キテ、其工藝ヲ助クルアレハ、假令往年
帝都ノ繁華ナシト雖モ、亦永ク西京ノ名ヲ貶スコトナカルヘシ、
大阪ハ三府ノ一ニシテ、攝津ノ西南隅、大阪灣頭ニ位シ、淀川ノ河口
ニ跨ル、大阪府廳此處ニ在リ、人口四十四萬二千六百五十八、東京ニ



又館巧生

大 阪 城

次ク大都會ニシテ、街衢清潔
溝渠四通シ、加フルニ、鐵道東
西ニ通達シテ、水陸ノ運輸極
テ便利ナリ、其地西國・東國ノ
中心ニ當リテ、豪商富家軒ヲ
列テ、四方ノ貨物日夜輻輳ス、
入船千艘出船千艘トハ、其安
治川口出入ノ船舶頻繁ナル
城ヲ形容セシ詞ニシテ、全國物
價ノ一低一昂ハ、概テ準テ大
阪ニ乗ルヲ見ハ、以テ此府ノ
商業上樞要ノ地位ニ立ツコ

トヲ知ルヘシ、市中ニハ大阪城造幣局・天滿神社・四天王寺等ノ如キ、
一見人ヲ驚カスヘキ、宏壯ノ建物亦尠カラス、殊ニ大阪城ハ天正年
間、豐太閤ノ建築セシ所ニシテ、大阪鎮臺其中ニアリ、今ハ僅ニ牙城
ヲ存スルノミナレトモ、壁高ク塹深ク、尙ホ曩時ノ壯大ヲ想起セシ
ムルニ足ル、

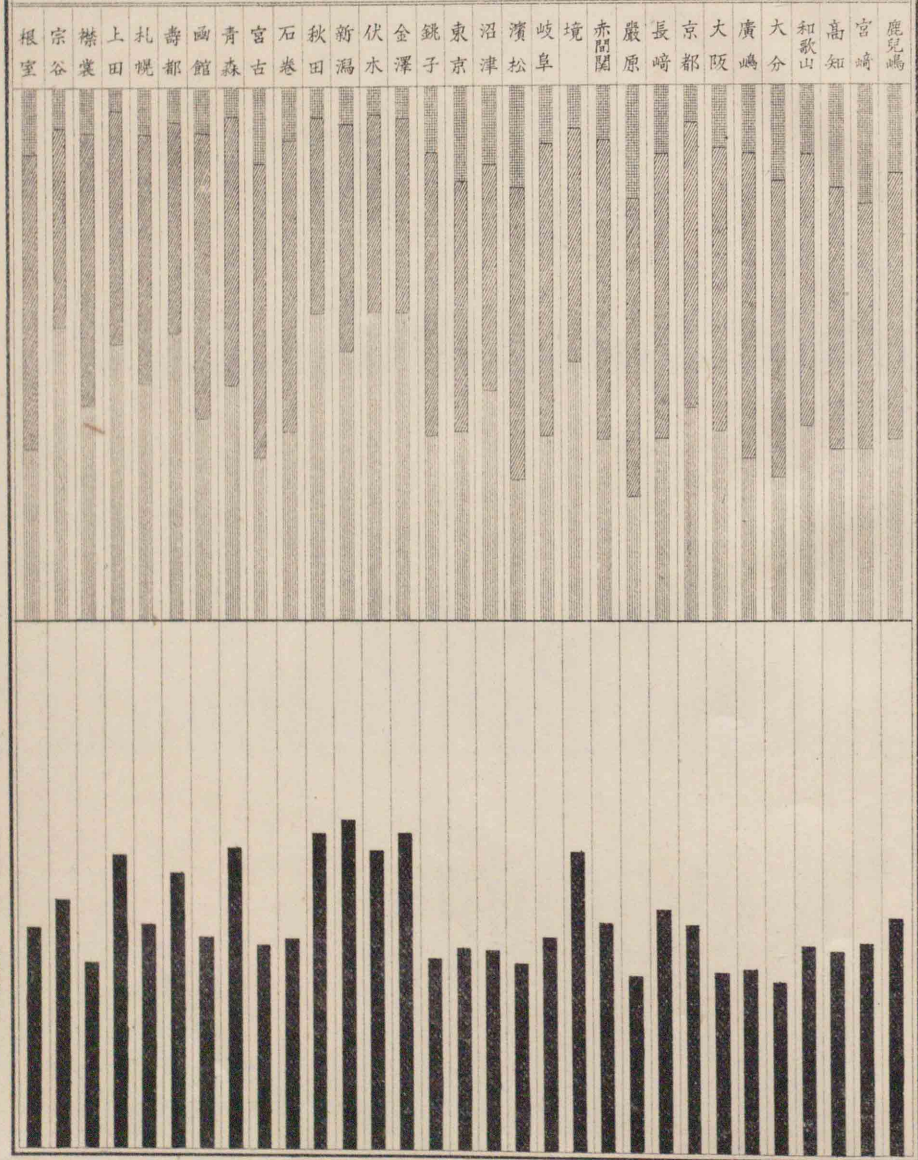
神戸ハ五港ノ一ニシテ、横濱ニ次クノ貿易場タリ、其地攝津ノ西隅
ニアリテ、南ハ海ニ面シ、北ハ山丘ヲ負ヒ、氣候溫暖、西湊川ヲ夾ミテ
兵庫ト市街相連リ、和田岬其西方ヲ擁ス、兵庫縣廳此ニ在リ、元ト兵
庫ト別地ナリシモ、今ハ相合シテ神戸市トナル、人口十一萬五千九
百五十四、港内水深クシテ碇泊ニ便ナルカ故ニ、内外ノ船舶常ニ輻
輳シ、貿易極テ頻繁ニシテ、市街頗ル殷賑ナリ、湊川神社及布引ノ瀑
ハ、共ニ神戸ノ名勝ニシテ、湊川神社ハ湊川ノ東方ニアリ、楠正成ヲ

祀ル、賽客常ニ絶ユルコトナシ、有名ナル七字ノ銘碑ハ社内ニアリ、
 布引ノ瀑ハ神戸市街ヲ距ルコト凡ソ半里、北東摩耶山ノ麓ニアリ、
 雌瀧雄瀧ノ二ツニ分ル、山水絶勝、神戸ノ旅情ヲ慰スルニ餘アリ、
 奈良ハ桓武帝以前、七世八十四年間ノ帝都ニシテ、今尙ホ南都ト
 稱シ、日本美術淵源ノ地タリ、人口二萬四千七百六十三、其地大和ノ
 北隅ニアリテ、山城ニ近ク、奈良縣廳此處ニ在リ、近傍春日社、東大寺
 ノ名勝アリ、春日社ハ春日山ノ麓ニ在リテ、老樹陰森枝ヲ交ヘ、野鹿
 三々五々群ヲナシ、風物清楚ナリ、東大寺ニハ著名ナル奈良ノ大佛
 アリ、五丈三尺ノ坐像ニシテ、聖武帝ノ鑄造ニ係ルト云フ
 堺ハ元ト堺縣廳ノアリシ處ニシテ、人口四萬五千〇〇五、和泉ノ海
 岸大和川ノ口ニアリ、大阪ヲ距ルコト凡ソ五里、鐵道ニ由リテ神戸
 大阪ト相通シ、舟楫又常ニ其間ニ往來ス、此地昔ハ外國トノ互市場

タリ、今猶ホ富商多ク、市街頗ル繁華ニシテ、盛ニ段通ヲ産出ス、
 右ノ外山城ノ伏見、大和ノ郡山、和泉ノ岸和田、攝津ノ尼ヶ崎、西宮等
 ノ如キハ、多少著名ノ都市トナス、左ニ各都市ノ人口表ヲ揭示ス、

山城	京都	二七五、七八〇人
伏見	京都	二〇、六九三人
大和	奈良	二四、七六〇人
郡山	奈良	一二、九三〇人
和泉	堺	四五、〇〇五人
岸和田	和泉	一二、九二七人
攝津	大坂	四四、二六五八人
神戶	大坂	一一、五九五四人
難波	大坂	二三、四六九人
尼ヶ崎	大坂	一二、五三三人
西宮	大坂	一一、二〇九人
天王寺	大坂	一三、七四一人

各 地 天 氣 比 較 圖

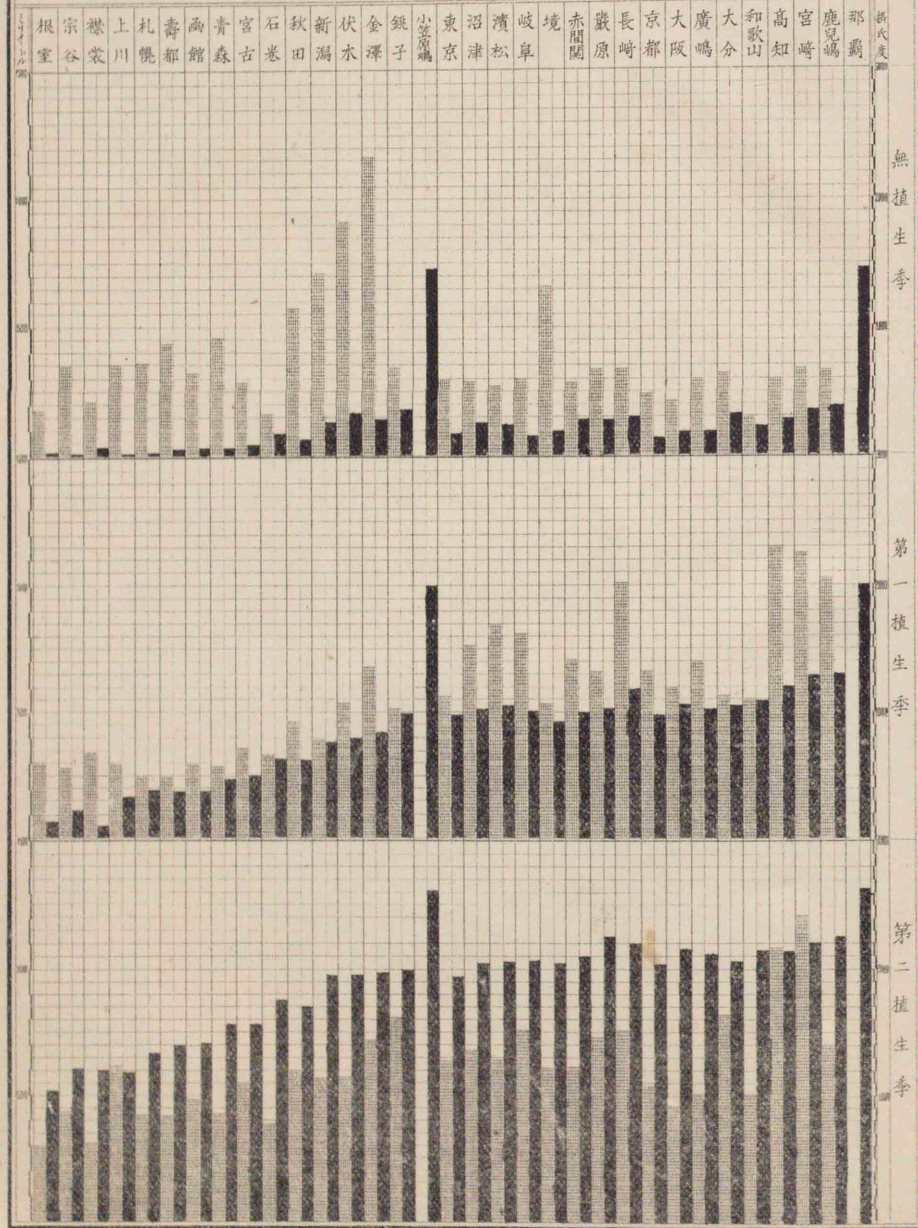


快晴
晴
曇
雨

各 地 天 氣 比 較 圖

農時積算溫度及雨量圖

凡植物之生長發育、收穫時期、皆受溫度及雨量之影響。故欲知植物之生長發育、收穫時期、必先知溫度及雨量之積算。本圖係根據日本氣象廳之資料、將日本各地方之溫度及雨量、按季節積算、繪成此圖。以便農家參考。本圖之溫度、係指日平均溫度之積算。雨量、係指日平均雨量之積算。本圖之季節、係指一月至十二月。本圖之地方、係指根室、宗谷、襟裳、上川、札幌、函館、青森、宮古、石巻、秋田、新潟、伏木、金澤、銚子、小笠原、東京、沼津、濱松、岐阜、境、赤松、長崎、京都、大阪、廣島、大分、和歌山、高知、鹿兒島、那霸。本圖之溫度、係指日平均溫度之積算。雨量、係指日平均雨量之積算。本圖之季節、係指一月至十二月。本圖之地方、係指根室、宗谷、襟裳、上川、札幌、函館、青森、宮古、石巻、秋田、新潟、伏木、金澤、銚子、小笠原、東京、沼津、濱松、岐阜、境、赤松、長崎、京都、大阪、廣島、大分、和歌山、高知、鹿兒島、那霸。



度温 (Dotted pattern) 雨量 (Solid black pattern)

版權所有

(中等地理 地理學 日本誌)

明治廿四年四月十日印刷
全 年四月十七日出版
全 年五月五日印刷
全 年五月十五日出版
全 廿五年五月廿日再版

(地理學 日本誌一)
(日本誌二)

定價金九十錢

編纂者 東京小石川區竹早町七番地 中村五六

印刷行 東京日本橋區本町四丁目十六番地 小林義則

發兌 東京日本橋區本町四丁目十六番地 文學社



大坂東區備後町四丁目
關西賣店
代理 吉岡平助

東京日本橋區通油町
水野慶次郎
賣下所大

東京京橋區南傳馬町二丁目
目黒十郎支店
全

各府縣書店
賣捌所
東京京橋區瀧山町七番地

印刷 瀧關舍

改正小學
校令適用 **新版小學校教科用圖書**

學習院教授
從七位峰是二郎編纂

明治修身書 尋常小學
生徒用 **全四冊** 定價

卷一七錢五厘
卷二九錢五厘
卷三十一錢五厘
卷四十二錢五厘

編纂 **明治修身書** 高等小學
生徒用 **全四冊** 定價

卷一各十三錢
卷二各十五錢
卷三各十五錢
卷四各十五錢

同 同
教 師 用 尋常之部 全 一 冊
高等之部 全 一 冊

本書は教育に關する勅語の本旨に基き。本邦固有の倫理綱常を發揮し。徳性涵養の資に
取らんが爲めに編纂せしものにして。事實の選擇より文字の配合に至るまで。小學校教
科書として。恰當なるは又言ふを要せざるべし。

宮中顧問官西村茂樹題辭
風 當 朔 朗 編纂

日本女鑑 高等小學
女生徒用 **全二冊** 定價

卷一各十五錢 郵稅
卷二各十五錢 六錢

我國女子優美の性は。眞に我國獨占の精華なりかし。此書は著者が美妙なる筆にも
て。以上の徳性を發揮せしむるを目的とし。女子に教ふる嘉言善行を纂めしものなれ
ば。女子教科の用書として。宛ら春天に雨を添ふるの觀あるを見ん。

山縣 悌三郎編纂 **小學國文讀本** 尋常小
學校用 **全八冊**

新 版 廣 告

新 版 廣 告

同 編纂 同

掛圖 全 全二篇

撰擇醇正ならざるの讀本は。肉食の滋功を知りて其質の鮮腐を問はざるものに等しきのみ。此書の特長は。實に其撰擇の宜しきを得しに在り而して文章の平易流暢なるに至りては。亦此書の本特色。題して國文讀本といふもの眞に誣ざるなり。

峰 同 編纂

新定作文書 教師用 全一冊

定價 五十錢 郵税 不要

同 編纂

尋常小學 生徒用 全四冊

定價 各六錢 全

同 編纂

高等小學 生徒用 全四冊

本書の教師用は。小學校に於ける作文教授方の困難を醫せんが爲め。又た生徒用は。作文實習上の良資良補に供せんが爲め。正當なる順序を逐ひ。豊富なる材料を參へしものなれば。教師たらん人。生徒たらん人。共に坐右に欠くべからざるの好伴たり。

岡村 増太郎 編纂

日本地理 尋常小學校用 全二冊

卷一金十錢 郵税 卷二金十二錢 不要

同 編纂

明治地誌 日本誌 全二冊

同 編纂

外國誌 全一冊

新 版 廣 告

同 編纂 同

補習 全一冊

簡明なる文字に寫して。地理の概要を叙説し來り。着々順序あり。難易繁簡其度を失はず。尋常より通じて高等に及ぶ處。一經の連絡齊として貫くを見る。

山縣 悌三郎 編纂

帝國小史 甲 號 全二冊

平易なる概括的の記述。依りて以て歴史の目的と達すべきもの。夫れ此書に存する在るか。彼の年歴類似の歴史の如きは。如何に注意を其篇成の上に置くも。寧ろ其二等に出づ。

理學士高島勝次郎編纂

明治理科書 高等小學校用 全八冊

兒童の目撃し得る處の事物に就きて。之れが理法を簡明の文字に發す。此の如きの編載を以て此書出づ。此書の應用せらるゝ結果知るべきなり。

今泉 雄作 編纂

新定毛筆畫

初歩 二帖 全 八 帖

毛筆を使用するの能は。本邦人特占の長技なり。故に毛筆畫法の如き。邦人の長所にして。隨て其應用の範圍も亦大なり。獨り惜む古來行はるゝ畫法なるものは。實用よりは寧ろ玩好に失し。所謂る豆人寸馬の寫。以て其堂に入れんと爲すの風に沈みしが爲め。小學校に於ける圖畫科の如きも。撮影寫眞的鉛筆畫法を採用することゝなりたり。然れ

新 版 廣 告

とも邦人特占の長技は。其光芒溢れて止らず。近時漸く毛筆書法を改良し。往々之を小學校に應用するものあるを見るに至れり。本書は毛筆書法の改良に與りて錚々の功ある川端玉章氏の揮毫にかゝり。且つその順序程度及び意向の如きは。今泉雄作氏が經驗練磨の功より成れる。教育的の系統を逐ひたるものなれば。之を小學校圖書科用臨本として。宛も手の能く痒きに達するの觀あるを見ん。

中等教科用書

文學士澤柳政太郎 同纂 中等 倫理書 全一冊

人とは何ぞや。人類の目的は何如ん。善惡の標準果してありや。此三ツのものは倫理學の主眼にして。千古未解の一大疑問なり。苟くも之を釋く處あらんと要せば。乞ふ本書を讀め。本書を讀め。

文學士高津敏三郎 同纂 中等 國文學 全四冊

文學士和田萬吉 同纂 中等 國語の成立を知らんと欲せば先づ國語の規則を知れ。國語の規則を知らんと欲せば。先づ國語の沿革を知れ。而して此三ツの要を兼ねるものは本書の特點なり。

中村五六 編纂 中等 地理 日本誌 全一冊 定價 九十錢

同 編纂 中等 地理 萬國誌 全一冊 定價 壹圓十五錢

新 版 廣 告

編纂の順序体裁宜きを得。製圖の精確緻密宜しきを得。繪畫の趣向撰擇宜しきを得たるもの。此書に若くはあらざるべし。是蓋し中等教科として。其價値の存する處なり。

赤田中 稻城 同纂 中等 日本歴史 全二冊 定價各金四十五錢 郵稅各八錢

史に三長あり。三難あり。三長を兼ねて三難を破らずんば。史は眞の史にあらざるなり。其眞の史の眞味如何を知らんとせば。乞ふ此書に徴して之を知れ。

理學士岩川友太郎 編纂 中等 動物學 全一冊

動物の形体性質効用種屬等。精細網羅し盡して餘蘊なし且つ本書は。主として彼の新説なる自然分類に従て立説したれば。時日進の文運に併行するを見る。

理學博士 齊田功太郎 編纂 中等 植物學 全一冊

植物上の説明より。分類上の實地に至るまで。之れを我國の所産に照して記述せしものなれば。夫の杜撰直譯の書と相距る千里！

理學士 西松二郎 編纂 中等 鑛物學 全一冊

専ら筆を其形態上の説明より下し濕法乾法上の分析結果に至るまで論及せしものなれば。要中細を置め。細中要を包み。一目瞭然。熟讀多々の感あるものは。蓋し特色ならん。

○ 學 藝 新 書

新 版 廣 告

文學士澤柳政太郎同纂 **心理學** 第三版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

デカート何が爲めにして我を疑ふか。我已に疑はし。無形の心理亦修め難きかな。此書簡明の字句。流暢の所説。能く此の修め難きを易くす。亦學海の一燈光なり。

文學士三宅雄二郎編纂 **論理學** 第三版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

雄快の筆を染め。論理學的各般の要項を盡して餘す處なし。其章を立つる八。節を分つ五十二。理を助くるに例。例を補ふに圖を以てする處。眞に本書の眞色存するを見る。

文學士澤柳政太郎同纂 **倫理書** 第三版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

自然の大道に據り之を人意の行意に徴して。人の據る可き原則を明にす。苟も倫理の骨子を知らんと欲せば。一たび之を繕きて忽ち之を了するを得ん。

理學士磯野徳三郎編纂 **化學論** 第二版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

化學の原理を明瞭の筆に顯はし。至難の學理を容易の談に説き出すもの。蓋し他書の企及し能はざる處。殆んど本書先占の權といはんか。

理學士岩川友太郎編纂 **動物學** 第二版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅六錢

動物の形狀部分習性効用等。之を説く簡にして畧ならず。精にして冗ならず。要を摘み來りて花爛々。

新 版 廣 告

獨逸理學士 長松篤 編纂 **植物學** 第二版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

曰く植物の形体。曰く構造。曰く組織。曰く生理。曰く蕃殖。曰く分類。是れ本書所説の要領なり。要領を見て茲に其價值を知る。

峯是三郎 同纂 **學校管理法** 第四版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

本書の價值あるは。著者に徴して知るべきなり。而してこの所論。殊に教育學の應用とし之を麗澤に資して餘りあり。

永江正直 編纂 **手工篇** **全一冊**

小學教科中手工の如きは最も緊要にして前途益其發達を圖るべきは勿論なれども其教授法の困難なるが爲め未だ普及の運を見るに至らず此篇は手工教授の要を悉して漏す所なく且つ其材料用具の種類製作の方法等は一々實際的に説述して瞭然火を視るが如く眞に近時希有の珍書なり。

黒田定治 同纂 **授術** 第三版 **全一冊** 金廿五錢 郵稅四錢

編者が實地の經驗あらはれて此理法となる。而して夫の机上の空論と相距る遠きもの此に在り。

久保田貞則 編纂 **教育學** 第四版 **全一冊** 各金廿五錢 郵稅各四錢

新 版 廣 告

如氏を經とし。實驗を緯とし。之を本邦の事情に照らして。縦横に説き來る。誰れが云ふ
本邦ベスタロジナし。本書は即ち其物なり。

原 慶 次 郎 編纂 **單級學校** 附多級學校教授法 **全一冊**

世に單級教授法の書少からずと雖も未だ其要を悉さずして隔靴の歎を免れざる者多し
此篇は乃ち一々實驗に依り要を擧げ術を悉して丁寧親切に説述し凡る單級教授の方法
に於ては細大漏す所なし

鳥居 忱 校 閱 **音樂楷梯** **全一冊** 金廿錢 郵稅二錢
内田 彌 一 譯 **普通音樂談** **全一冊** 金廿錢 郵稅二錢
上 眞 行 閱 **普通音樂談** **全一冊** 金廿錢 郵稅二錢
白井 規矩郎 著述

發 兌

東京市日本橋區本町四丁目

文 學 社



広島大学図書

2000063447

